

青森県立美術館

年報

平成22年度

目次

青森県立美術館の沿革

展覧会

- 006 企画展
- 033 常設展

学芸

- 040 美術資料貸出状況
- 042 作品保存修復

教育普及

- 044 普及プログラム
- 046 スクールプログラム
- 048 サポートスタッフ
- 049 メンバーシッププログラム

パフォーミングアーツ

- 052 演劇
- 056 ダンス
- 058 音楽

サービス等

- 062 貸館
- 064 図書室
- 066 キッズルーム・フリーアトリエ
- 067 博物館実習
- 068 情報システム

資料

- 070 広聴
- 071 入館者数
- 072 運営予算・決算
- 073 組織
- 074 関係規程等
- 078 施設設備概要

青森県立美術館の沿革

1990年3月	美術館の設置について検討を開始することを表明
1991年1月	美術館、音楽・演劇ホール等の複合文化ゾーンである「総合芸術パーク」の検討開始
1996年2月	総合芸術パークの建設場所を三内丸山遺跡に隣接した移転予定の総合運動公園跡地に決定 総合芸術パークの核となる美術館を先行し整備することが決定
1999年度	美術館設計競技を実施、最優秀者に青木淳氏
2000年度	建築基本設計
2001年度	建築実施設計
2002年度	美術館建築工事着工
2003年度	別棟で建築予定であったアトリエとレジデンスを休止、同じく別棟で建築予定であったレストラン、ミュージアムショップを美術館本体に組み込むなどの見直しを行う
2005年9月20日	美術館竣工
2006年3月17日	「運営諮問会議」設置 (青木淳氏、奈良美智氏、逢坂恵理子氏 委員就任)
2006年4月1日	青森県立美術館開館準備室設置
2006年10月17日	「青森県立美術館条例」制定
2006年6月13日	開館プレス発表開催
2006年7月13日	開館(館長 三村 申吾)
2007年7月24日	博物館法に基づく博物館相当施設登録(青森県教育委員会告示第11号)
2007年9月13日	「県民のための美術館づくり懇話会」設置 (塚原隆市氏、鷹山ひばり氏、手塚治氏、風晴史子氏、佐々木健氏、田中博氏、本多信雄氏 委員就任)
2007年11月10日	「美術館ユビキタスシステム」国内の美術館・博物館の中で初導入
2008年7月19日	あおり犬屋外連絡通路開通
2008年7月20日	青森県立美術館2周年記念シンポジウム開催
2009年1月1日	新館長 鷹山ひばり 就任
2010年7月8日	あおり犬えさ皿完成

展覧会

企画展

ローマ展

ロボット展

芸術の青森展

常設展

春のコレクション展

夏のコレクション展

秋のコレクション展

冬のコレクション展

凡例

- 1 出品作品の項は、出品番号、作家・作品名、制作年、材質技法、寸法（高さ×縦×横、cm）、所蔵先の順に記した。
- 2 掲載記事は新聞記事のみを記載している。

古代ローマ帝国の遺産 栄光の都ローマと悲劇の街ポンペイ

開催概要

会期：2010年4月10日(土) - 6月13日(日)

会期中無休

開催日数：65日間

主催：古代ローマ帝国の遺産展実行委員会(青森県立美術館、青森放送、東奥日报社)

後援：外務省、文化庁、イタリア大使館、青森県教育委員会、岩手県教育委員会、秋田県教育委員会、青森県市長会、青森県町村会、NHK青森放送局、エフエム青森、青森ケーブルテレビ

特別協賛：住友金属鉱山

協賛：日本写真印刷

協力：アリタリア-イタリア航空、日本貨物航空

学術協力：東京大学ソマ・ヴェスヴィアーナ発掘調査団

映像協力：凸版印刷

展示協力：テクニカル、今木地製作所、東北デバイス

観覧料：

一般 1,200円(1,000円)、高大生 800円(700円)、小中生 300円(200円)

※()内は前売及び20名以上の団体料金

※アレコホール以外の常設展観覧料は含まない

入場者数

45,622人

展覧会

監修：青柳正規(国立西洋美術館館長/東京大学名誉教授)、ウンベルト・パッパラルド(ナポリ、スオール・オルソラ・ベニンカーサ大学ポンペイ考古学教授)

企画・構成：国立西洋美術館、愛知県美術館、青森県立美術館、北海道立近代美術館、東京新聞

海外コーディネイト：ヴァルター・ウルリッヒ

巡回：国立西洋美術館(東京)

2009年9月19日-12月13日

愛知県美術館(名古屋)

2010年1月6日-3月22日

北海道立近代美術館(札幌)

2010年7月3日-8月12日

展示構成

全出品点数：111点

3章構成

第1章 「帝国の誕生」 (作品数 7点)

ローマ帝国を築き継承していった偉人たちの肖像彫刻を通して、帝国創建前後の大きな変革の時代を概観。

第2章 「アウグストゥスの帝国とその機構」 (作品数 30点)

ローマの歴史や宗教にまつわるさまざまな作品から、帝国全土に平和をもたらしたアウグストゥスの統治の仕組みを探る。

第3章 「帝国の富」 (作品数 74点)

ナポリ近郊の町、ポンペイから出土した華やかな壁画や宝飾品、堅固な社会基盤を髣髴とさせる水道、暖房設備といった数々の展示品から、巨大な帝国の富とそこに生きた人々の暮らしのおどろくべき豊かさを浮かび上がらせる。

関連企画

(1) 第1回記念講演会

「古代ローマ帝国への旅」

日時：2010年4月10日(土) (展覧会初日)

14:00 - 15:30

講師：青柳正規(国立西洋美術館館長/東京大学名誉教授)

入場料無料

参加人数：220名(満席)

(2) 第2回記念講演会

「卵からリンゴまで ポンペイの快樂生活」

日時：2010年5月2日(日) 14:00 - 15:30

講師：宮坂朋(弘前大学人文学部准教授)

入場料無料

参加人数：150名

(3) ボランティアによる展示解説ツアー

・ツアーパターン① 個人を対象に毎日定時で行なう解説ツアー

[平日] 14:00 - [土・日・祝] 11:00 - / 14:00 -

※4月10日(土)と5月2日(日)の14:00 - の回は中止(講演会開催のため)

ツアー参加者数：各回平均 15名

・ツアーパターン② 事前予約を受けた団体のお客様に対する解説ツアー

ツアー参加団体数：4月5件、5月25件、6月12件

合計42件(1,479人)

活動ボランティア数：26名

ボランティア研修指導：高橋しげみ(美術企画課)、細矢久人(教育普及)

展覧会カタログ

仕様：30.0×21.8×1.7 cm、192 頁

監修：青柳正規、芳賀京子（東北大学大学院准教授）

編集：国立西洋美術館、東京新聞

制作：アイメックス・ファインアート

発行：東京新聞

内容：

○ カタログ

第1章 帝国の誕生

第2章 アウグストゥスの帝国とその機構

第3章 帝国の富

○ 主要参考文献

○ 文献略記

執筆者：青柳正規、ステファーン・デ・カーロ、ウンベルト・パッ
パラルド、ルクレツィア・ウンガロ、ロザーリア・チャルディエッ
ロ、高梨光正、飯塚隆、芳賀京子、小泉篤士 他



ポスター



展示風景

「史上最強の国家」と言われる古代ローマ帝国について、初代皇帝アウグストゥスの時代を中心に、帝国の誕生から繁栄の極みまでを、イタリア各地から集めた壁画・彫刻・工芸など全111点の作品で振り返った。

本県で初めて開催される西洋古代の歴史をテーマとした展覧会とあって、見どころとなった大理石の巨大坐像《皇帝座像（アウグストゥス）》や特別出品のブロンズ像《アレツォのミネルヴァ》など、大きな話題をよんだ。

出品作には、ポンペイの遺跡で、「黄金の腕輪の家」と呼ばれる個人の邸宅から出土した、居間を飾る壁画と、食堂に設置されていたモザイクの噴水の実物が含まれていたが、展示室の一室では、最先端のコンピュータ・グラフィックスによる「黄金の腕輪の家」の邸宅の復元映像を放映。鑑賞者からは、展示物の理解が深まった、と好評を得た。

またボランティアによる解説ツアーの開催は、専門的な要素

の強い本展の内容を、かみくだいて鑑賞者に伝えることで、展覧会の主旨の普及に大いに貢献した。また解説ツアーの評判を聞きつけて来場した方々も多く、会期中盤から終盤にかけての集客面で果たした役割は大きいと考えられる。

出品作品

- 1
アウグストゥスの胸像
(オクタウィアヌス・タイプ)
フォンディ (ラツィオ州) 出土
白大理石
高さ620
後1世紀前半
ナポリ国立考古学博物館
- 2
麦穂の冠のドミティアヌス胸像
(アウグストゥスの肖像として再加工)
おそらくヴィーニャ・ガレットティ出土
ベンテリコン産白大理石 (頭部)、イタリア
産白大理石 (胸部)
高さ720 (全体) 290 (頭部)
後81 - 96年、96年以降に再加工
ヴァチカン、ピオ・クレメンティーノ美術館、
「胸像の間」124
- 3
アウグストゥスの頭部
ウェイイ (現ヴェイオ) 出土
ルナ産白大理石
高さ595 (全体) 365 (頭部)
ティベリウス時代
ヴァチカン、キアラモンティ美術館
- 4
ユリウス=クラウディウス一族の若い女性
の胸像
スタビアエ出土
白大理石
高さ420
後1世紀初頭
ナポリ国立考古学博物館
- 5
トガで覆われた男性頭部 (通称〈マルケル
ス〉)
ボンベイ、ウェヌス神殿下の斜面出土
大理石
高さ210
アウグストゥス時代
ボンベイ考古収蔵庫
- 6
アグリッパの胸像
ボンベイ、(217) 出土
白大理石
高さ190 (テラ・シジラータの容器を除く)
前1世紀後半
ナポリ国立考古学博物館
- 7
ガイウス・カエサルの頭部
ヘルクラネウム (現エルコラーノ) 出土
白大理石
高さ320
後1世紀初頭
ナポリ国立考古学博物館
- 8
ルキウス・カエサルあるいはガイウス・カ
エサルの頭部
オステティア近郊、トル・ボアッチャーナ出土
きめの細かいイタリア産白大理石
高さ520 (全体) 230 (頭部)
後1世紀初頭
ヴァチカン、ピオ・クレメンティーノ美術館、
「胸像の間」123
- 9
ティベリウスの胸像
ボンベイ出土
ブロンズ
高さ446
後1世紀前半
ナポリ国立考古学博物館
- 10
皇帝座像 (アウグストゥス)
ヘルクラネウム (現エルコラーノ)、通称「パ
シリカ」の矩形のエクセドラ出土
白大理石
高さ2150
後1世紀中頃
ナポリ国立考古学博物館
- 11
カリアティド
おそらくローマ、アウグストゥス広場出土
きめの細かい白大理石
高さ2210
前1世紀末 - 後1世紀初頭
フィレンツェ国立考古学博物館
- 12
有鬚の男性神の頭部浮彫
おそらくローマ、アウグストゥス広場出土
ルナ産白大理石
高さ620 幅720
前1世紀後半
フィレンツェ、ヴィラ・コルシーニ
- 13
女性像の右足断片
ローマ、アウグストゥス広場出土
ブロンズ、金箔、金鍍金
高さ430 最大幅350 奥行き350
前2年頃
ローマ、皇帝広場博物館
- 14
ヘガスが表された柱頭断片
ローマ、アウグストゥス広場のマルス・ウ
ルトル神殿出土
ルナ産白大理石
高さ450 幅360 奥行き (未完の背面部分
を含む) 340
前2年頃
ローマ、皇帝広場博物館
- 15
ヘガスが表された柱頭断片
ローマ、アウグストゥス広場のマルス・ウ
ルトル神殿出土
ルナ産白大理石
高さ640 幅440 奥行き (背面仕上げ済み)
230
前2年頃
ローマ、皇帝広場博物館
- 16
アレツツォのミネルウァ
アレツツォ、サン・ロレンツォ教会付近出
土
ブロンズ
高さ1505
前3世紀
フィレンツェ国立考古学博物館
- 17
アポロ像
ボンベイ、メナンドロスの家 (104)、
ペリステリウムc 出土
白大理石
高さ1050
後1世紀
ナポリ国立考古学博物館
- 18
竖琴弾きのアポロ
ヘルクラネウム (現エルコラーノ) 出土
フレスコ
縦900 横640
後1世紀後半、第V 様式
ナポリ国立考古学博物館
- 19
アポロが表された把手
ヴェスヴィオ山周辺地域出土
ブロンズ
高さ295
前1世紀 - 後1世紀
ナポリ国立考古学博物館
- 20
アルテミス (ディアナ) 像
ボンベイ、アポロ神殿出土
ブロンズ
高さ560 最大幅480
前2世紀 - 前1世紀
ナポリ国立考古学博物館
- 21
ユピテル・ドリケヌスの胸像
アオスタ近郊、ピッコロ・サン・ベルナル
ド峠 (古代のアルペ・グライア) 出土
銀 (打ち出し)
高さ257 幅225 頭部の高さ132
後2世紀末 - 後3世紀初め
アオスタ州立考古学博物館
- 22
ディオニュソスのフリーズ
ローマ、バラティヌス丘、ドムス・トラン
シトリア、部屋2 出土
フレスコ
縦450 横2000
後1世紀、第V 様式
ナポリ国立考古学博物館
- 23
ディオニュソスのフリーズ
ローマ、バラティヌス丘、ドムス・トラン
シトリア、部屋2 出土
フレスコ
縦450 横2700
後1世紀、第V 様式
ナポリ国立考古学博物館
- 24
イシスの儀式
おそらくヘルクラネウム (現エルコラーノ)
出土
フレスコ
縦950 横920
後1世紀半ば、第V 様式
ナポリ国立考古学博物館
- 25
カノボスのイオ
ボンベイ、オーマル公の家 (M 91) 出土
フレスコ
縦760 横890
後1世紀前半、第II 様式
ナポリ国立考古学博物館
- 26
コブラとアオサギ
ボンベイ、「エビグラムの家」(V 1, 18)、
トリクリニウムk 出土
フレスコ
縦450 横680
後1世紀、第V 様式
ナポリ国立考古学博物館
- 27
犬のシュンクレトゥス
ボンベイ、「エビグラムの家」(V 1, 18)、
トリクリニウムk 出土
フレスコ
縦470 横1100
後1世紀、第V 様式
ナポリ国立考古学博物館
- 28
玉座のデメテル
ボンベイ、「船団の家」(M 10 11)、アト
リウム2 出土
フレスコ
縦890 横760
後1世紀後半、第V 様式
ナポリ国立考古学博物館
- 29
聖なる風景画
ヴェスヴィオ山周辺地域出土
フレスコ
縦450 横430
後1世紀後半、第V 様式
ナポリ国立考古学博物館
- 30
犠牲式の場面
ボルティチ、王宮の厩舎出土
フレスコ
縦760 横580
前1世紀後半、第II 様式
ナポリ国立考古学博物館
- 31
パテラ
ヴェスヴィオ山周辺地域出土
ブロンズ
長さ390 (柄を含む)
後1世紀
ナポリ国立考古学博物館

32 小さなクビドたち ヘルクラネウム(現エルクラーノ)、「鹿の家」 (V 21) 北の回廊、北側 フレスコ 縦29.0 横83.0 後1 世紀後半、第V 様式 ナポリ国立考古学博物館	40 トガ姿の男性像 おそらくポンベイ、ヘルクラネウム門のネ クロポリスで出土 白大理石 高さ149.0 ティベリウス時代 ポンベイ考古収蔵庫	48 ネロのアウレウス金貨 ポンベイ、居酒屋 (14 15) 出土 金 重さ7.12g 直径18mm 後64 -68 年、造幣所：ローマ ナポリ国立考古学博物館	56 ウェスパシアヌスのアウレウス金貨 ポンベイ、居酒屋 (14 15) 出土 金 重さ7.25g 直径19mm 後77 -78 年、造幣所：ローマ ナポリ国立考古学博物館
33 アエディクラの中のクビド ポンベイ出土 フレスコ 縦90.0 横90.0 後1 世紀後半、第V 様式 ナポリ国立考古学博物館	41 アウグストゥスのアウレウス金貨 金 重さ7.80g 直径21 -20mm 前18 -17 / 16 年、造幣所：コロニア・ パトリキア ナポリ国立考古学博物館	49 ネロのアウレウス金貨 ポンベイ、居酒屋 (14 15) 出土 金 重さ7.59g 直径19mm 後59 -60 年、造幣所：ローマ ナポリ国立考古学博物館	57 ティベリウスのアウレウス金貨 ポンベイ、居酒屋 (14 15) 出土 金 重さ7.55g 直径19mm 後36 -37 年、造幣所：ローマ ナポリ国立考古学博物館
34 セリフォス島のダナエ ポンベイ、「エビグラムの家」(1, 18)、 エクセドラ、北壁 フレスコ 縦70.0 横75.0 後1 世紀後半、第V 様式 ナポリ国立考古学博物館	42 アウグストゥスのデナリウス銀貨 銀 重さ3.89g 直径18mm 前25 -23 年、造幣所：エメリタ ナポリ国立考古学博物館	50 ティトゥスを顕彰したウェスパシアヌスの アウレウス金貨 ポンベイ、居酒屋 (14 15) 出土 金 重さ7.31g 直径20mm 後78 -79 年、造幣所：ローマ ナポリ国立考古学博物館	58 ユピテル・アモンの竿秤 ポンベイ出土 ブロンズ 高さ65.0 竿の長さ49.5 皿の直径21.0 後1 世紀 ナポリ国立考古学博物館
35 ディオニュソスとアリアドネ ポンベイ、「新狩猟の家」(MI 1Q 3 14) 出 土 フレスコ 縦101.0 横90.0 後1 世紀後半、第V 様式 ナポリ国立考古学博物館	43 アウグストゥスのデナリウス銀貨 銀 重さ3.37g 直径19mm 前18 年、造幣所：コロニア・パトリキア ナポリ国立考古学博物館	51 ウェスパシアヌスのアウレウス金貨 ポンベイ、居酒屋 (14 15) 出土 金 重さ7.39g 直径19mm 後75 -79 年、造幣所：ローマ ナポリ国立考古学博物館	59 アフリカの擬人像の竿秤 ポンベイ出土 ブロンズ 高さ51.0 竿の長さ47.0 皿の直径19.0 後1 世紀 ナポリ国立考古学博物館
36 酩酊のヘラクレス ポンベイ、「鉄のかまどの家」(M 13 6)、 タブリヌム7 フレスコ 縦85.0 横105.0 後1 世紀、第V 様式 ナポリ国立考古学博物館	44 アウグストゥスのデナリウス銀貨 銀 重さ3.85g 直径19mm 前25 -23 年、造幣所：コロニア・パトリ キア ナポリ国立考古学博物館	52 ウェスパシアヌスのアウレウス金貨 ポンベイ、居酒屋 (14 15) 出土 金 重さ7.31g 直径20mm 後73 年、造幣所：ローマ ナポリ国立考古学博物館	60 鍾(おもり) ポンベイ出土 ブロンズ、鉛 高さ24.0 長さ30.0 後1 世紀 ナポリ国立考古学博物館
37 ヘラクレスとオンファレ ヴェスヴィオ山周辺地域出土 フレスコ 縦40.0 横41.0 後1 世紀後半、第V 様式 ナポリ国立考古学博物館	▼45 57 ポンベイの居酒屋 (14 15) 出土の13 枚 の蓄財金貨	53 ガルバのアウレウス金貨 ポンベイ、居酒屋 (14 15) 出土 金 重さ7.29g 直径20mm 後68 -69 年、造幣所：ローマ ナポリ国立考古学博物館	61 壺を持ち運ぶための容器 ポンベイ出土 テラコッタ 高さ15.0 長さ22.5 後1 世紀 ナポリ国立考古学博物館
38 セレネとエンデュミオン ポンベイ (V 5 10)、部屋q、北壁 フレスコ 縦71.0 横71.0 後1 世紀後半、第V 様式 ナポリ国立考古学博物館	45 ネロのアウレウス金貨 ポンベイ、居酒屋 (14 15) 出土 金 重さ7.24g 直径19mm 後65 -66 年、造幣所：ローマ ナポリ国立考古学博物館	54 ウェスパシアヌスのアウレウス金貨 ポンベイ、居酒屋 (14 15) 出土 金 重さ7.42g 直径20mm 後69 -71 年、造幣所：ローマ ナポリ国立考古学博物館	62 壺(大) ポンベイ出土 ガラス 高さ16.0 底部直径7.5 後1 世紀 ナポリ国立考古学博物館
39 骨壺 ポンベイ出土 ガラス 高さ36.0 (蓋を除く) 口縁部の直径30.0 後1 世紀 ナポリ国立考古学博物館	46 ネロのアウレウス金貨 ポンベイ、居酒屋 (14 15) 出土 金 重さ7.36g 直径18mm 後64 -68 年、造幣所：ローマ ナポリ国立考古学博物館	55 ウェスパシアヌスのアウレウス金貨 ポンベイ、居酒屋 (14 15) 出土 金 重さ7.37g 直径18mm 後72 -73 年、造幣所：ローマ ナポリ国立考古学博物館	63 壺(小) ポンベイ出土 ガラス 高さ11.0 底部直径7.5 後1 世紀 ナポリ国立考古学博物館

64 エウマキアの像 ポンベイ、「エウマキアの建物」(MI 9 1) 大理石 高さ194.0 後1世紀初頭 ナポリ国立考古学博物館	70-3 皿 最大径19.5 (把手を含む) 口縁部直径 16.6 高さ2.6 重さ275g 後1世紀 ポンベイ考古収蔵庫	70-13 小カップ 高さ7.15 (把手を含む) 口縁部直径7.4 重さ113g 後1世紀初頭 ポンベイ考古収蔵庫	73 真珠の耳飾り ポンベイ、「アルキの家」出土 (17, 4) 金、真珠 高さ4.3 -4.5 幅1.3 真珠の直径約0.7 後1世紀 ナポリ国立考古学博物館
65 アウグストゥスの胸像 ヘルクラネウム (現エルコラーノ) 出土 ブロンズ 高さ13.5 (台座を除く) 後1世紀前半 ナポリ国立考古学博物館	70-4 皿 最大径19.8 (把手を含む) 口縁部直径 16.8 高さ2.8 重さ278g 後1世紀 ポンベイ考古収蔵庫	70-14 小卓 高さ3.4 長さ11.5 幅7.0 重さ102g 後1世紀初頭 ポンベイ考古収蔵庫	74 半球モチーフの耳飾り ポンベイ周辺地域、モレジネ地区出土 金 長さ3.2 重さ2.78g / 2.88g 前1世紀-後1世紀 ナポリ国立考古学博物館
66 デメトリオス・ポリオルケテスの小像 ヘルクラネウム (現エルコラーノ) 出土 ブロンズ 高さ33.0 幅17.0 後1世紀 ナポリ国立考古学博物館	70-5 皿 最大径19.7 (把手を含む) 口縁部直径 16.5 高さ2.7 重さ262g 後1世紀 ポンベイ考古収蔵庫	70-15 小卓 高さ3.1 長さ11.4 幅6.8 重さ104g 後1世紀初頭 ポンベイ考古収蔵庫	75 真珠の耳飾り ヴェスヴィオ山周辺地域出土 金、真珠 高さ3.0 長さ1.0 重さ4.70g / 4.35g 前1世紀-後1世紀 ナポリ国立考古学博物館
67 バルテウス (馬の胸懸) アオスタ、第59 街区出土 ブロンズ 高さ20.7 幅43.0 後2世紀半ば アオスタ州立考古学博物館	70-6 カップ 高さ9.8 (把手を含む) 口縁部直径10.0 重さ172g 後1世紀初頭 ポンベイ考古収蔵庫	70-16 小卓 高さ3.0 長さ11.5 幅7.2 重さ98g 後1世紀初頭 ポンベイ考古収蔵庫	76 首飾り オプロンティス (現トッレ・アンヌンツィ アータ)、別荘B、部屋10、人骨27 から 発見 金 長さ1.39.6 後1世紀 ナポリ国立考古学博物館
68 スフィンクスのテーブル脚部 ポンベイ、「大きな祭壇の家」(M 16 15) 出土 ブロンズ 高さ77.0 台の幅53.0 前1世紀後半 ナポリ国立考古学博物館	70-7 カップ 高さ9.75 (把手を含む) 口縁部直径10.0 重さ183g 後1世紀初頭 ポンベイ考古収蔵庫	70-17 小卓 高さ3.5 長さ10.9 幅1.7 重さ87g 後1世紀初頭 ポンベイ考古収蔵庫	77 首飾り オプロンティス (現トッレ・アンヌンツィ アータ)、別荘B、部屋10、人骨27 から 発見 金、エメラルド 長さ58.0 後1世紀 ナポリ国立考古学博物館
69 金のランプ ポンベイ、ウェヌス神殿の区域出土 金 高さ6.9 長さ26.65 直径12.85 重さ896.94g 後1世紀 ナポリ国立考古学博物館	70-8 カップ 高さ9.7 (把手を含む) 口縁部直径10.1 重さ185g 後1世紀初頭 ポンベイ考古収蔵庫	70-18 スプーン 長さ14.6 幅2.6 重さ11g 後1世紀 ポンベイ考古収蔵庫	78 首飾り ポンベイ出土 金、エメラルド、真珠母貝 長さ34.5 後1世紀 ナポリ国立考古学博物館
70 モレジネの銀器一式 ポンベイ、モレジネ地区、「トリクリニウムの建物」出土 銀 ポンベイ考古収蔵庫	70-9 カップ 高さ9.7 (把手を含む) 口縁部直径10.1 重さ200g 後1世紀初頭 ポンベイ考古収蔵庫	70-19 カンタロス (酒杯) 高さ12.5 (把手を含む) 口縁部直径10.0 重さ385g 前40年 ポンベイ考古収蔵庫	79 宝石つきのペンダント ポンベイ、ユリア・フェリクスの家 (4) 金、エメラルド、真珠 長さ36.3 留め具部分1.0×1.0 後1世紀 ナポリ国立考古学博物館
70-1 大皿 (ランクス) 最大径29.2 (把手を含む) 口縁部直径 24.5 高さ1.9 重さ421g 前1世紀後半 ポンベイ考古収蔵庫	70-10 小カップ 高さ6.8 (把手を含む) 口縁部直径7.5 重さ109g 後1世紀初頭 ポンベイ考古収蔵庫	70-20 カンタロス (酒杯) 高さ12.35 (把手を含む) 口縁部直径10.0 重さ375g 前40年 ポンベイ考古収蔵庫	72 宴会場面 ヘルクラネウム (現エルコラーノ) 出土 フレスコ 65.0×66.0 後1世紀後半、第V 様式 ナポリ国立考古学博物館
70-2 皿 最大径19.8 (把手を含む) 口縁部直径 16.8 高さ2.8 重さ281g 後1世紀 ポンベイ考古収蔵庫	70-11 小カップ 高さ7.1 (把手を含む) 口縁部直径7.3 重さ107g 後1世紀初頭 ポンベイ考古収蔵庫	72 ブッラ ヘルクラネウム (現エルコラーノ) 出土 金 高さ6.0 重さ20.14g 前1世紀 ナポリ国立考古学博物館	80 腕輪 オプロンティス (現トッレ・アンヌンツィ アータ)、別荘B、部屋10、人骨9 から発見 金 直径7.9 浮彫面1.7×1.4 後1世紀 ナポリ国立考古学博物館

81 半球モチーフの腕輪 ボンベイ出土 金 長さ220 重さ54.71g 前1世紀-後1世紀 ナポリ国立考古学博物館	89 シレノスのカンデラブルム（卓上型ランプ台） ヘルクラネウム（現エルコラーノ）出土 ブロンズ 高さ61.5 台の直径26.5 前1世紀後半 ナポリ国立考古学博物館	97 円形の鼎 ヴェスヴィオ山周辺地域出土 ブロンズ 高さ68.0 台の直径41.0 前1世紀 ナポリ国立考古学博物館	105 馬の頭部のついたオイノコエ ヴェスヴィオ山周辺地域出土 ブロンズ 高さ29.0 脚部直径8.5 後1世紀 ナポリ国立考古学博物館
82 蛇をかたどった腕輪 ヴェスヴィオ山周辺地域出土 金 直径7.6 重さ340.33g 後1世紀 ナポリ国立考古学博物館	90 3つの火口のあるランプ ヘルクラネウム（現エルコラーノ）出土 ブロンズ 高さ58.3 幅32.0 前1世紀 ナポリ国立考古学博物館	98 鉛製フィルター ボンベイ、「M・ファビウス・ルプスの家」(MI 16.22) 出土 鉛 長さ16.0 直径18.8 後1世紀 ボンベイ考古収蔵庫	106 女性頭部をかたどったオイノコエ ヴェスヴィオ山周辺地域出土 ブロンズ、銀と銅の象眼細工 高さ22.5 脚部直径8.6 後1世紀 ナポリ国立考古学博物館
83 双頭の蛇の指輪 ボンベイ出土 金 直径2.7 重さ33.73g 後1世紀 ナポリ国立考古学博物館	91 カンデラブルム（スタンド型ランプ台） ボンベイ出土 ブロンズ 高さ48.5 最大幅32.0 後1世紀 ナポリ国立考古学博物館	99 水道の弁 ボンベイ出土 ブロンズと鉛 高さ25.0 長さ34.5 後1世紀 ナポリ国立考古学博物館	107 剣闘士のシトゥラ ヴェスヴィオ山周辺地域出土 ブロンズ 高さ33.0 直径33.0 前2世紀-前1世紀 ナポリ国立考古学博物館
84 ザクロ石の指輪 ボンベイ、ユリア・フェリクスの家 (II 4) 金、ザクロ石 最大直径1.65 後1世紀初頭 ナポリ国立考古学博物館	92 カンデラブルム（スタンド型ランプ台） ヴェスヴィオ山周辺地域出土 ブロンズ 高さ164.0 受け皿の直径15.0 底部の直径32.0 後1世紀 ナポリ国立考古学博物館	100 水道の弁 ボンベイ出土 ブロンズと鉛 高さ24.0 長さ30.4 後1世紀 ナポリ国立考古学博物館	108 鉄の熊手 ボンベイ、出土場所の詳細不明 鉄 高さ5.2 長さ30.0 幅15.5 後1世紀 ボンベイ考古収蔵庫
85 縞メノウの指輪 ヴェスヴィオ山周辺地域出土 金、縞メノウ 直径2.0 重さ16.91g 前1世紀-後1世紀 ナポリ国立考古学博物館	93 壺形のサモワール ボンベイ出土 ブロンズ 高さ68.0 幅68.0 後1世紀 ナポリ国立考古学博物館	101 水盤（ラブルム） ボンベイ、「メナンドロスの家」(I Q. 4) 出土 ブロンズ 高さ18.5 最大直径98.0（ブロンズ部分のみ） 前1世紀 ボスコレアーレ、アンティクアリウム	109 鉄の鍬（くわ） ボンベイ、「メナンドロスの家」(I Q. 4) 出土 鉄 高さ7.5 長さ29.5 幅33.0 後1世紀 ボンベイ考古収蔵庫
86 シレノスのカンデラブルム（卓上型ランプ台） ボンベイ出土 ブロンズ 高さ32.5 最大幅36.0 後1世紀 ナポリ国立考古学博物館	94 サモワール ボンベイ出土 ブロンズ 高さ44.0 最大幅32.5 後1世紀 ナポリ国立考古学博物館	102 エロスの噴水彫刻 ボンベイ出土 ブロンズ 高さ63.0 台座の直径28.0 後1世紀 ナポリ国立考古学博物館	110 庭ばさみ ボンベイ、「メナンドロスの家」(I Q. 4) 部屋43 出土 ブロンズ、鉄 長さ30.0 後1世紀 ボンベイ考古収蔵庫
87 ランプ ボンベイ出土 ブロンズ 高さ6.7 長さ11.5 前1世紀-後1世紀 ナポリ国立考古学博物館	95 円形の火鉢 ヴェスヴィオ山周辺地域出土 ブロンズ 高さ32.0 直径41.0 後1世紀 ナポリ国立考古学博物館	103 アンフォラ ボンベイ出土 ブロンズ 高さ54.0 口縁部の直径22.0 後1世紀 ナポリ国立考古学博物館	111 庭園の風景（南壁） ボンベイ、西の街区、「黄金の腕輪の家」(M 17.42)、部屋32 出土 フレスコ 腰羽目高さ85.0 幅357.0 中間部高さ200.0 幅357.0 上部高さ94.0 幅357.0 ユリウス=クラウディウス朝時代、第II 様式、IIb 期 ボスコレアーレ、アンティクアリウム
88 ランプ ボンベイ出土 ブロンズ 高さ7.5 長さ11.5 前1世紀-後1世紀 ナポリ国立考古学博物館	96 スフィンクスの鼎（かなえ） ヘルクラネウム（現エルコラーノ）出土 ブロンズ 高さ94.0 幅46.0 後1世紀前半 ナポリ国立考古学博物館	104 リュトン ボンベイ出土 ブロンズ 高さ18.0 口縁部の直径13.0 前3世紀-前1世紀 ナポリ国立考古学博物館	

112

庭園の風景（東壁）

ボンベイ、西の街区、「黄金の腕輪の家」(M

17, 42)、部屋32 出土

フレスコ

腰羽目 高さ85.0 幅275.0 中間部 高さ

200.0 幅275.0 上部高さ94.0 幅275.0

ルネッタ高さ100.0 幅275.0

ユリウス= クラウディウス朝時代、第II 様

式、IIb 期

ボスコレアーレ、アンティクアリウム

113

モザイクの噴水

ボンベイ、西の街区、「黄金の腕輪の家」(M

17, 42)、トリクリニウム31

多色モザイク（練りガラスと貝殻）

高さ240.0 幅200.0 奥行き177.0

ユリウス= クラウディウス朝時代、第II 様

式、IIb 期

ボスコレアーレ、アンティクアリウム

114

ラオメドンの宮廷

テルツイーニョ（ナポリ県）、ラニエリ碎石

場、「別荘6」出土

フレスコ

縦184.0 横350.0

前1 世紀後半、第I 様式

ボスコレアーレ、アンティクアリウム

115

格子文のモザイク

ボスコレアーレ、「P・ファンニウス・シュ

ニストルの別荘」出土

モザイク

縦198.0 横193.0

前1 世紀中頃、第I 様式

ボスコレアーレ、アンティクアリウム

116

豹を抱くディオニュソス

ソンマ・ヴェスヴィアーナ、ステルツァ・

デッラ・レジーナ地区出土

白大理石

高さ152.0（現存部分106.0）

前1 世紀—後1 世紀

ノーラ考古学博物館

117

ヘブロスを着た女性（ヘプロフォロス）

ソンマ・ヴェスヴィアーナ、ステルツァ・

デッラ・レジーナ地区出土

白大理石

高さ116.0（うち台座8.0）

後2 世紀

ノーラ考古学博物館

ロボットと美術 機械 × 身体のビジュアルイメージ

開催概要

会期：2010年7月10日（土）－8月29日（日）

開催日数：51日間

主催：ロボットと美術展青森実行委員会

（青森県立美術館、青森朝日放送株式会社、陸奥新報社）

後援：青森県教育委員会、NHK青森放送局、エフエム青森、
青森ケーブルテレビ

助成：財団法人地域創造

協賛：静岡模型教材協同組合、株式会社タミヤ

協力：株式会社キャラアニ

観覧料：

一般1,000円（900円）、高大生700円（600円）、小中生
300円（200円）

※（ ）内は前売り券及び20名以上の団体料金

※アルコール以外の常設展観覧料は含まない

入場者数

25,076人

展示構成

○序章：ロボット以前——動く「ひとがた」の夢

カレル・チャペックの戯曲『RUR』で「ロボット」という言葉と概念が生まれる以前から、ロボットのようなモチーフは神話や伝承、物語に数多く登場し、また実際に制作も試みられていた。ここでは文献資料をもとに、人々が動く「ひとがた」をどのように夢想してきたかをふりかえった。

○第一部：戦前——ロボットの誕生と同時代文化

ロボットの概念が移入された1920、30年代の日本では、科学、文学、演劇、美術といったあらゆるジャンルにロボットが登場した。このコーナーでは日本の戦前・戦中期のロボットのありようを紹介するとともに、ロボットを受容した社会の一面を示す20世紀初頭の実験的芸術作品を展示した。

○第二部：戦後Ⅰ——大衆文化の興隆と戦後美術の動向

戦後日本のロボットは、大衆文化の中で大きく発展した。このコーナーでは、漫画やアニメ、玩具を中心とする資料とともに、戦前の動向を引き継いだ美術作品を展示し、ロボットと戦後美術、そして大衆文化がどのように息づいているかを検証した。

○第三部：戦後Ⅱ——ロボットイメージの現在 ロボティクスからアートまで

20世紀末には、大衆文化としてのロボットが大きく展開するとともに、現実の二足歩行ロボットの技術も長足の進歩を遂

げた。これらの成果を踏まえ、ロボットと通じて人間を理解しようとする研究が登場したり、社会におけるロボットのなるものあり方を考える現代美術作家やデザイナーが登場している。このコーナーでは、ロボティクス（ロボット学）として進歩を続けるロボット研究の成果を資料等で紹介するとともに、ロボット文化の多様な発達を反映した美術作品を展示し、現代日本の文化にロボットがどのように息づいているかを検証した。

また日本のアニメーションにおいて重要なモチーフとなっているロボットをテーマにした本展オリジナルのアニメーション作品も上映した。

関連事業

7月11日 ワークショップ

「ロボ美オリジナルロボットペーパークラフトを動かそう！」
（参加者28名）

7月24日 ワークショップ

「鉄板でつくろう！ロボットオブジェ」（参加者10名）

7月27日 併設企画「ロボ美+」オープン

（8月15日まで、観覧者数5,670名）

8月8日 ワークショップ

「夏休みわくわくロボット工作教室」（参加者56名）

8月15日 上田信記念講演会（聴講者72名）

8月20日 オープンアトリエ

「ロボットプラモを作ろう」（参加者65名）

展覧会カタログ

仕様：29.7 x 21.0 x 0.9cm、157頁

企画構成：川西由里（島根県立石見美術館）、工藤健志（青森県立美術館）、村上敬（静岡県立美術館）

テキスト：井上晴樹、瀬名秀明、テクノタク飯塚、山本寛、川西由里、工藤健志、村上敬

デザイン・編集：宗利淳一デザイン、高橋賢

印刷・製本：図書印刷株式会社

発行：株式会社講談社



ポスター



展示風景

ロボットの歴史を総括する企画として、ロボット工学やSFロボットのみならず、美術、演劇、映画、文学とのかかわりの中でロボットを検証し、そのイメージに託された意図を探ると同時に、歴史的展開を紹介した。

展示においてはロボットの実機や映像の他、未来派、キュビズム、ロシア構成主義等の美術作品の他、雑誌等の印刷文化や身体をモチーフにしたデザインや現代美術等を展示した。

本展は、20世紀に生み出された「ロボット」をメインモチーフとしてとりあげることにより、科学技術と芸術、そして私たちの身体観の相互的な結びつきを明らかにしようとする試みである。

出品作品

序章

1
「フランク・リードと平原の蒸気人間」
ルイス・P・セナレンズ著、1945年の復刻版
1883
個人蔵

2
「ビノッキオ あるあやつり人形の冒険」
カルロ・コッローディ原作
1904 初版
和歌山県立近代美術館

3
「ビノチオ」
佐藤春夫著、鎌倉文庫発行
1948
和歌山県立近代美術館

4
「機巧図彙」
細川半蔵頼直著、複製
1796
愛知山車祭り研究会
横井 誠

5
七代目玉屋庄兵衛
茶運び
愛知山車祭り研究会
横井 誠

6
オートマトン
(株)タミヤ

7
盃運びからくり人形
(株)タミヤ

第一章

8
「RUR」第4版
カレル・チャペック著
1922
和歌山県立近代美術館

9
「RUR」第6版
カレル・チャペック著
1924
和歌山県立近代美術館

10
「RUR」ロシア語初版
カレル・チャペック著
1924
和歌山県立近代美術館

11
「RUR」ハンガリー語版
カレル・チャペック著
1922
和歌山県立近代美術館

12
「人造人間」
カレル・チャペック著、宇賀伊津緒訳
1923
個人蔵

13
「ロボット」
カレル・チャペック著、鈴木善太郎訳
1924
島根県立石見美術館

14
築地小劇場「人造人間」舞台写真
1924
早稲田大学坪内博士演劇博物館

15
ウンベルト・ボッチオーニ
空間の中の一つの連続する形
1913
ブロンズ
116.0×90.0×42.0
彫刻の森美術館

16
石垣栄太郎
鞭打つ
1925
油彩、キャンバス
145.5×106.5
京都国立近代美術館

17
ジャコモ・バッラ
輪を持つ女の子
1915
油彩、キャンバス
51.0×60.5
ふくやま美術館

18
東郷青児
帽子をかむった男(歩く女)
1922
油彩、キャンバス
60.9×49.9
名古屋市美術館

19
コンスタンティン・ブランクーシ
ポガニー嬢II
1925
磨きブロンズ、砂岩
57.0×18.0×26.0
静岡県立美術館

20
アレクサンダー・アーキベンコ
《化粧する女》習作
1913
ブロンズ、木の台座
42.5×36.0×32.5
静岡県立美術館

21
荻島安二
日本髪
1938
ブロンズ
20.0×23.0×17.0
東京国立近代美術館

22
仲田定之助
女の首
1924
白銅
43.8×21×23.5
東京国立近代美術館

23
トゥール・ドナ
ダンス
不詳
油彩、板
90.2×42.2
池田20世紀美術館

24
坂田一男
祭壇の男
1926
油彩、キャンバス
80.0×60.0
静岡県立美術館

25
『マヴォ』第1-3号
村山知義 編集、発行
1924
冊子
京都国立近代美術館

26
村山知義
『人間機械』
村山知義著、春陽堂
1926
冊子
島根県立石見美術館

27
『松竹座ニュース』
冊子
大阪市立近代美術館建設準備室

28
『松竹座ニュース』
冊子
和歌山県立近代美術館

29
矢部友衛
裸婦
1923-24
油彩、キャンバス
99.0×71.0
會津八一記念博物館

30
東郷青児
婦人像
1928-35頃
油彩、キャンバス
65.0×53.0
島根県立石見美術館

31
ソニア・ドローネー
『絵画・オブジェ・同時的テキスタイル・モード』11 衣装「ガスで動く心臓」
20枚組版画集のうち
1923-24
ポショワール、紙
57.0×38.5
島根県立石見美術館

32
エル・リシツキー
『太陽の征服』
10枚組石版画集
1920-22
リトグラフ、紙
53.4×45.4
大阪市立近代美術館建設準備室

33
江口隆哉・宮操子
『物体舞踊』舞台写真
1935
日本女子体育大学

34
ジナイダ・ベレビッチ
ロシア・アヴァンギャルド期のテキスタイルデザイン
1920代
水彩、紙
33.2×25.1
島根県立石見美術館

35
ナゼレビッチ
ロシア・アヴァンギャルド期のテキスタイルデザイン
制作年不詳
水彩、紙
25.1×17.0
島根県立石見美術館

36
不詳
ロシア・アヴァンギャルド期のテキスタイルデザイン
1930
水彩、紙
30.3×34.8
島根県立石見美術館

37
アナスタシヤ・シュイキナ
ロシア・アヴァンギャルド期のテキスタイルデザイン
1929
水彩、紙
33.0×35.7
島根県立石見美術館

38 ジナイダ・ベレビッチ ロシア・アヴァンギャルド期のテキスタイルデザイン 制作年不詳 水彩、紙 260×20.5 島根県立石見美術館	48 浅草松竹座ニュース 1929 個人	59 マックス・エルンスト 『流行に栄えあれ、芸術よ墜ちろ』8枚組版 画集 1919 リトグラフ、紙 45.5×33.0 広島県立美術館	67 花和銀吾 複雑なる想像 1933 コラージュ・アッサンブラージュ 39.2×45.2×6.5 大阪市立近代美術館建設準備室
39 不詳 ロシア・アヴァンギャルド期のテキスタイルデザイン 1931 水彩、紙 42.5×35.0 島根県立石見美術館	50 池袋平和館プログラム 1929 個人	60 ハンス・ベルメール 人形 1936 -49 ゼラチン・シルバープリント、手彩色 14.0×14.0 島根県立美術館	68 前田藤四郎 脚と機械（廊下に立つ婦人） 1928 頃 リノカット、紙、額装 15.5×25.5 大阪市立近代美術館建設準備室
40 不詳 ロシア・アヴァンギャルド期のテキスタイルデザイン 制作年不詳 水彩、紙 39.6×31.2 島根県立石見美術館	51 南明座プログラム 1929 個人	61 ハンス・ベルメール 人形 1935 -37 ゼラチン・シルバープリント 31.4×29.8 島根県立美術館	69 前田藤四郎 聴覚 1929 リノカット、紙 24.5×37.5 大阪府立現代美術センター
41 不詳 ロシア・アヴァンギャルド期のテキスタイルデザイン 1930 水彩、紙 36.5×30.0 島根県立石見美術館	52 武蔵野館プログラム 1929 個人	62 ハンス・ベルメール 人形 1935 頃 ゼラチン・シルバープリント、手彩色 17.2×17.1 島根県立美術館	70 前田藤四郎 美女と野獣 1930 リノカット、紙 28.0×40.0 大阪府立現代美術センター
42 ナゼレビッチ ロシア・アヴァンギャルド期のテキスタイルデザイン 制作年不詳 水彩、紙 23.0×19.4 島根県立石見美術館	53 『メトロポリス』単行本 個人	63 川崎亀太郎 マヌカンC 1940 頃 ゼラチン・シルバープリント 29.0×23.0 大阪市立近代美術館建設準備室	71 高井貞二 感情の遊離 1932 油彩、キャンバス 150.7×91.0 和歌山県立近代美術館
43 『メトロポリス』プロモーション用パンフレット 1929 個人	54 『映画評論 フリッツ・ラング研究』 個人	64 ジョルジョ・デ・キリコ 広場での二人の哲学者の遭遇 1972 油彩、キャンバス 80.0×60.0 ふくやま美術館	72 谷中安規 実験室 1931 頃 木版、紙 21.1×15.0 京都国立近代美術館
44 『メトロポリス』『キネマ旬報』挟み込み広告 1929 個人	55 前田藤四郎 時計 1932 リノカット・銅版凸版、紙 26.5×34.0 大阪府立現代美術センター	65 岡本唐貴 ベシシストの祝祭 1924 / 73 油彩・キャンバス 162.2×130.3 兵庫県立美術館	73 古賀春江 現実線を切る主智主義 1931 油彩、キャンバス 西日本新聞社
45 『メトロポリス』『キネマ旬報』挟み込み広告 1929 個人	56 鷹山宇一 機械と虫 1930 木版・紙 34.0×35.0 七戸町立鷹山宇一記念美術館	66 河辺昌久 メカニズム 1924 油彩・コラージュ、キャンバス 65.2×53.0 板橋区立美術館	74 學天則 模型 大阪市立科学館
46 『メトロポリス』邦楽座プログラム 1929 個人	57 鷹山宇一 機械と鳥 不詳（1930 頃） 木版・紙 34.0×35.0 七戸町立鷹山宇一記念美術館		
47 『松竹座グラフィック』第10巻第3号 1929 個人	58 鷹山宇一 失題 1946 木版・紙 32.0×36.0 七戸町立鷹山宇一記念美術館		

第二章

- 75
大辻清司
《eyewitness》より バレエ実験劇場「未来のイヴ」舞台風景
構成・演出 川路明、振付 松尾明美、音響 黛敏郎、武満徹、美術 北代省三、照明 今井直次
1955 / 2008 モダンプリント制作(三浦和人)
バライタ紙・ゼラチン、シルバープリント
151×231
川崎市岡本太郎美術館
- 76
大辻清司
《eyewitness》より バレエ実験劇場「未来のイヴ」の舞台模型
構成・演出 川路明、振付 松尾明美、音響 黛敏郎、武満徹、美術 北代省三、照明 今井直次
1955 / 2008 モダンプリント制作(三浦和人)
バライタ紙・ゼラチン、シルバープリント
157×231
川崎市岡本太郎美術館
- 77
村岡三郎
鉄板を持つ手
1960 / 1978 再制作
鉄
750×350×140
個人
- 78
村岡三郎
あやとり
1960 / 1978 再制作
鉄
1000×550×250
東京都現代美術館
- 79
中村宏
似非的機械
1971
油彩・キャンバス
1622×1303
練馬区立美術館
- 80
中村宏
観光独裁
1965
油彩・キャンバス
1303×1601
青森県立美術館
- 81
中村宏
F601 機
1970
紙・インク
365×523
名古屋市美術館
- 82
中村宏
少女列車
1970
紙・インク
368×525
名古屋市美術館
- 83
中村宏
少女トロッコ
1971
紙・インク
27.0×38.2
名古屋市美術館
- 84
中村宏
乗物尽絵 表紙
1970
紙・墨、インク
38.4×26.4
名古屋市美術館
- 85
中村宏
乗物尽絵 キャタピラ
1970
紙・墨、インク
38.3×27.0
名古屋市美術館
- 86
中村宏
乗物尽絵 飛行機
1970
紙・墨、インク
38.2×26.6
名古屋市美術館
- 87
中村宏
乗物尽絵 船
1970
紙・墨、インク
38.4×26.8
名古屋市美術館
- 88
中村宏
乗物尽絵 モノレール
1970
紙・墨、インク
38.4×26.7
名古屋市美術館
- 89
成田亨
ガラモン初稿
1965
紙・ペン、水彩
361×244
青森県立美術館
- 90
成田亨
キングジョー決定稿
1967
紙・鉛筆
33.2×43.5
青森県立美術館
- 91
成田亨
ユートム
1968
紙・鉛筆
39.5×36.4
青森県立美術館
- 92
ナム・ジュン・バイク
冥王星人
1993
テレビ、ラジオ、カメラ、スピーカー、凸面鏡他
165.4×149.3×60.5
福岡市美術館
- 93
四谷シモン
機械仕掛けの少女1
1983
紙、木、金属、ガラス、毛
85.0×50.0×23.0
なるせ美術館
- 94
ヤノベケンジ
イエロースーツ
1991
鉛、鉄、植物、ガイガーカウンター
230.0×300.0×300.0
高橋コレクション
- 95
ヤノベケンジ
ガイガーチェック：ワールドワイドNo.4
1998
ガイガーカウンター、スーツケース、時計、世界地図、他
46.0×33.0×18.5
作家
- 96
荒木博志
Astro boy
1993
ミクストメディア
個人
- 97
荒木博志
king of audio & goodman speakers
1987 -93
ミクストメディア
個人
- 98
荒木博志
Chair man
1993
ミクストメディア
個人
- 99
山口晃
既図
2001
油彩・キャンバス
74.0×175.0
高橋コレクション
- 100
山口晃
「メカごころ 落書き帖」ガンダム編(雑誌「ガンダムエース」の為の描き下ろし)
2007
紙・鉛筆、ペン、水彩
pencil, pen and watercolor on paper
イメージサイズ:31.6×43.6
シートサイズ:36×48
作家
- 101
K MURA
PEACE WALKER
2002
ダイレクトクランク駆動・スイッチング方式:モーメントリ式、リモートコントロール、マブチ260 モーター
54.0×30.0×88.0 他全4点
作家
- 102
真鍋博
21 世紀の夢 10 パーセンター
「S F マガジン」Vol.2 No.10 挿絵原画
1961
墨、紙
27.4×19.2
愛媛県美術館
- 103
真鍋博
ごきげん目盛
「S F マガジン」Vol.3 No.1 挿絵原画
1962
墨、紙
11.1×37.1
愛媛県美術館
- 104
真鍋博
楽しみ
「S F マガジン」Vol.3 No.6 挿絵原画
1962
墨・ポスターカラー、紙
27.1×9.5
愛媛県美術館

105 真鍋博 21世紀の夢 グッド・オールド・ロング・ ワイン 『S Fマガジン』Vd. 3 No. 13 挿絵原画 1962 墨・紙 27.4×18.3 愛媛県美術館	112 真鍋博 ポッコちゃん 『ポッコちゃん』(新潮文庫)表紙原画 星新一 著、新潮社 1987 墨・コピー・紙(色鉛筆、トレーシングペーパー) 27.1×19.7 愛媛県美術館	121 相澤次郎 楽士ロボット(「トロンボーン」) ミクストメディア 220.0×130.0×85.0 財団法人日本児童文化研究所	131 『S Fマガジン』Vol. 4 No. 1 1963年1月号、早川書房 1963 愛媛県図書館
106 真鍋博 ロボット誕生 『S Fマガジン』Vd. 4 No. 1 挿絵原画 エアンド・ビンダー著、大山優訳 1963 墨・ポスターカラー、紙 19.8×14.1 愛媛県美術館	113 相澤次郎 カメラマンロボット「太郎」君 ミクストメディア 210.0×110.0×90.0 財団法人日本児童文化研究所	122 相澤次郎 楽士ロボット(「大太鼓」) ミクストメディア 220.0×130.0×85.0 財団法人日本児童文化研究所	132 『S Fマガジン』Vol. 6 No. 1 1965年1月号、早川書房 1965 愛媛県図書館
107 真鍋博 新趣向 『S Fマガジン』Vd. 6 No. 1 挿絵原画 1965 墨・ポスターカラー、紙 25.4×16.2 愛媛県美術館	114 相澤次郎 ガイドロボット「一郎」君 ミクストメディア 220.0×130.0×85.0 財団法人日本児童文化研究所	123 相澤次郎 楽士ロボット(「バイオリン」) ミクストメディア 220.0×130.0×85.0 財団法人日本児童文化研究所	133 『アミューズメント産業』1983年5月号 1983年5月号、全日本遊園協会 1983 愛媛県図書館
108 真鍋博 『アミューズメント産業』1983年5月号表 紙原画 1983 印刷物・コラージュ、紙 22.0×22.0 愛媛県美術館	115 相澤次郎 ラジコンロボット「三郎」君 ミクストメディア 190.0×90.0×60.0 財団法人日本児童文化研究所	124 相澤次郎 紙製ロボット(「小太鼓」) ミクストメディア 220.0×130.0×85.0 財団法人日本児童文化研究所	134 『アミューズメント産業』1990年2月号 1990年2月号、全日本遊園協会 1990 愛媛県図書館
109 真鍋博 『アミューズメント産業』1990年2月号表 紙原画 1990 インク・ポスターカラー・コピー、紙(色鉛筆、 トレーシングペーパー) 27.1×19.6 愛媛県美術館	116 相澤次郎 モデルロボット「五郎」君 ミクストメディア 230.0×146.0×92.0 財団法人日本児童文化研究所	125 相澤次郎 紙製ロボット(「大太鼓」) ミクストメディア 220.0×130.0×85.0 財団法人日本児童文化研究所	135 『NEW HORIZON English Course 3』 東京書籍 星新一「A Robot」掲載 1987 愛媛県図書館
110 真鍋博 タイトル不詳 1970頃 墨、紙(色鉛筆、トレーシングペーパー) 21.8×23.5 愛媛県美術館	117 相澤次郎 スタンプロボット「テッチャン」 ミクストメディア 133.0×55.0×60.0 財団法人日本児童文化研究所	126 相澤次郎 紙製ロボット(「バーベル」) ミクストメディア H220.0×W130.0×D85.0 財団法人日本児童文化研究所	136 『ポッコちゃん』(新潮文庫) 1971年5月25日/1987年5月25日 46刷改版/2004年5月15日82刷、新 潮社 2004 愛媛県図書館
111 真鍋博 A Robot 『NEW HORIZON English Course 3』挿 絵原画 1985 鉛筆・墨、紙 9.4×9.7 愛媛県美術館	118 相澤次郎 ガイドロボット ミニチュア ミクストメディア 220.0×130.0×85.0 財団法人日本児童文化研究所	127 相澤次郎 紙製ロボット(「バーベル」) ミクストメディア H220.0×W130.0×D85.0 財団法人日本児童文化研究所	137 手塚治虫 『鉄腕アトム』ノンテロップオープニング 1980年10月1日-81年12月23日放送 /日本テレビ系 1980 1分15秒 手塚プロダクション
112 真鍋博 A Robot 『NEW HORIZON English Course 3』挿 絵原画 1985 鉛筆・墨、紙 9.4×9.7 愛媛県美術館	119 相澤次郎 カメラマンロボット ミニチュア ミクストメディア 220.0×130.0×85.0 財団法人日本児童文化研究所	128 相澤次郎 『S Fマガジン』Vol. 3 No. 1 1962年1月号、早川書房 1962 愛媛県図書館	138 手塚治虫 『鉄腕アトム』直筆原稿 『鉄腕アトム』第2巻表紙絵/1957年5 月10日発行/光文社 1957 紙・墨、水彩 32.0×23.5 手塚プロダクション
113 真鍋博 A Robot 『NEW HORIZON English Course 3』挿 絵原画 1985 鉛筆・墨、紙 9.4×9.7 愛媛県美術館	120 相澤次郎 モデルロボット ミニチュア ミクストメディア 220.0×130.0×85.0 財団法人日本児童文化研究所	129 相澤次郎 『S Fマガジン』Vol. 3 No. 6 1962年6月号、早川書房 1962 愛媛県図書館	139 手塚治虫 『鉄腕アトム』直筆原稿 『カッパコミクス 鉄腕アトム16』表紙絵/ 1965年4月1日号/光文社 1965 紙・墨、水彩 38.0×28.0 手塚プロダクション

140 手塚治虫 『鉄腕アトム』直筆原稿 『デッドクロス殿下の巻』本文抜粋 / 「少年」 1960年12月号ふろく / 光文社 1960 紙・墨 331×231 手塚プロダクション	148 横山光輝 鉄人28号 イマイ製プラモデル 1960 紙・水彩 440×330 バンダイ 光プロダクション / 敷島重工	157 機動戦士ガンダム MG 1 / 100 V ガンダム ver.ka 製作：NAOKI 『電撃ホビーマガジン』掲載作例 2009 作家	166 大河原邦男 《装甲騎兵ボトムズ》イラスト ボード・マーカ 360×51.2
141 手塚治虫 『鉄腕アトム』複製セル画 第78話 [50 万年後の世界] より / 1964 年7月11日放送 / フジテレビ系 ※『鉄腕アトム』の放送は、1963年1月 1日 - 1966年12月31日 1964 / 1995 セル：セルロイド板・アニメカラー 背景画：紙、水彩 255×360 手塚プロダクション	149 横山光輝 鉄人28号 イマイ製プラモデル 1960 紙・水彩 305×225 バンダイ 光プロダクション / 敷島重工	158 機動戦士ガンダム MG 1 / 100 RX -78 -2 ガンダム Ver.2.0 製作：岩田トシオ 『電撃ホビーマガジン』掲載作例 2008 作家	167 ガンダム設定画 デザイン：大河原邦男 1979 サンライズ
142 手塚治虫 『鉄腕アトム』[英語版] 第3巻 2002 17.3×11.3×1.1 手塚プロダクション	150 超合金魂 鉄人28号 鉄人28号 バンダイ製玩具 2004 光プロダクション / 敷島重工	159 機動戦士ガンダム 1 / 100 MG ガンダム F91 製作：今井康博 『電撃ホビーマガジン』掲載作例 2006 作家	168 ガンダム設定画 デザイン：大河原邦男 1979 サンライズ
143 手塚治虫 『鉄腕アトム』[中国語版] 第2巻 2008 18.6×13.0×1.5 手塚プロダクション	151 超合金魂 ブラックオックス 鉄人28号 バンダイ製玩具 2005 光プロダクション / 敷島重工	160 機動戦士ガンダム MG 1 / 100 百式 製作：鋭之介・初代・日野 『電撃ホビーマガジン』掲載作例 2001 作家	169 シャア専用ザク設定画 デザイン：大河原邦男 1979 サンライズ
144 手塚治虫 『鉄腕アトム』[バトナム語版] 第1巻 2005 18.0×12.7×1.1 手塚プロダクション	152 機動戦士ガンダム ファーストガンダムオープニング映像	161 機動戦士ガンダム 1 / 100 MG Z ガンダム Ver.2.0 製作：岩田トシオ 『電撃ホビーマガジン』掲載作例 2005 作家	170 v ガンダム設定画 デザイン：出淵裕 1987 サンライズ
145 手塚治虫 『鉄腕アトム』[インドネシア語版] 第18巻 1993 19.9×13.5×1.0 手塚プロダクション	153 機動戦士ガンダム MG 1 / 100 ガンダム MSA -0011Ex -S 製作：岩田トシオ 『電撃ホビーマガジン』掲載作例 2003 作家	162 機動戦士ガンダム 1 / 100 MG MS -06S シャア専用ザク Ver.2.0 製作：桜井信之 『電撃ホビーマガジン』掲載作例 作家	171 ウイングガンダムゼロ設定画 デザイン：カトキハジメ 1998 サンライズ
146 手塚治虫 『鉄腕アトム』[韓国語版] 第2巻 2002 18.3×13.0×1.7 手塚プロダクション	154 機動戦士ガンダム MG 1 / 100 ジョング 製作：長谷川成人 『電撃ホビーマガジン』掲載作例 2002 作家	163 大河原邦男 《機動戦士ガンダム》イラスト ボード・ポスターカラー 102.5×72.5	172 新世紀エヴァンゲリオン リボルテックヤマガチ No.066 エヴァンゲリオン初号機 新劇場版：破 エディション 原型：山口勝久 2009 高さ14.0 海洋堂
147 手塚治虫 『鉄腕アトム』FRP 製フィギュア FRP 150.0×85.0×50.0 手塚プロダクション	155 機動戦士ガンダム MG 1 / 100 ターンエーガンダム 製作：鋭之介・初代・日野 『電撃ホビーマガジン』掲載作例 2007 作家	164 大河原邦男 《機動戦士ガンダム》イラスト ボード・ポスターカラー 72.5×51.5	173 新世紀エヴァンゲリオン リボルテックヤマガチ No.068 エヴァンゲリオン2号機 新劇場版：破 エディション 原型：山口勝久 2009 高さ14.0 海洋堂
	156 機動戦士ガンダム MG 1 / 100 MS -14S シャア専用ゲルグ グ ver.2.0 製作：岩田トシオ 『電撃ホビーマガジン』掲載作例 2007 作家	165 大河原邦男 《装甲騎兵ボトムズ》イラスト ボード・ポスターカラー 42.0×29.5	174 新世紀エヴァンゲリオン リボルテックヤマガチ No.073 “劇中カラー版”エヴァンゲリオン仮設5号 機[新劇場版：破] エディション 原型：山口勝久 2009 高さ16.0 海洋堂

175 小松崎茂 リベットボーイ (モーター/恐竜付) 1970 紙・水彩 35.0×21.0 株式会社バンダイ	183 高荷義之 1/72 可変バルキリーVF-1S 超時空要塞マクロス 1983 ボード・アクリル 25.7×36.2 作家	190 長谷川政幸 1/100 フルアクションエルガイムマー ク2 重戦機エルガイム 1984 紙・水彩 60.0×45.0 作家	197 上田信 1/250 ガンダム情景模型 宇宙要塞アバオ アクーの戦い 機動戦士ガンダム 1981 ボード・水彩 31.7×45.8 作家
176 小松崎茂 ガードマンロボット (モーター) 1970 紙・水彩 30.0×22.0 株式会社バンダイ	184 高荷義之 戦闘メカ ザブングル 休息 戦闘メカ ザブングル 1982 ボード・アクリル 36.2×51.5 作家	191 長谷川政幸 1/144 グフ 機動戦士ガンダム 1980 ボード・水彩 36.4×25.7 作家	198 上田信 1/100 リアルタイプ・ザク 機動戦士ガンダム 1982 紙・水彩 49.2×34.4 作家
177 小松崎茂 人造人間キカイダー (ゼンマイ) 人造人間キカイダー 1972 紙・水彩 37.0×27.0 株式会社バンダイ	185 高荷義之 戦闘メカ ザブングル みんな走れ! 戦闘メカ ザブングル 1983 ボード・アクリル 72.5×51.5 作家	192 長谷川政幸 1/144 フルカラーモデル ガンダム 機動戦士ガンダム 1988 紙・水彩 51.5×36.4 作家	199 上田信 1/60 ゲルググキャノン 機動戦士ガンダム 1983 ボード・アクリル 72.9×51.5 作家
178 小松崎茂 勇者ライディーン (電動歩行) 勇者ライディーン 1975 ボード・水彩 46.0×30.5 株式会社バンダイ	186 高荷義之 ゼブルシリーズ ゴルゴラ ゼブル 1992 紙・アクリル 54.5×70.0 作家	193 根本アートセンター スペシャルデラックス イデオン 伝説巨神イデオン 1980 ボード・水彩 337.0×489.0 作家	200 上田信 1/72 ダーナ・オシー 聖戦士ダンバイン 1983 ボード・水彩 50.7×36.5 作家
179 小松崎茂 超電磁ロボ コン・バトラーV 超電磁ロボコンバトラーV 1976 ボード・水彩 38.0×27.5 株式会社バンダイ	187 高荷義之 ジャイアントロボ ジャイアントロボ 2008 ボード・アクリル 30.0×42.0 作家	194 根本アートセンター 合体ロボット イデオン 伝説巨神イデオン 1980 ボード・水彩 560.0×398.0 作家	201 上田信 コンバットアーマー ダグラム 太陽の牙ダグラム 1982 ボード・ガッシュ 51.5×36.3 作家
180 小松崎茂 ジャイアント・ロボット 「メカニックファンタジー」用原画 1982 ボード・インク、水彩 36.2×51.3 個人	188 高荷義之 ダンバイン 聖戦士ダンバイン 1983 ボード・アクリル 36.2×51.5 作家	195 根本アートセンター 1/100 ディラノス アクロバンチ 1982 ボード・水彩 501.0×348.0 作家	202 石橋謙一 1/144 MS-06R-1A ザクII 黒い三 連星使用機 機動戦士ガンダム 1983 ガッシュ 36.4×25.7 株式会社バンダイ
181 高荷義之 1/72 可変バルキリーVF-1S 超時空要塞マクロス 1983 ボード・アクリル 36.2×25.7 作家	189 長谷川政幸 1/100 フルアクションエルガイム 重戦機エルガイム 1984 紙・水彩 54.5×39.4 作家	196 上田信 1/250 ガンダム情景模型 ジャブローに散る 機動戦士ガンダム 1981 ボード・水彩 36.2×51.4 作家	203 石橋謙一 1/144 RX-78-1 プロトタイプガン ダム 機動戦士ガンダム 1983 ガッシュ 36.4×25.7 株式会社バンダイ
182 高荷義之 1/72 可変バルキリーVF-1S 超時空要塞マクロス 1983 ボード・アクリル 25.7×36.2 作家			

204 石橋謙一 1 / 144 ウォーカー・マシン クラブタイプ 戦闘メカ ザブングル 1982 ガッシュ 36.4×25.7 株式会社バンダイ	211 開田裕治 1 / 144 ダイゼンガー スーパーロボット大戦 2008 コンピュータグラフィックス 作家	220 横山宏 1 / 20 S.A.F.S スノーマン マシーネンクリーガー 2010 コンピュータグラフィックス 作家	228 電脳戦記バーチャロン 1 / 100 MZV-747J テムジン747J 電脳戦記バーチャロン 2004 ハセガワ
205 石橋謙一 1 / 144 ウォーカー・マシン オットリ ッチタイプ 戦闘メカ ザブングル 1982 ガッシュ 36.4×25.7 株式会社バンダイ	212 開田裕治 1 / 144 フェアリオンTYPE-G スーパーロボット大戦 2009 コンピュータグラフィックス 作家	221 横山宏 1 / 1 SUPER ARMORED FIGHTING SUTS・A・F・S マシーネンクリーガー 1998 FRP 個人	229 電脳戦記バーチャロン 1 / 100 MZV-36 T-H アファームド・ ザ・ハッター 電脳戦記バーチャロン 2005 ハセガワ
206 石橋謙一 1 / 100 メタルアーマー ドラグナー D-1 カスタム 機甲兵器ドラグナー 1987 ガッシュ 51.5×36.4 株式会社バンダイ	213 開田裕治 1 / 72 シールドライガー ZQDS 2006 コンピュータグラフィックス 作家	222 天神英貴 マクロス艦強攻型 超時空要塞マクロス 2009 コンピュータグラフィックス 作家	230 電脳戦記バーチャロン 1 / 100 TF-14A フェイ・イェン with ビビッド・ハート 電脳戦記バーチャロン 2006 ハセガワ
207 開田裕治 1 / 100 アッガイ 機動戦士ガンダム 1982 ボード・水彩 40.0×28.3 作家	214 加藤直之 (スタジオぬえ) LASER SQUAD パッケージイラスト 1993 キャンバス・油彩 作家	223 天神英貴 マクロスゼロ Blu-ray Disc BOX 超時空要塞マクロス 2008 コンピュータグラフィックス 作家	231 電脳戦記バーチャロン 1 / 100 TG-11-M ガラヤカ 電脳戦記バーチャロン 2010 ハセガワ
208 開田裕治 1 / 60 イングラム バトレイバー 1989 紙・水彩 50.1×36.2 作家	215 加藤直之 (スタジオぬえ) バーサーカー 2007 レジン 作家	224 天神英貴 1 / 100 MG ガンタンク 機動戦士ガンダム 2009 コンピュータグラフィックス 作家	232 オリジナルアニメーション
209 開田裕治 Beginning 『朝日ソノラマ』創刊号表紙 1979 紙・水彩 50.9×36.0 作家	216 加藤直之 (スタジオぬえ) 機甲天使ガブリエル 2007 キャンバス・油彩 作家	225 天神英貴 ザク 『ザク大事典 All about ZAKU』表紙 2008 コンピュータグラフィックス 作家	233 講談社 『週刊少年マガジン』 1964年1月1日号、1964年6月28日号、 1965年1月1日号、1969年11月9日号、 1966年12月4日号 個人
210 開田裕治 1 / 72 ダンバイン 聖戦士ダンバイン 1983 ボード・水彩 28.2×40.0 作家	217 横山宏 『マシーネン・クリーガー・イン・アクション・バンドデシネ』カバーイラスト マシーネンクリーガー 2001 コンピュータグラフィックス 作家	226 天神英貴 1 / 20 スコープドッグ (ペールゼン・フェイス版) 装甲騎兵ボトムズ 2007 コンピュータグラフィックス 作家	234 小学館 『ボーイズライフ』 1969年3月号 個人
	218 横山宏 1 / 20 陸戦ガンズ マシーネンクリーガー 2004 コンピュータグラフィックス 作家	227 天神英貴 機甲装兵アーモダイン PS2 ゲームパッケージ 2007 コンピュータグラフィックス 作家	235 小学館 『週刊少年サンデー』 1969年10月5日号、1970年3月15日号 個人
	219 横山宏 1 / 20 クレーテ マシーネンクリーガー 2010 コンピュータグラフィックス 作家		236 少年画報社 『週刊少年キング』 1968年10月6日号 個人

238	勤文社 『ケイブンシャ大百科シリーズ』 78,81,92,104,112,114,121,125,140,149 155,177,286,314,327,373,348,406,526 535 個人	247	村田製作所 ムラタセイサク君 2005 ミクストメディア 高さ500 株式会社村田製作所	256	フラワー・ロボティクス Posy クリエイティヴ・デザイン：松井龍哉 コンセプト・デザイン：松井龍哉 デザイン：松井龍哉、星野裕之 テクニカル・コラボレーション：セントラル技研工業株式会社、株式会社サンク・アール	263	JST ERATO 浅田共創知能システムプロジェクト CB2 2007 ミクストメディア JST ERATO 浅田共創知能システムプロジェクト
239	小学館 『コロタン文庫』43 個人	248	村田製作所 ムラタセイサク君 2005 ミクストメディア 高さ500 株式会社村田製作所	2001	ミクストメディア フラワー・ロボティクス	264	東京大学情報システム工学研究室 隼次 2004 ミクストメディア 高さ1230 東京大学情報システム工学研究室
240	講談社 『テレビマガジンロボット大全集』 1,7 個人	249	科学技術振興機構ERATO 北野共生システムプロジェクト& 山中俊治 morph3 2002 高さ380	257	フラワー・ロボティクス Palette クリエイティヴ・デザイン：松井龍哉 コンセプト・デザイン：松井龍哉、星野裕之 デザイン：松井龍哉、星野裕之、炭本直彦 テクニカル・コラボレーション：プロダクト＝日本SG 株式会社、株式会社グローバルエンジニアリング、株式会社タイテック テクニカル・コラボレーション：プロトタイプ＝セントラル技研工業株式会社、株式会社サンク・アール	265	奥村雄樹 Can't Get You Out Of My Head 2007 DVD cd or / sound 04 53' 作家
241	講談社 『ハイレベルクイズ イデオン』 個人	250	科学技術振興機構ERATO 北野共生システムプロジェクト& 山中俊治 morph3 2003 高さ380	2004	ミクストメディア フラワー・ロボティクス	266	クリプトン・フューチャー・メディア株式会社 初音ミク 2007 ミクストメディア クリプトン・フューチャー・メディア株式会社
242	実業之日本社 『カラーカタログ マシンロボ』 個人	251	科学技術振興機構ERATO 北野共生システムプロジェクト& 山中俊治 morph3 2004 高さ380	258	村上隆 Inochi フィギュア、2009 ジャン、ヴィクター、ボブ、デーヴィット、山本	267	浅井真紀 『初音ミク・アバンド (MKU Append)』フィギュア 2010 ミクストメディア クリプトン・フューチャー・メディア株式会社
243	双葉社 『なんでもブレイ百科』17 個人	252	科学技術振興機構ERATO 北野共生システムプロジェクト& 山中俊治 morph3 2005 高さ380	2009	ABS、NP -PVC、鉄板、ファブリック、ソフトビニール、合皮、金属、マグネット 各37.0×15.0×9.0 カイカイキキ		
244	講談社 『講談社ポケット百科シリーズ』37 個人	253	ロボ・ガレージ MANO 2007 ミクストメディア 高さ400 ロボ・ガレージ	259	村上隆 Takashi Murakami Inochi, 2004 2004 FRP、金属、ラッカー 140.0×58.4×29.2 Courtesy Blum & Poe		
245	『カラーポケットずかん』72 個人	254	ロボ・ガレージ FT 2006 ミクストメディア 高さ350 ロボ・ガレージ	260	村上隆 設定資料		
246	安田勝寿コレクション 玩具一式	255	ロボ・ガレージ NEON 2003 ミクストメディア 高さ400 ロボ・ガレージ	261	ATR 知能ロボティクス研究所 ジェミノイドH-1 2006 ミクストメディア ATR 知能ロボティクス研究所		
		256	ロボ・ガレージ 2006 ミクストメディア 高さ350 ロボ・ガレージ	262	ATR 知能ロボティクス研究所 ジェミノイドF 2010 ミクストメディア ATR 知能ロボティクス研究所		

芸術の青森展

開催概要

会期：2011年1月22日（土）－3月15日（月）

開催日数：49日間

（3/12休館、3/16－21中止 当初予定56日間）

主催：芸術の青森展実行委員会（青森県立美術館、東奥日報社、青森県観光連盟）

後援：青森県教育委員会、NHK青森放送局、エフエム青森、青森ケーブルテレビ

入場者数

3,530人

展示構成

① 森－板画と民芸（展示室A、B）

青森県の自然の何よりの特色は豊かな森に覆われていると
言うことである。森や木のもつ生命力への畏敬と信頼は、厳
しい自然の中に暮らす人々の生活の中にねづき、樹木への信
仰にも似た思いは、板の中の生命を彫りだす棟方志功の「板
画」のなかに結晶している。また、寒い冬を生き抜くための
知恵は、麻の衣を長い時間をかけて規則正しく防寒の刺繍を
ほどこしたこぎんや菱ざしの豊かな装飾というかたちで、生
活の中の美を生み出してきた。この他にも木や森の産物の味
わいをいかした素朴な造形や道具、縄文時代から使われてき
た漆をいかした高度な工芸にいたるまで、樹木や植物との生
活からうみだされてきた造形を紹介する。

② 土－縄文と大地の画家（展示室C）

枯れ果てて雪の中にとざされた冬から、豊かな緑と花々
におおわれる春への劇的な転換は青森の四季の最も感動的な瞬
間である。あらたな生命をうみだすとともに、枯れ果て、死
んでいく生物をのみこんでいく大地は、自然と共に生きる人
間の生命の故郷でもあった。

また、とくに農作業をテーマにした画家達もいる。戦前の
阿部合成は農民達の生活を主なテーマとし、従兄弟の常田健
は、生地の浪岡にとどまり、金色の稲穂がおおう田圃の豊か
な色彩や力強い農民の姿をえがきつづけた。その他にも多く
の画家達が農作業や大地の恵み、生命力を主題に描いている。

また、土はさまざまなものを生み出す素材として、太古か
ら用いられ、複雑な文様がほどこされた縄文土器や土偶を生
み出してきた。このコーナーでは縄文土器や土偶の豊かな造
形と、大地をテーマにした芸術家達の作品を展示する。

③ 「顔」と「魂」－自意識と批判精神（映像室）

縄文の土偶ではさまざまな人間の顔が造形されている。
「顔」への関心は、自らをみつめ、周囲のひとびとの性格や
精神を写し、その魂を描き出そうとする積極的な「人間」へ
の関心の所産だった。強い自意識と鋭い批判的精神、そこか
ら生まれるユーモアとウィットの間接的な感覚は太宰治や寺山修司の
文学にもみられるが、青森の美術家達もそうした精神を共有
している。ここでは、縄文土偶にみる様々な顔の表現から、
棟方志功らの強い自意識を感じさせる自画像、関野のウィッ
トに富んだ人物肖像、そしてユーモアと諷刺を武器に、文章
とケシゴム版画でメディアの中で活躍したナンシー関の作品
を展示する。

④ 雪・空・炎－青森の色と光（展示室D）

青森の四季はそれぞれくっきりとした表情を持っている
が、中でも冬の真っ白な雪と青い空のおりなす美しい対比は、
青森県の画家達に大きな靈感をあたえてきた。北国の透明な
「青」と「白」を抽象画として描いた佐野ぬいや、「BLUE」
の連作を制作した小野忠弘は代表的な作家である。また、北
国のほのかで柔らかな陽光は小館善四郎や鷹山宇一の作品に
見られるような繊細な光の感覚を育てた。

これらに対し、夏の祭りである「ねぶた」の、暗闇に生
える鮮やかな朱や、冬の空にあがる津軽凧絵の力強い墨線と
色彩は、雄々しく荒々しい精神の躍動を伝えてくれる。これ
らを中心に、北国の光と色の感性を伝える作品を展示する。

⑤ 海と生きる－風土と幻想

三方を海に囲まれた青森県では、漁は重要な生活の方法で
あり、海は生命の故郷であり、北前船が行き来する重要な交
通と交易の場でもあった。八戸市の湊中学校の養護学級生徒
たちが共同制作として制作した版画「虹の上を飛ぶ船」は、
その原型となった「船の一生」からはじまり、彼らの生活の
密着した場から広がる豊かな幻想を伝えてくれる。この一連
の作品は、昭和はじめ、今純三に学んだ人々がひろめていっ
た青森県の版画教育のおおきな成果であり、青森の風土と生
活に育まれたこどもたちの精神が生み出したすぐれた芸術的
所産でもある。その一点は、宮崎駿監督がその魅力にひかれ、
「魔女の宅急便」の中に登場させたことでも知られてる。

最後のこの章では、この大作を中心に、八戸出身の豊島弘
尚が海と郷土をイメージした「墓獅子」をはじめとする一連
の作品など、「海」との関わりを軸とした作品を展示する。

関連事業

(1) 青い森に連れてって

青森にゆかりのある色・形・音のインスタレーション

日時：2011 年1 月15 日（土）－2 月20 日（日）

(2) 記念講演会

「青森の色とかたち」

日時：2011 年2 月6 日（日） 13：30－15：00

講師：須藤弘敏（弘前大学人文学部教授）

(3) ギャラリーツアー

担当学芸員による展示案内

日時：会期中の土、日曜日 11：00－12：00

芸術の青森展カタログ

編集・発行：芸術の青森展実行委員会

編集：池田亨 板倉容子 山口潤 西澤真智子

執筆：塩田純一、池田亨、板倉容子（青森県立美術館）

デザイン：須藤一幸

印刷：青森オフセット印刷（株）

著作権：芸術の青森展実行委員会

著者、作家著作権継承者

仕様：A4 判・126 頁

発行日：2011 年1 月



ポスター



展示風景

青森県からは縄文土器、こぎんや津軽塗から棟方志功にいたるまで風土に密接に結びついて発展した豊かで個性的な芸術が生まれてきた。その源泉となったのは、北国の自然と対峙して生きる、ねばりづよく、想像力に富んだ個性的な人々の生活感情であるという認識から、本展では、「自然」と「人間」の関わりを切り口に、近代以降、青森県人としての強い自意識と鋭い批判精神をそなえた芸術家達が、あるいは上京し、あるいは郷土にとどまり、そして海外へと飛躍しながらうみだしてきた作品を紹介するとともに、彼らの芸術の精神的な源泉となり、色彩や造形の感覚を養ってきた縄文土器や近世以来、生活の中で育まれてきたこぎんや菱ざしなどの工芸、ねぶたや凧絵などの絵画、さらには今純三・棟方志功以来の版画教育の実践から生まれた、生活に根ざした子供達の豊かな幻想をたたえた教育版画や、ナンシー関の批判精神にあふれた消しゴム版画に至るまで、幅広く、北国の自然と生活が生んだ芸術的所産を紹介し

た。

新幹線青森全線開業に際して開かれる本展では、より多くの人々がこうした「魂の故郷」としての青森県の文化に触れてもらえるよう、豊かな自然とたくましく個性的な人々が育んできた「芸術の国」青森を紹介した。

出品作品

第1章 森一板画と民芸

- 1
津軽こぎん刺し
東こぎん全肩
明治一大正
101.5×60.5
個人
- 2
津軽こぎん刺し
東こぎん全肩
明治一大正
94.2×54.8
個人
- 3
津軽こぎん刺し
西こぎん全肩
明治～大正
101.5×56.0
個人
- 4
津軽こぎん刺し
東こぎん着物
明治一大正
111.5×103.5
個人
- 5
津軽こぎん刺し
西こぎん全肩
明治一大正
89.6×61.0
個人
- 6
津軽こぎん刺し
三縞こぎん着物
明治一大正
113.6×117.2
個人
- 7
津軽こぎん刺し
三縞こぎん全肩
明治一大正
82.3×55.5
個人
- 8
津軽こぎん刺し
西こぎん全肩
明治一大正
98.5×48.5
個人
- 9
津軽こぎん刺し
西こぎん全肩
明治～大正
97.8×51.5
個人
- 10
津軽こぎん刺し
西こぎん着物
明治一大正
95.3×98.3
個人
- 11
津軽こぎん刺し
東こぎん全肩
明治一大正
左側：94.9×24.8
右側：85.5×25.1
個人
- 12
津軽こぎん刺し
東こぎん着物
明治一大正
88.6×100.2
個人
- 13
津軽こぎん刺し
東こぎん着物（筒袖）
明治一大正
102.6×105.8
個人
- 14
南部菱刺し
たっつけ
大正～昭和初期
90.2×33.7
個人
- 15
南部菱刺し
たっつけ
大正～昭和初期
89.0×36.5
個人
- 16
南部菱刺し
前掛け（三幅前掛け）
大正～昭和初期
78.7×61.1
個人
- 17
南部菱刺し
前掛け（菱刺し部分のみ）
大正～昭和初期
72.5×31.1
個人
- 18
南部菱刺し
前掛け（菱刺し部分のみ）
大正～昭和初期
72.2×30.1
個人
- 19
南部菱刺し
前掛け（三幅前掛け 紐なし）
大正～昭和初期
73.3×62.3
個人
- 20
伊達げら（西津軽郡）
昭和時代
120.0×44.0
個人
- 21
伊達げら（北津軽郡中里）
昭和時代
140.0×45.0
個人
- 22
伊達げら（中津軽郡西目屋）
昭和時代
123.0×45.0
個人
- 23
伊達げら（中津軽郡西目屋）
昭和時代
135.0×53.0
個人
- 24
伊達げら（南津軽郡碓ヶ関）
昭和時代
134.0×50.0
個人
- 25
伊達げら（南津軽郡碓ヶ関）
昭和時代
137.0×53.0
個人
- 26
伊達げら（平賀町唐竹）
昭和時代
135.0×51.0
個人
- 27
伊達げら（平賀町）
昭和時代
129.0×51.0
個人
- 28
玩具類 マス（下北）
昭和時代
19.0×11.0×8.0
個人
- 29
玩具類 マス（下北）
昭和時代
16.5×9.5×7.0
個人
- 30
玩具類 黒石馬っこ
12.0×12.0×4.5
個人
- 31
玩具類 弘前馬っこ
昭和時代
17.5×4.0×14.0
個人
- 32
玩具類 弘前馬っこ
昭和時代
12.0×2.5×8.5
個人
- 33
玩具類 八幡駒
昭和時代
7.0×3.5×12.0
個人
- 34
木製品 こね鉢
昭和時代
径50.0×高17.0
個人
- 35
木製品 こね鉢
昭和時代
径50.0×高11.5
個人
- 36
津軽塗 漆塗手板
江戸～明治初期
津軽塗
6.0×4.6～10.4×5.3
弘前市立博物館【県重宝】
- 37
津軽塗
定盤
昭和期
津軽塗
34.5×36.1×13.7
弘前市立博物館
- 38
津軽塗
錦塗見台
津軽塗
16.8×40.9×53.1
弘前市立博物館津軽塗
- 39
手がき文散変塗花見弁当
江戸時代
津軽塗
12.5×19.7×19.3
青森県立郷土館

40	工藤甲人 日の蝕み 1954 紙・着彩 162.1×130.3 弘前市立博物館	48	下澤木鉢郎 東奥館冬窓 1953 紙・多色木版 61.2×48.6 弘前市立博物館	57	棟方志功 釈迦十大弟子 1939 紙・木版 各101.5×38.0 棟方志功記念館	66	鉢形土器 平内町槻ノ木遺跡 縄文晩期 高11.7 青森県立郷土館風韻堂コレクション
41	工藤甲人 山 1954 紙・着彩 162.1×130.3 弘前市立博物館	49	下澤木鉢郎 津軽の農婦 紙・多色木版 70.0×49.0 弘前市立博物館	58	棟方志功 運命頌 1951 紙・木版 各87.5×88.5 棟方志功記念館	67	壺形土器 平内町槻ノ木遺跡 縄文晩期 高17.9 青森県立郷土館風韻堂コレクション
42	工藤甲人 月中の森 1959 紙・着彩 75.0×90.0 弘前市立博物館	50	高木志朗 日本の鬼 1968 紙・多色木版 85.5×56.2 青森県立美術館	59	棟方志功 湧然する女者達々 1953 紙・木版 各92.5×104.5 棟方志功記念館	68	鉢形土器 青森市宮田遺跡 縄文晩期 高18.0 青森県立郷土館風韻堂コレクション
43	工藤哲巳 増殖性連鎖反応-1 1959 キャンバス・油彩 119.4×59.2 青森県立美術館	51	高木志朗 北国の樹-3 1972 紙・多色木版 65.7×42.7 青森県立美術館	60	棟方志功 摩奈那発門多に建立すの柵 1959 紙・木版 109.5×148.5 青森県立美術館	69	彩文漆塗り浅鉢形土器 木造町亀ヶ岡遺跡 縄文晩期 口径23.0 青森県立郷土館風韻堂コレクション〔県重宝〕
44	工藤哲巳 増殖性連鎖反応-2 1960 キャンバス・ミクストメディア 45.0×52.0 青森県立美術館	52	高木志朗 北国の樹-9 1972 紙・多色木版 65.1×42.5 青森県立美術館	第2章 土—縄文と大地の画家		70	板状土偶 青森市三内丸山遺跡 縄文中期 高25.4 青森県立郷土館風韻堂コレクション
45	関野準一郎 アメリカインディアン（環太平洋頌） 1979 和紙・木版 159.4×165.5 青森県立美術館	53	高木志朗 北国の樹-10 1972 紙・多色木版 64.5×42.4 青森県立美術館	61	深鉢形土器 五戸町 縄文前期 高39.3 青森県立郷土館風韻堂コレクション	71	遮光器土偶 三戸町八日町遺跡 縄文晩期 高20.4 青森県立郷土館風韻堂コレクション〔県重宝〕
46	関野準一郎 泉の森 1957 紙・多色木版 48.0×63.0 青森県立美術館	54	高木志朗 北国の樹-11 1972 紙・多色木版 65.0×42.8 青森県立美術館	62	深鉢形土器 三戸町泉山遺跡 縄文中期 高31.2 青森県立郷土館風韻堂コレクション	72	土偶 平賀町広船 縄文晩期 高11.3 青森県立郷土館風韻堂コレクション
47	下澤木鉢郎 焼け跡風景 1924 紙・多色木版 19.9×27.7 弘前市立博物館	55	豊島弘尚 その扉は開かれるか・紡錘 1970 キャンバス・油彩、アクリル 162.1×130.3 青森県立美術館	63	台付鉢形土器 青森市三内丸山遺跡 縄文中期 高15.3 青森県立郷土館風韻堂コレクション	73	土偶頭部 鶴田町 縄文後—晩期 高5.3 青森県立郷土館風韻堂コレクション
		56	村上善男 頻度n(3) 1963 耐水ペニヤ・ミクストメディア 129.5×129.5 青森県立美術館	64	カメ棺 青森市月見野遺跡 縄文後期 高54.2 青森県立郷土館風韻堂コレクション	74	壺を背負う土偶 十和田市高谷 縄文晩期 高6.4 青森県立郷土館風韻堂コレクション
				65	環状注口土器 青森市宮田遺跡 縄文晩期 高11.5 青森県立郷土館風韻堂コレクション		

75 土偶 名川町平 縄文後期 高4.9 青森県立郷土館風韻堂コレクション	85 土偶頭部 名川町平遺跡 縄文晩期 高4.6 青森県立郷土館風韻堂コレクション	94 阿部合成 声なき人々の群れ (A) 1966 板・油彩 92.2×56.1 青森県立美術館	102 常田健 田植え 1970 代 板・油彩 88.0×74.5 常田健土蔵のアトリエ美術館
76 土偶頭部 木造町亀ヶ岡遺跡 縄文晩期 高5.9 青森県立郷土館風韻堂コレクション	86 土偶頭部 出土地不明 縄文後一晩期 高6.1 青森県立郷土館風韻堂コレクション	95 阿部合成 埋められた人々 (B) 1969 板・油彩 142.8×79.5 青森県立美術館	103 常田健 六月の夕 1970 代 キャンバス・油彩 60.6×72.7 常田健土蔵のアトリエ美術館
77 土偶頭部 出土地不明 縄文晩期 ?? 青森県立郷土館風韻堂コレクション	87 土偶頭部 名川町平遺跡 縄文後一晩期 高7.8 青森県立郷土館風韻堂コレクション	96 鷹山宇一 荒野の歌 1950 キャンバス・油彩 146.0×98.0 神奈川県立近代美術館	104 野澤如洋 四季農耕図屏風 紙・着彩 六曲一双 175.0×369.6 弘前市立博物館
78 土偶頭部 三厩村宇鉄遺跡 縄文後一晩期 高4.7 青森県立郷土館風韻堂コレクション	88 土偶 森田村越水 縄文晩期 高6.3 青森県立郷土館風韻堂コレクション	97 鷹山宇一 高原の静物 1991 キャンバス・油彩 91.2×91.2 青森県立美術館	105 渡辺貞一 貧しき漁夫 1962 キャンバス・油彩 95.5×129.0 八戸市美術館
79 土偶頭部 木造町亀ヶ岡遺跡 縄文後一晩期 高4.0 青森県立郷土館風韻堂コレクション	89 クマ形土製品 弘前市尾上山遺跡 縄文晩期 高8.2 青森県立郷土館風韻堂コレクション	98 常田健 ひるね 1939 キャンバス・油彩 80.3×100.0 常田健土蔵のアトリエ美術館	106 渡辺貞一 ストーン・サークル 1971 キャンバス・油彩 130.5×162.0 八戸市美術館
80 土偶頭部 名川町平遺跡 縄文晩期 高5.8 青森県立郷土館風韻堂コレクション	90 狩猟文深鉢 八戸市葎窪遺跡 縄文後期 高26.0 青森県立郷土館【県重宝】	99 常田健 水引人 1940 キャンバス・油彩 99.0×166.0 常田健土蔵のアトリエ美術館	107 渡辺貞一 失われた季節Ⅱ 1977 キャンバス・油彩 162.1×155.5 八戸市美術館
81 土偶頭部 青森市月見岱 縄文後～晩期 高7.6 青森県立郷土館風韻堂コレクション	91 阿部合成 百姓の昼寝 1938 キャンバス・油彩 127.6×144.3 東京国立近代美術館	100 常田健 はじまり 1940 代 板・油彩 124.0×192.0 常田健土蔵のアトリエ美術館	第3章 「顔」と「魂」 — 自意識と批判精神
82 土偶頭部 八戸市是川城内 縄文晩期 高4.7 青森県立郷土館風韻堂コレクション	92 阿部合成 鯨をかつぐ人々 1938 板・油彩 (左) 158.2×169.6 (右) 158.4×169.7 神奈川県立近代美術館	101 常田健 稲刈り 1950 キャンバス・油彩 144.0×245.0 常田健土蔵のアトリエ美術館	108 工藤正義 毛皮を着た自画像 キャンバス・油彩 45.5×38.2 弘前市立博物館
83 土偶頭部 出土地不明 縄文後一晩期 高4.9 青森県立郷土館風韻堂コレクション	93 阿部合成 田園 1939 頃 板・油彩 60.9×72.6 青森県立美術館	109 工藤正義 若き日の自画像 キャンバス・油彩 45.5×38.2 弘前市立博物館	
84 土偶頭部 出土地不明 縄文後一晩期 高5.1 青森県立郷土館風韻堂コレクション			

110 工藤哲巳 前衛芸術家の魂 1986 ミクストメディア 240.0×109.0×109.0 青森県立美術館	118 関野準一郎 太宰治像 1976 紙・木版 46.0×32.5 青森県立美術館	篤史-2 / ジュース#001 / 人物#1354 / 物・風景#247 / 自画像#001 / 自画像 #002 / 自画像#003 / 自画像#004 / 自画像#005 / 自画像#006 / 自画像# 007 / 自画像#051 / 自画像#052 / 自 画像#053 (題名・番号は『ナンシー関 全ハンコ 5147』アスペクト2008年による) 紙・消しゴム版画 個人	129 棟方志功 筆くわいの柵 1973 紙・木版 16.5×16.2 青森県立美術館
111 今純三 バラライカ 1919 キャンバス・油彩 89.0×71.0 弘前市立博物館	119 関野準一郎 糸満にての自画像 1975 紙・多色木版 50.0×71.0 青森市教育委員会	122 棟方志功 雑華山房主人像図 1942 板・油彩 31.5×24.0 青森県立美術館	130 棟方志功 長類の柵 1973 紙・木版 15.9×11.4 青森県立美術館
112 今純三 信子像 1926 キャンバス・油彩 44.5×33.3 青森県立郷土館	120 関野準一郎 朝潮 1984 紙・多色木版 47.1×34.9 青森県立美術館	123 棟方志功 コスモス自画像の柵 1959 紙・木版 42.0×25.9 青森県立美術館	131 矢川友弥 堀江佐吉像 明治時代 絹・印画、着彩 144.2×81.8 個人
113 佐野ぬい 青い自画像 1954 キャンバス・油彩 53.0×40.9 青森県立美術館	ナンシー関 21 愛川欽也-3 / 愛川欽也-5 / 袁川翔-1 / 青島幸男-1 / 青島幸男-2 / 朝潮太郎渥 美清-1 / アブドラ・ザ・ブッチャー-3 & アンドレ・ザ・ジャイアント-1 / 淡谷の り子 / アンドレ・ザ・ジャイアント-4 / 池田満寿夫 / 石坂浩二-3 / 石立鉄男-2 / 石原慎太郎-3 / 石原裕次郎-3 / 泉谷 しげる / イチロー / 五木寛之 / 伊奈かつべ い / 福川淳二-2 / 井上ひさし / うつみ宮 土理-3 / 江川卓-2 / えなりかずき-1 / 海老一染之助・染太郎-2 / 海老一染之助 -1 / 海老一染太郎 / 大槻義彦-4 / 小沢 健二&つんく-1 / 桂歌丸-1,2,3,4,5,6,7 / 唐十郎 / カント [イマヌエル・カント] / 菊地寛 / 北の湖 / キルケゴール [セーレン・ キルケゴール] / グレート・カブキ / ケイ ン・コスギ-5 / ケーシー-高峰-1 / 郷ひ ろみ-12 & 若人あきら / 孔子 / 堺すすむ -2 / 坂本龍馬 / ジミー大西-1 / ジャイ アント馬場-12 / ジャイアント馬場-13 / ジャイアント馬場-14 & アントニオ猪 木-8 / ジャイアント馬場-15 / 水前寺 清子-4 / 鈴木慶一 / 関根勤&ルー大柴- 1 / 太宰治-1 / 太宰治-2 / 太宰治-3 / 太宰治-4 / 橋家圓蔵 / 田中邦衛-1 / 千 葉真一-1 / つのだじろう-1 / つのだ☆ ひろ / デカルト [ルネ・デカルト] / デー モン小暮 / 寺山修司 / 徳川綱吉 / 毒蝮三太 夫-1 / トニー谷 / トーマス・エジソン / 永井荷風&イルカ / 長嶋茂雄-9 / 中田英 寿-2 / 中村雅俊-10 / ニーチェ [フリ ードリヒ・ニーチェ]-1 / ニーチェ [フリ ードリヒ・ニーチェ]-2 / ノッポさん [高 見映] とゴン太くん / ヒクソン・グレイシー / 平井堅 / 藤田まこと / プラトン / ベー ーベン-3 / 松本清張 / 三島由紀夫 / 水野 晴郎-1 / 水野晴郎-4 / 三波伸介-2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12 / 棟方志功 / ムーンライダーズ-1 / もたいまさこ-1 / 森繁久彌-3 / 森高千里-1 / 吉幾三- 1 / 吉幾三-2 / ラッシャー木村-2 / 若 乃花 (先代) / 輪島 / 渡辺篤史-1 / 渡辺	124 棟方志功 ロートレックと自画像 1962 紙・木版 63.0×44.2 青森県立美術館	第4章 雪・空・炎-青森の色と光 132 竹森節堂 ねぶた鏡絵「水滸伝 呼延灼と一文書力戦の 図」 1969 紙・着彩 386.0×476.0 弘前大学附属図書館
114 関野準一郎 棟方志功像 1968 紙・多色木版 66.5×53.4 青森県立美術館	125 棟方志功 没然の自画像の柵 1968 紙・木版 36.0×30.0 青森県立美術館	125 棟方志功 大印度の花の柵 1972 紙・木版 36.5×31.5 青森県立美術館	133 竹森節堂 ねぶた見送絵「白拍子 (仮称)」 1969 紙・着彩 386.0×476.0 弘前大学附属図書館
115 関野準一郎 二つの自画像 1972 紙・石版 47.0×32.0 青森市教育委員会	126 棟方志功 大印度の花の柵 1972 紙・木版 36.5×31.5 青森県立美術館	127 棟方志功 くりぐりの柵 1972 紙・木版 16.4×11.3 青森県立美術館	134 小田桐岩蔵 津軽風絵 渡辺綱と鬼女 大正時代 紙・着彩 48.5×33.3 弘前市立博物館
116 関野準一郎 シルクロードの自画像 1981 紙・多色木版 81.0×56.0 青森市教育委員会	127 棟方志功 くりぐりの柵 1972 紙・木版 16.4×11.3 青森県立美術館	128 棟方志功 杓アゴの柵 1972 紙・木版 14.6×12.3 青森県立美術館	135 小田桐岩蔵 津軽風絵 誉田別皇子と武内宿禰 大正時代 紙・着彩 48.5×33.3 弘前市立博物館
117 関野準一郎 石坂洋次郎像 1975 紙・多色木版 46.0×36.0 青森県立美術館	128 棟方志功 杓アゴの柵 1972 紙・木版 14.6×12.3 青森県立美術館		

136 小田桐岩蔵 津軽風絵 岩見重太郎 大正時代 紙・着彩 48.5×33.3 弘前市立博物館	143 中野啓三郎 津軽風 北条時宗 昭和時代 紙・着彩 95.7×66.1 弘前市立博物館	151 小館善四郎 雪・夕 1951 キャンバス・油彩 130.3×89.4 青森市教育委員会	160 棟方志功 宇宙頌 1953 紙・木版、着彩 各106.2×99.8 青森市教育委員会（棟方志功記念館寄託）
137 小田桐岩蔵 津軽風絵 牛若丸と天狗 大正時代 紙・着彩 48.5×33.3 弘前市立博物館	144 中野啓三郎 津軽風 神功皇后と武内宿禰 昭和時代 紙・着彩 109.7×81.8 弘前市立博物館	152 小館善四郎 雪暮 1956 キャンバス・油彩 91.0×116.7 青森市教育委員会	161 村上善男 津軽園、弘前、品川町胸肩神社前線釘打圖 1996 ミクストメディア 227.3×181.8 青森県立美術館
138 柴田某 津軽風絵 金太郎とうさぎ 大正時代 紙・着彩 48.5×33.3 弘前市立博物館	145 中野啓三郎 津軽風 ???? 昭和時代 紙・着彩 141.0×97.0 弘前市立博物館	153 佐野ぬい 回想のハーftime 1994 キャンバス・油彩 112.0×162.0 青森県立美術館	第5章 海と生きる一風土と幻想
139 柴田某 津軽風絵 牛若丸と天狗 大正時代 紙・着彩 48.5×33.3 弘前市立博物館	146 小野忠弘 BLUE 1993 アルミニウム板・ミクストメディア 91.0×182.0 青森県立美術館	154 佐野ぬい 青の構図 1994 キャンバス・油彩 205.0×287.0 青森県立美術館	162 八戸市立湊中学校養護学級昭和50年度在籍生徒指導：坂本小九郎 虹の上をとぶ船 総集編Ⅰより 大鳥に乗って星空を飛ぶ子どもたち 1975 紙・木版 91.0×181.8 青森県立郷土館
140 柴田某 津軽風絵 巴御前奮戦の図 大正時代 紙・着彩 48.5×33.3 弘前市立博物館	147 小野忠弘 BLUE 1993 キャンバス・ミクストメディア 112.1×193.9 青森県立美術館	155 橋本花 兵士の図 1933 キャンバス・油彩 145.2×112.0 青森県立美術館	163 八戸市立湊中学校養護学級昭和51年度在籍生徒指導：坂本小九郎 虹の上をとぶ船 総集編Ⅱより 星空をヘガサスと牛が飛んでいく 1976 紙・木版 91.0×181.5 青森県立郷土館
141 柴田某 津軽風絵 日本武尊 大正時代 紙・着彩 48.5×33.3 弘前市立博物館	148 工藤正義 内海の島 1941 キャンバス・油彩 161.4×112.2 弘前市立博物館	156 橋本花 春の山道 1980 キャンバス・油彩 116.7×90.9 青森県立美術館	164 八戸市立湊中学校養護学級昭和52年度在籍生徒指導：坂本小九郎 虹の上をとぶ船 完結編 1977 紙・木版 182.3×369.0 青森県立郷土館
142 中野啓三郎 津軽風 三国志 昭和時代 紙・着彩 95.7×66.1 弘前市立博物館	149 小館善四郎 雪の日 1941 キャンバス・油彩 116.7×80.3 青森市教育委員会	157 橋本花 奥入瀬渓流 キャンバス・油彩 80.0×116.8 青森県立美術館	165 工藤甲人 北海のアフロディーテ 1990 紙・着彩 197.0×160.0 青森県立美術館
	150 小館善四郎 雪・朝 1951 キャンバス・油彩 130.3×89.4 青森市教育委員会	158 松木満史 採集 1940 キャンバス・油彩 116.7×80.3 青森県立美術館	166 関野準一郎 貝 1948 紙・多色木版 55.7×45.5 青森県立美術館
		159 松木満史 ラ・リュージュ 1961 キャンバス・油彩 116.0×72.0 青森県立郷土館	

- 167
関野準一郎
水族館
1949
紙・多色木版
56.4×44.8
青森県立美術館
- 168
関野準一郎
海のオブジェ
1953
紙・多色木版、シルクスクリーン
46.0×39.0
青森県立美術館
- 169
建部寒葉斎
海鏡図屏風
1772 頃
紙・着彩
六曲一双
各133.3×50.0
青森県立図書館
- 170
豊島弘尚
墓獅子舞 (B)
1968
キャンバス・油彩
194.0×259.0
青森県立美術館
- 171
豊島弘尚
八戸・墓獅子の舞い
1979
紙・ミクストメディア
49.5×65.0
青森県立美術館
- 172
豊島弘尚
MORI OKA ou HACH NOHE 〈響き〉
1979
紙・ミクストメディア
65.0×49.5
青森県立美術館
- 173
豊島弘尚
海をみつめる
1979
紙・ミクストメディア
65.0×49.5
青森県立美術館
- 174
豊島弘尚
Sweden より愛をこめて 北山崎
1979
紙・ミクストメディア
49.5×65.0
青森県立美術館
- 175
豊島弘尚
三陸の夏
1979
紙・ミクストメディア
65.0×49.5
青森県立美術館
- 176
豊島弘尚
ストックホルムより八戸へ
1979
紙・ミクストメディア
65.0×49.5
青森県立美術館
- 177
豊島弘尚
"再び頭部へ" 又は三陸の Sôl ène、又は海
鳴り à Mrioka et Hachinohe
1979
紙・ミクストメディア
65.0×49.5
青森県立美術館
- 178
豊島弘尚
北の闇より
1979
紙・ミクストメディア
65.0×49.5
青森県立美術館
- 179
豊島弘尚
三陸の春
1979
紙・ミクストメディア
65.0×49.5
青森県立美術館
- 180
豊島弘尚
HACH NOHE
1979
紙・ミクストメディア
65.0×49.5
青森県立美術館
- 181
豊島弘尚
〈極北〉〈磁場〉〈霊場〉〈白昼の星〉
1979
紙・ミクストメディア
65.0×49.5
青森県立美術館
- 182
豊島弘尚
三陸冬將軍
1979
紙・ミクストメディア
65.0×49.5
青森県立美術館

平成 22 年度常設展示

Permanent Exhibition 2010

春のコレクション展：花を描く / 没後20年 工藤哲巳：前衛芸術家の魂

2010年3月25日(木) - 6月27日(日)

開催日数：94日間

アレコホール：「マルク・シャガールによるバレエ〈アレコ〉の背景画」(通年展示)

展示室 F 奈良美智インスタレーション (通年展示)

青森県弘前市出身の奈良美智(1959-)は、弘前市の高校を卒業後、東京と名古屋の大学で本格的に美術を学び、1980年代半ばから絵画や立体作品、ドローイングなど、精力的に発表を続けている。青森県立美術館では、1997年から奈良美智作品の収集をはじめ、現在その数は150点を越える。

《Hula Hula Garden》と《ニュー・ソウルハウス》という2点のインスタレーション(空間設置作品)を中心に、奈良美智の世界を紹介。

棟方志功展示室 花鳥を描く

棟方志功(1903-1975)は様々な自然の風景や動植物を作品に描いているが、なかでも季節の花を好み、板画や倭画、油絵で色とりどりの花を描いた。とくに板画においては、対象を簡略化し、模様のように描くという独自の表現方法で、装飾性あふれる美しい作品を数多く制作した。

墨画《花図》、倭画《鷺栖図》、板画《いろは板画柵》など花鳥を描いた作品18点を展示。

展示室 H I J K L 没後20年 工藤哲巳：前衛芸術家の魂

少年時代を五所川原市、弘前市で過ごした工藤哲巳(1935-1990)は、東京藝術大学で学んだ後、「読売アンデパンダン展」を拠点に活躍、1962年にはパリに渡り、以降、帰国するまでの約20年間ヨーロッパを拠点に活動し、現代社会を痛烈に批判した数々の作品を発表した。1990年に55才で亡くなったが、没後も大規模な回顧展が国内外で開催されるなど工藤哲巳に対する注目はさらに高まっている。

工藤哲巳没後20年を機に、当館が所蔵する工藤哲巳コレクションの中から代表作40点の他、周辺資料等も併せて展示し、日本の戦後美術に新しい流れを切り拓いた美術家、工藤哲巳の活動を広く紹介した。

展示室 M P Q 花を描く 橋本花、鷹山宇一を中心に

「花」をテーマに描かれた絵画の特集展示。色鮮やかな花や

果実などを暗緑色の背景の前におき、静謐で幻想的な作品を描いた七戸町出身の鷹山宇一(1908-1999)の作品6点、その名のとおり「花」を得意とし、親密な共感にみちた花々を描いた青森市出身の橋本花(1905-1983)の作品13点、そして弘前市出身の日本画家、工藤甲人(1915-2011)の花を描いた屏風2点を展示。

展示室 O 成田亨：怪獣デザインの美学

青森県出身の成田亨(1929-2002)が手がけた「ウルトラ」シリーズの怪獣デザイン原画を紹介。今回はその中でも人気の高い『ウルトラマンイラスト』、『ウルトラマン初稿』(3点)、『カネゴン初稿』(2点)、『キングジョー初稿』を含む15点を展示。

展示室 G 寺山修司：寺山修司幻想写真館 犬神家の人々～旧ゴバース弘子コレクションから

写真家の森山大道、立木義浩、篠山紀信らと写真や映画のコラボレーションを続けていた寺山修司(1935-1983)は1973年に自らカメラマンとなることを志し、演劇公演の合間をぬっては写真撮影に取り組み、多くの作品を生み出した。作品は1975年の写真集『犬神家の人々』にまとめられ、フランスの写真雑誌「ZOOM」にも特集記事が掲載されるなど、大きな反響を呼んだ。

やがて「天井桟敷新聞」や、演劇理論誌「地下演劇」の表紙が寺山の写真で飾られるようになり、さらには「平凡パンチ」のグラビアページの撮影も引き受けるなど、写真家としても旺盛な活動を行っていった。

今回の展示では、寺山の写真作品32点を紹介。なお、展示作品は、天井桟敷海外公演のコーディネイト等を長年務めたゴバース・弘子氏のコレクションであり、彼女のプロデュースで、1976年から78年にかけてヨーロッパ各地で開催された写真展「寺山修司◎幻想写真館犬神家の人々」に出品された貴重な作品群である。

協力：三沢市寺山修司記念館、株式会社テラヤマ・ワールド

展示室 N 特別史跡三内丸山遺跡出土の重要文化財：縄文の表現 (通年展示)

特別史跡三内丸山遺跡は我が国を代表する縄文時代の拠点的な集落跡。縄文時代前期中頃から中期終末(約5500年前-4000年前)にかけて長期間にわたって定住生活が営まれた。これまでの発掘調査によって、住居、墓、道路、貯蔵穴など集落を構成する各種の遺構や多彩な遺物が発見され、当時の環境や集落の様子などが明らかとなった。また、他地域との交流、

交易を物語るヒスイや黒曜石の出土、DNA 分析によるクリの栽培化などが明らかになるなど、数多くの発見がこれまでの縄文文化のイメージを大きく変えた。遺跡では現在も発掘調査がおこなわれており、更なる解明が進められている。

一方、土器や土偶などの出土品の数々は、美術表現としても重要な意味を持っている。当時の人間が抱いていた生命観や美意識、そして造形や表現に対する考え方など、縄文遺物が放つエネルギーは数千年の時を隔てた今もなお衰えず、私達を魅了し続けている。

国指定重要文化財の出土品の一部を展示し、三内丸山遺跡の豊かな文化の一端を紹介。

* 展示品はすべて青森県立郷土館所蔵

夏のコレクション展：×A プロジェクトno.9 上田信の世界/
没後20年 工藤哲巳：前衛芸術家の魂

2010年6月30日(水)－8月29日(日)

開催日数：61日間

※ 以下、展示替えの行われた展示室のみ記載

棟方志功展示室 躍動する神仏

板画『観音経曼荼羅』、『東西南北頌』、『湧然する女者達々』など、棟方志功は躍動感あふれる神仏を数多く描いた。白と黒の対比や、墨面に白い描線を掘り起こして描く手法など独自の表現方法で描かれたそれらの作品は、棟方板画の特色の一つである大画面において、いっそう力強さを増している。

宗教を身近な存在として捉えていた棟方は、神仏を型にとられることなく自由な姿で描き表しており、棟方の代表作『二菩薩釈迦十大弟子』においても、仏弟子たちは莊厳でありながらもどこか人間味のある姿をしている。また、板画だけでなく倭画においても自由闊達に筆を走らせている。

ダイナミックに表現された棟方の神仏作品9点を紹介。

展示室 M 澤田教一：安全への逃避

青森市に生まれた澤田教一(1935－1970)は、青森高校を卒業後、三沢基地内の写真展で働きながら写真を学び、1961年夏、プロのカメラマンを目指して上京。半年後にUPI通信社東京支局写真部に入社してからは、戦場カメラマンの道をまっしぐらに突き進んだ。

ジャーナリズムの最も権威ある賞とされるピューリッツァー賞を受賞した『安全への逃避』以後も澤田は、『泥まみれの死』(1966年)、『敵をつれて』(1966年)など、たて続けに傑作を生み出している。そして1970年3月にはクーデターの勃発で混乱を極めるカンボジアでの取材を始めるが、同年10月、プノンペン近郊に取材に出かけた澤田は、移動中にクメール・ルージュと思しき一群の銃弾に倒れた。

わずか5年ほどの報道カメラマンとしてのキャリアの中で、生命を危険にさらしながらカメラでもぎ取った戦場の過酷な現実。澤田の写真は、ベトナム戦争の真実をもっとも雄弁に語るイメージとして、世界中で高い評価を得ている。

当館コレクションの中から25点を展示。

展示室 P Q ×A プロジェクト no.9 上田信のイラスト世界 ～「ミリタリー」、「キャラクター」から「図解」まで

上田信(1949－)は青森県蓬田村生まれ。中学卒業と同時に上京し、小松崎茂の最後の内弟子として5年間小松崎と生活を共にし、作画を学んだ。その後、イラストレーターとして独立、主にミリタリー関連の仕事を中心に活動を続けている。1969年、初めて描いたボックスアートであるタミヤ1/100「ミニジェット機シリーズ」が好評を得、その後、他のメーカーのパッケージも描くようになった。

上田はまた、著名な軍装品コレクターの一人であり、ミリタリー研究者としても知られている。武器、戦闘シーンの緻密な描写には定評があり、著書『コンバット・バイブルアメリカ

陸軍教本図解マニュアル』(1992年、日本出版社)は台湾等でも翻訳出版され、大きな話題を集めた。現在も、雑誌の挿絵や商品のパッケージイラストを多数担当。ミリタリー、漫画、アニメ、歴史もの、空想科学ものまでジャンルを問わず、また小松崎様式を受け継ぐ絵物語からエアブラシを用いた精密画、カラフルな子供向けイラスト、線描による漫画まで幅広い技法で多彩な作品群を発表している。

今回は、そうした多彩な活動を、原画および習作115点とその他関連資料により紹介。

展示室 O 成田亨：怪獣デザインの美学

青森県出身の成田亨(1929-2002)が手がけた「ウルトラ」シリーズの怪獣デザイン原画を紹介。今回はその中でも人気の高い『カネゴン決定稿』、『バルタン星人決定稿』、『ラゴン』等15点を展示。

秋のコレクション展：成田亨 × 高山良策 / 版画(あおり国際版画トリエンナーレ関連企画)

2010年9月1日(水) - 11月28日(日)

開催日数：86日間

※以下、展示替えの行われた展示室のみ記載

棟方志功展示室「柵(さく)」の連なり

棟方志功は自らの版画作品ひとつひとつを「～の柵」と呼び表した。「柵」には寺々を巡る時に納める御札の意味がこめられている。お遍路さんが願をかけてお寺に御札を納めていくのと同様に、作品に念願を込めて自分の生涯に道標として一つずつ置いていくのだといい、そしてその柵がどこまでもどこまでも無限に続いていくことを願っていた。

一枚の板から複数枚の作品が生まれるという版画の性質に無限の拡がりを感じとった棟方は、それまでの版画の常識を打ち破る数々の大作を生み出した。作品のひとつひとつに特別な想いを込めて柵と名づけた棟方版画の壮大な世界を12点の作品により紹介。

展示室 H I 生誕100年記念 阿部合成の世界

平成22(2010)年は、青森市浪岡出身の画家、阿部合成(1912-1972)の生誕100年にあたる。

阿部合成の、芸術家としての苦悩に満ちた生涯は針生一郎の評伝のタイトル「修羅の画家」とともによく知られている。また、阿部は青森中学で作家、太宰治の同級生であり、生涯を通じての親友としても知られ、太宰の死後、太宰の故郷、金木町(現在の五所川原市)芦野公園の太宰治碑をデザインした。『道化の華』、『親友交歓』、『花吹雪』といった太宰の小説には、阿部合成をモデルとした登場人物が書かれていると指摘されている。

阿部の作品には、浪漫的な詩情とともに、太宰とも共通する、人間の深淵を見つめるような絶望、苦悩する他者に寄せる共感に満ちた眼差しと、深い祈りの心がうかがえる。今回の展示では、展示室Iにサーカスや道化のテーマ、メキシコで出会った土俗的な宗教に触発された祈りの作品、そして故郷の風景や家族等を描いた作品、スケッチブック・素描等を展示し、画家の全体像を紹介。また、展示室Hには、1959年から1960年、1963年から64年と2回にわたって滞在したメキシコシティで開催された個展に出品された作品を中心に、現地で描かれた作品および関連資料も併せて展示した。

展示室 L J K あおり国際版画トリエンナーレ 2010 開催記念企画 版画特集：木版画と銅版画 ー伝統と創造ー

木版画と銅版画は、どちらも長い伝統を持っている。木版画は江戸時代の浮世絵から現在まで、日本ではなじみの深い技法であり、一方、西洋では古くから銅版画が普及し、数々の名品がつくられた。あおり国際版画トリエンナーレの開催を記念し、それぞれの技法が生み出す表現の魅力を特集で紹介した。

関野準一郎『棟方志功像』～版木が明かす創作の秘密(展示室L)

『棟方志功像』は、関野準一郎(1914-1988)の代表作の一つである。本作は浮世絵と同じ木版による多色摺の技法で、何枚もの版木を摺り重ね、線と色彩によって構図を巧みに組み立てながら、摺り具合による微妙な効果も取り入れて力強い作品に仕上げられている。

青森県立美術館では、その作品とともに、制作に用いられた版木と、版木を摺重ねてゆく過程を知ることができる貴重な資料を所蔵している。作品とともにこれらの資料を併せて展示し、完成作をみているだけではわからない、創作の秘密を紹介した。

銅版画の多彩な魅力(展示室JK)

西洋では長い歴史を通して銅版に絵を刻む方法がいくつも開発されてきた。青森県立美術館が誇る版画コレクションから、これらの技法を自在に使いこなした巨匠たち(レンブラント・ファン・レイン、ウィリアム・ブレイク、マックス・クリンガー)の名品を紹介。さらに、20世紀のフランスで、西洋の伝統から独創的な表現を生みだして人々を感嘆させた2人の日本人、長谷川潔(1891-1980)と浜口陽三(1909-2000)の代表作を紹介した。

展示室PQM 成田亨×鷹山宇一 怪獣・幻想・シュルレアリスム

彫刻家・成田亨と画家・高山良策(1917-1982)は、『ウルトラQ』、『ウルトラマン』、『ウルトラセブン』における怪獣デザインとその造形の仕事によって広く知られている。一見すると彫刻家のデザインを画家が立体化するという関係性は、逆転した役回りのようだが、2人の芸術家によるコラボレーションは、現在でも人気の高い怪獣や宇宙人を次々と生みだしていた。

成田は怪獣をデザインするにあたり、自然界に存在する動植物など既存のイメージを引用しながらも、それらが本来的にもつ意味やバランスといった関係性を無視し接合、抽象化することにより、意外性のあるフォルムを追求した。その創作方法は、互いにかけてはなれた事象の出会いの効果によって思いがけない関係性を生み出すシュルレアリスムの技法、コラージュを想起されるとともに、想像上の生き物としての怪獣が元来もつ自然界との神秘的な結びつきを感じさせる。

一方、成田の怪獣デザインを造形化したことで知られる高山良策は、日本のシュルレアリスムを移植した福沢一郎に師事し、美術文化協会を舞台に画家としての活動を開始。以降、山下菊二や中村宏らとともにシュルレアリスム的な表現に社会風刺を織り交ぜたルポルタージュ絵画を制作し、後年は、異形の人間像や不可思議なオブジェなどが画面を支配する独自の幻想絵画へと到達した。こうした前衛画家としての高山の姿勢は、怪獣造形においても反映されており、半世紀近い時を経た現在もお多くの人々を魅了し続けている。

高山が造形を手がけた成田亨による怪獣および宇宙人のデザイン原画を中心に、高山良策の絵画作品、そして2人が携わったウルトラ怪獣の関連資料などを併せて紹介した。

冬のコレクション展：東北新幹線全線開業記念

2010年12月4日(土) - 3月27日(日)

開催日数：93日間 ※ 東日本大震災発生の影響により、3月15日(火)で終了。

※ 以下、展示替えの行われた展示室のみ記載

棟方志功展示室 文芸の世界

文学を好んだ棟方志功は、詩歌や小説、また謡曲など様々な文芸作品を題材に板画を制作した。第2回新文展において版画として初の特選を受賞し、板画家としての地歩を固める契機となった作品、謡曲「善知鳥」をテーマに描いた『勝鬘譜善知鳥版画曼荼羅』をはじめ、文人たちの歌集、句集による数十点もの連作板画を次々と制作している。

さらに、棟方は多くの本の装幀、挿絵も手がけた。なかでも谷崎潤一郎の小説『鍵』の挿絵として制作された『鍵板画冊』(1956年)は59点もの枚数からなる大作で、各場面を細やかな線で装飾的に描きながら、谷崎小説の官能的なイメージを表現している。

優れた文芸作品を題材に制作された棟方の独創的な板画作品19点を展示。

展示室H 小島一郎 都市と地方のはざま

青森市大町で、玩具と写真材料を扱う商店の長男として生まれた小島一郎(1924-1964)は、青森県立商業高校(現在の青森県立青森商業高等学校)を卒業後、出征。戦後の混乱期を経て、昭和29年頃から本格的に写真を始める。

青森に生きる人々への深い共感を、覆い焼きや複写の技法を駆使しながら、印画紙に刷り込むようにして力強く焼きつけた写真の数々は、39歳という早すぎる死の後、展覧会や写真雑誌で取り上げられ、近年その評価は高まり続けている。

今回は、遺族より当館に寄託されている3000点以上におよぶ作品・資料の中から代表作76点を展示し、小島一郎の生涯の活動を展観した。

展示室I 斎藤義重 思考する板

絵画や彫刻といったジャンル分けを超えた独自の表現を追求した斎藤義重(1904-2001)。

1960年代以降は、電気ドリルを使って合板に線を刻んだ連作を発表することで、作品の物質性に重点をおき、1970年代末からは空間を取り込んだ立体作品へと移行していった。

今回は、後期作品の重要な素材であった板(主にスプルース材)に着目し、その幾何学的な構成による作品を紹介。そこでは、木の素材感が可能な限り消された板が多様に重なり、また複雑に構成されることで、板と板との緊張感ある関係、そして板と空間との豊かな関わりが追求されている。

展示室 K 小野忠弘 砂のなみだ

弘前市出身の小野忠弘（1913 - 2001）は、廃品を利用したジャンク・アートの第一人者としてヴェネツィア・ビエンナーレに出品するなど、世界的にも高く評価された前衛のアーティストである。福井県の三国町に居を定め、教鞭をとるかたわら、古美術や考古学にも造詣が深く、同地の文化財審議委員などもつとめた。今回は、戦後、前衛芸術の旗手として活躍していた時期の作品と、最晩年、衰えることのない旺盛な制作意欲をもってジャンク・アートに取り組んでいた時期の作品10点を展示。廃物や色彩の乱舞から詩をつむぎだす小野忠弘の唯一無二の美意識が織りなす世界を紹介した。

展示室 J 成田亨：怪獣デザインの美学

成田亨の、美術家としての高い感性によってデザインされたヒーロー、怪獣は、モダンアートの成果をはじめ、文化遺産や自然界に存在する動植物を引用して生み出される形のおもしろさが特徴である。誰もが見覚えのあるモチーフを引用しつつ、そこから「フォルムの意外性」を打ち出していくというその一貫した手法からは、成田の揺らぐことのない芸術的信念が読みとれる。初期ウルトラシリーズの怪獣デザイン原画等24点を展示。

展示室 L 石井康治 心象

千葉県に生まれた石井康治（1946 - 1996）は、東京藝術大学卒業後、ガラス工芸作家として活動を開始。その制作の地として選んだのが青森であった。青森市にある北洋硝子株式会社において作家としての本格的な活動を開始した石井は、1991年には青森市三内丸山に念願の工房「石井ガラススタジオ青森工房」を開設。1996年に急逝するまで、精力的に作品制作に取り組み、青森の自然の中からもモチーフを得た多彩な作品を生み出した。

「青森でできた自分の作品を、青森の人たちに見てもらえるスペースを作りたい」と生前、作家本人が語っていた志を遺族が受け、現在、当館に寄託されている150点余りの作品の中から、11点を展示。

展示室 M 工藤甲人 女神と自然

工藤甲人（1915 - 2011）は、現在の弘前市百田に生まれ、戦後、新しい日本画を創り出そうとした美術団体、創造美術、新制作日本画部、創画会を活動の舞台として、故郷津軽の風土に根ざし、夢幻の世界と現実の世界のはざまを漂う独特の画風を築き上げた。

今回の展示では、工藤の絵を描く精神がそこに集大成された春夏秋冬の四部作『休息』『渴仰』『化生』『野郷仏心』と、北国の自然、そこに生きる人間の心のかたちを女神の姿で描いた代表作『光昏』、『夢と覚醒』の2点を展示。

展示室 P Q 今純三、関野準一郎 版画への挑戦

弘前市に生まれた今純三（1893 - 1944）は、高等小学校卒業と同時に一家で上京し、青年時代を東京で過ごした。東京時代の純三は、洋画家を志して官展等に出品するなど意欲的に制作活動に打ち込んでいたが、1923年の関東大震災発生により青森市に帰郷、純三の生活は一変することとなった。

青森市に居を構えた純三は、生活の糧を得るため印刷の仕事に従事したことを契機に石版画、銅版画等の研究に独力で着手。東京時代に手にした銅版画の技法書を片手に、材料からプレス機に至るまでを手作りするなど独自の研究を積み重ね、数多くの版画作品を制作していった。純三のアトリエには、美術家を志す若者達がこぞって訪れ、制作について学んだといわれる。その中でも、戦後、版画家として活躍した関野準一郎は、戦後まもない時期に東京高円寺の自宅を「火葬町銅版画研究所」と称して開放し、戦後日本における銅版画普及に尽力した。今回は、青森県立郷土館所蔵作品資料を含む今純三、関野準一郎の作品40点を展示。

協力：青森県立郷土館

展示室 G 寺山修司 青少年のための寺山修司入門

寺山修司が活躍した1960 - 70年代は、いわゆるアングラ文化が全盛の時代であった。高度成長により近代化が急速に進む一方、社会的な構造と人間の精神との間に様々な歪みが生じ、そうした近代資本主義社会の矛盾を告発するかのように権力や体制を批判、従来の価値観を否定していく活動が盛んになっていった。特に寺山は大衆の興味や関心をひきつける術に特異な才能を発揮した。演劇や実験映画ではそれが顕著で、演劇、映画のあらゆる「約束事」が否定され、感情や欲望を刺激するイメージで覆い尽くされた寺山の斬新な作品は多くの人々を虜にしていった。

寺山が主宰したアングラ文化の象徴ともいえるべき「演劇実験室◎天井桟敷」のポスター12点と、豊かなイメージの世界を描いた数々の実験映画を、寺山の片腕として活躍した森崎偏陸による編集により紹介。

学芸

美術資料貸出状況

作品保存修復

凡例

- 1 「美術資料収集」における作品データは、作家名、作品名、制作年、寸法（高さ × 縦 × 横、cm）、技法、収集区分の順に記した。
- 2 「美術資料貸出状況」における作品データは、作家名、作品の順に記した。

美術資料貸出状況

春の展示 「版画から『板画』へ」

貸出先
・棟方志功記念館
展示施設（会期）
・棟方志功記念館
（10 / 3 / 30 - 10 / 6 / 20）
貸出点数：2
作品名
・棟方志功「双天妃の柵」
・棟方志功「大和し美し 矢燕の柵」

死なないための葬送—荒川修作初期作品展

貸出先
・国立国際美術館
展示施設（会期）
・国立国際美術館
（10 / 6 / 17 - 10 / 6 / 27）
貸出点数：1
作品名
・荒川修作「作品」

棟方志功 祈りと旅

貸出先
・朝日新聞社
展示施設（会期）
・山口県立萩美術館・浦上記念館
（10 / 6 / 12 - 10 / 8 / 15）
・静岡市美術館
（11 / 2 / 11 - 11 / 3 / 27）
貸出点数：1
作品名
・棟方志功「八甲田山麓園」

国展の作家達

貸出先
・八戸市美術館
展示施設（会期）
・八戸市美術館
（10 / 7 / 17 - 10 / 8 / 22）
貸出点数：8
作品名
・石ヶ森恒蔵「静物（浩宮様御歌に関して）」
・石ヶ森恒蔵「地蔵の庭」
・名久井由蔵「ランプと栗」
・名久井由蔵「夜の静物」
・名久井由蔵「モンマルトルにて」
・名久井由蔵「ノートルダム寺院」
・名久井由蔵「静物」
・名久井由蔵「版画集」

青森県立美術館コレクション 棟方志功+成田亨+奈良美智 idol3

貸出先
・尾道市立美術館
展示施設（会期）
・尾道市立美術館
（10 / 8 / 28 - 10 / 10 / 17）
貸出点数：116
作品名
・奈良美智「Last Right」
・奈良美智「The Last Match」
・奈良美智「Pancake Kamikaze」
・奈良美智「So far apart」
・奈良美智「Grinning Little Bunny」
・奈良美智「Little Red Riding Hood」
・奈良美智「Dog From Your Childhood」
・奈良美智「Upset Kitty」
・奈良美智「10 feet angry pup」
・奈良美智「Lampflowers」
・奈良美智「Solitude」
・奈良美智「Don't Care」
・奈良美智「Comfort & Joy of Feeding Lost」
・奈良美智「Untitled」
・奈良美智「Cover for Yuki's Band」
・奈良美智「Let's Go! Dan, Dan, Dan」
・奈良美智「Faked E.S.P」
・奈良美智「Kill Your Timid Nation」
・奈良美智「Do You Believe in Magic?」
・奈良美智「So Far Apart」
・奈良美智「All Right」
・奈良美智「Ausgang? Wo?」
・奈良美智「Where is Your Dream?」
・奈良美智「Untitled」
・奈良美智「Play it Loud」
・奈良美智「1987 in Nagoya」
・奈良美智「Nowhere Girls」
・奈良美智「Dead or Peace」
・奈良美智「Untitled」
・奈良美智「犬の山・まぼろしの犬の山」
・奈良美智「まぼろしの犬のピラミッド」
・奈良美智「QT（幽霊犬 スタディー）」
・奈良美智「MUMPS」
・奈良美智「Kind of Blue」
・奈良美智「珍宝先生のお話」
・奈良美智「Christ mas」
・奈良美智「QT（チェッカーズ）」
・奈良美智「Seejuncfrau」
・奈良美智「Bockdorf」
・奈良美智「QT (plant)」
・奈良美智「QT (house)」
・奈良美智「Dream, Touch」
・奈良美智「QT（アザラシ）」
・奈良美智「I don't say Good-bye」
・奈良美智「Duckings Gal Gal」
・奈良美智「FRATE PRUOE」
・奈良美智「I Don't Know Why」
・成田 亨「アイロス星人」

・成田 亨「アントラー初稿」
・成田 亨「イカルス星人イラスト」
・成田 亨「イモラ」
・成田 亨「ウーA案」
・成田 亨「ウー頭部」
・成田 亨「ウルトラセブン初稿」
・成田 亨「ウルトラセブン初稿」
・成田 亨「ウルトラマンイラスト」
・成田 亨「ウルトラマン初稿」
・成田 亨「ウルトラ警備隊隊員コスチューム」
・成田 亨「ウルトラ警備隊隊員コスチューム」
・成田 亨「カネゴン初稿」
・成田 亨「ガヴァドン成獣」
・成田 亨「ガボラ」
・成田 亨「ガボラ」
・成田 亨「キーラ初稿」
・成田 亨「グビラ初稿」
・成田 亨「ゲスラ決定稿」
・成田 亨「ゲスラ初案」
・成田 亨「ゴーガ」
・成田 亨「ゴモラ初稿」
・成田 亨「ゴルゴス」
・成田 亨「ゴルドン初稿」
・成田 亨「サイゴ」
・成田 亨「ザラガス」
・成田 亨「ザンボラー」
・成田 亨「ビートル2号試作」
・成田 亨「シャドー星人イラスト」
・成田 亨「ゼットンイラスト」
・成田 亨「セミ人間頭部」
・成田 亨「ゾフィーイラスト」
・成田 亨「ダダ」
・成田 亨「ドラコ決定稿」
・成田 亨「にせウルトラマン」
・成田 亨「ネロンガ決定稿」
・成田 亨「バゴス」
・成田 亨「バゴス」
・成田 亨「バド星人頭部デザイン」
・成田 亨「バルタン星人初稿」
・成田 亨「ピーター初稿」
・成田 亨「ビートル2号」
・成田 亨「ヒドラ」
・成田 亨「ピラ星人決定稿」
・成田 亨「ヘガッサ星人」
・成田 亨「ボスタング」
・成田 亨「ボスタングの卵」
・成田 亨「ラゴン」
・成田 亨「レッドキング」
・成田 亨「ワイルド星人」
・棟方志功「十和田湖の柵」
・棟方志功「黒富士の柵」
・棟方志功「哀父頌 胸傷の柵」
・棟方志功「哀父頌 榊の柵」
・棟方志功「合浦公園の柵」
・棟方志功「鉄嘴の柵」
・棟方志功「夫霊の柵」
・棟方志功「十三砂山の歌の柵」
・棟方志功「赤富士の柵」
・棟方志功「勝鬘譜善知鳥版画曼陀羅」

・棟方志功「賜顔の柵」
・棟方志功「花矢の柵」
・棟方志功「瘋癲老人日記板画柵屏風」
・棟方志功「大印度の花の柵」
・棟方志功「青森山之神図」
・棟方志功「御吉祥大辨財天御妃尊像図」
・棟方志功「angels (A)」
・棟方志功「angels (B)」
・棟方志功「御三尊像図」

秋の展示 「世界のムナカタ」

貸出先
・棟方志功記念館
展示施設（会期）
・棟方志功記念館
（10 / 9 / 7 - 10 / 11 / 28）
貸出点数：17
作品名
・棟方志功「御老樹」
・棟方志功「あぼかあど等」
・棟方志功「ボブラ」
・棟方志功「樹山」
・棟方志功「リバーサイド」
・棟方志功「美魅寿玖と自画像」
・棟方志功「舞妃の柵」
・棟方志功「双天妃の柵」
・棟方志功「手鏡の柵」
・棟方志功「木立」
・棟方志功「モンマルトル・ムーランルージュの柵」
・棟方志功「オーベールのゴッホの教会の柵」
・棟方志功「スペイン・マドリッドの柵」
・棟方志功「ロートレックと自画像」
・棟方志功「巴里セーヌ河の柵」
・棟方志功「摩那那発門多に建立すの柵」
・棟方志功「没然の自板像の柵」

Yoshitomo Nara: Nobody's Fool

貸出先
・Asia Society Museum New York
展示施設（会期）
・Asia Society Museum New York
（10 / 9 / 8 - 11 / 1 / 2）
貸出点数：13
作品名
・奈良美智「Amuro Girl」
・奈良美智「Puffy Girl」
・奈良美智「Futaba House, Waiting for Rain Drops」
・奈良美智「There is No Place Like Home」
・奈良美智「積木がくずれる夜、大粒の涙」
・奈良美智「Birdy's」
・奈良美智「SAVOY」
・奈良美智「Final Count」

- ・奈良美智「Stand By Me」
- ・奈良美智「Underground Giche」
- ・奈良美智「般若猫」
- ・奈良美智「White Flat」
- ・奈良美智「続いてゆく道に」

ウルトラマン・アート！

貸出先

- ・「ウルトラマン・アート！展」実行委員会
- 展示施設（会期）
- ・北海道立旭川美術館
（10 / 9 / 18 - 10 / 11 / 28）

貸出点数：28

作品名

- ・成田 亨「アントラー初稿」
- ・成田 亨「ウルトラセブン初稿」
- ・成田 亨「ウルトラホーク2号」
- ・成田 亨「ウルトラマン初稿」
- ・成田 亨「ウルトラ警備隊マーク」
- ・成田 亨「カネゴン初稿」
- ・成田 亨「ガブラ」
- ・成田 亨「ガラダマ」
- ・成田 亨「キュラソ星人頭部デザイン」
- ・成田 亨「キングジョー初稿」
- ・成田 亨「グビラ決定稿」
- ・成田 亨「ケムール人」
- ・成田 亨「ゴルドン」
- ・成田 亨「ジラース」
- ・成田 亨「ゼットン」
- ・成田 亨「ゼットンイラスト」
- ・成田 亨「ダダ頭部（2点）」
- ・成田 亨「バラージ「ノアの神」神殿セット」
- ・成田 亨「ビッド星人」
- ・成田 亨「ブルトン」
- ・成田 亨「ブルトン」
- ・成田 亨「ベムラー」
- ・成田 亨「ベムラー（ウルトラマン）初稿」
- ・成田 亨「ボール星人」
- ・成田 亨「ウルトラ警備隊セット（ホーク1号発進口）」
- ・成田 亨「人工生命M1号決定稿」
- ・成田 亨「ウルトラマンイラスト」
- ・成田 亨「ウルトラ警備隊隊員コスチューム」

冬の展示

「棟方志功の倭画」

貸出先

- ・棟方志功記念館
- 展示施設（会期）
- ・棟方志功記念館
（10 / 11 / 30 - 11 / 3 / 13）

貸出点数：2

作品名

- ・棟方志功「御吉祥大辨財天御妃尊像図」
- ・棟方志功「御三尊像図」

作品保存修復

保存管理

展示・保管している美術資料の公開と保存を両立させるため、温湿度等の空調や照度の調整、粉塵・有害ガス・虫菌害等の定期的な環境調査の実施などにより展示・収蔵環境を管理している。

また、日常的な点検に基づき、必要に応じて収蔵作品等のマット装や表装・額装の改善、保存箱の作成、専門家による調査・保存処置等を行った。さらに、基本データの整理、写真撮影による画像データの記録をおこなった。

教育普及

普及プログラム

スクールプログラム

サポートスタッフ

メンバーシッププログラム

普及プログラム

創作支援のためのプログラム

1 企画展・共催展関連ワークショップ、オープンアトリエ

(1) [ローマ展関連]

オープンアトリエ「壁画ってどんなかんじ？」

ローマ展に出品されている絵画はすべて壁に描かれたものです。壁画ってどう描くの？どんな触感？ついつい触ってみたいくなってしまいます。今回のオープンアトリエは、おおきなパネルに漆喰（しっくい）を塗って、壁をつくりながら絵を描いていくというものなのです。

日時：5月8日（土）、15日（土）、22日（土）

13：00 - 17：00 ※ 時間内出入り自由

場所：ワークショップB、創作ヤード

講師：美術館スタッフ

対象：どなたでも

料金：無料

参加者数：85名

(2) [ロボットと美術展関連]

プレイベント オープンアトリエ 島脇秀樹「ロボットプラモを作ろう！」

7月10日スタートの企画展、「ロボットと美術」展のプレイベントとして、「ロボットプラモを作ろう！」をオープンアトリエ形式ではじめます。先にお申し込み頂いた10名様までは、美術館が用意したロボットプラモを制作し、展覧会開催中は、館内に展示されます。また、お申し込み頂かない方も、プラモデルと、工具を持ち込んで頂ければ、同会場と一緒に制作することができます。

日時：6月13日（土）、19日（土）、20日（日）

13：00 - 17：00

場所：ワークショップB

講師：島脇秀樹（プロモデラー）

対象：小学生以上

定員：10名

料金：無料（制作するプラモデルの種類は選べません）

参加者数：91名

(3) [ロボットと美術展関連]

プレイベント ワorkshop 上田信「ロボットイラストの描き方」

「ロボットと美術」展に関連して、青森県立美術館常設展の継続的プロジェクト、×Aプロジェクトにて、初の個展を開催する、青森出身のイラストレーター上田信さん。現在も、プラモデルの箱絵から雑誌のイラスト、モチーフも戦車、飛行機からガンダムまで、幅広く活動しています。そんな上田さんに、ロボットイラストの描き方を教わるワークショップを開催。

日時：6月27日（日）14：00 - 17：00

場所：ワークショップA

講師：上田信（イラストレーター）

対象：小学生以上

定員：20名

料金：無料

参加者数：20名

(4) [ロボットと美術展関連]

ロボット展オリジナルのペーパークラフトを使って、動くロボットをつくります。

日時：7月11日（日）13：00 - 16：00

場所：ワークショップB

講師：飛内源一郎、鳴海琢也

対象：小学生以上

定員：20名

料金：無料

参加者数：28名

(5) [ロボットと美術展関連]

ワークショップ「鉄板でつくろう！ロボットオブジェ」

ロボットの部品となる鉄板をひたすらたたき続けるワークショップ。彫刻家・首藤晃さんを講師に、みんなでひとつのロボットオブジェをつくります。自分の名前を刻印したパーツを、首藤さんが組み立ててロボットの完成。ワークショップBが、ロボット工場に早変わり。できあがったロボットは、会期中B2F 総合案内前に展示されます。

日時：7月24日（土）9：00－17：00

※ お昼休憩をはさみます。

場所：ワークショップA

講師：首藤晃（彫刻家・青森中央短期大学准教授）

対象：中学生以上

定員：20名

料金：無料

参加者数：8名

(6) [ロボットと美術展関連]

ワークショップ「夏休みわくわくロボット工作教室ーメカ・マンモスをつくるー」

メカマンモスは古代と未来をつなぐロボット。首をふる仕組みはどうなっているの？四本の足を交互に動かして歩けるのはなぜ？そんな疑問も楽しく工作すればきっとわかるはず。工作しながら、ロボットの体を動かす仕組みについて学びます。

日時：8月8日（日）13：30－17：00

場所：ワークショップB

講師：野坂佳孝（十和田市立法奥小学校教諭）

対象：小学生以上

定員：30名

料金：無料

参加者数：81人

(7) [青木淳 × 杉戸洋展関連]

ワークショップ「生きている美術館」

このワークショップは、青森県立美術館の建物のまだ知られていない魅力にふれ、それをさらに引き出すための工夫を、みんなで考えるものです。講師は、青森県立美術館を設計した青木淳さんと、青木さんが敬愛するアーティストで、国内外で活躍する画家の杉戸洋さん。お二人とともに、弘前市内に残る前川國男建築を見ながら、建物の魅力について話し合います。その後、青森県立美術館をまわって、この建物がもう一步先に進むために何かを足すとすれば、どんなものがありえるのか、想像してみます。

日時：10月10日（金）10：00－17：00

場所：弘前市内、青森県立美術館

講師：青木淳（建築家）、杉戸洋（画家）

対象：どなたでも（中学生以下は保護者同伴）

定員：20名

参加料：2000円 ※ 昼食代、バス代を含みます。

参加者数：28名

2 オープンアトリエ

(1) 「クリスマス・お正月 ふゆじたくオープンアトリエ」

青森県立美術館の素敵なワークショップ室を、みんなのアトリエにしちゃいましょう。道具を持ちこめば、なんでも作ることができます。期間中、スタッフはクリスマスやお正月にまつわるものを制作。一緒に作ってみてもおもしろいかもしれません。

日時：12月4日（土）5日（日）、11日（土）12日（日）、

18日（土）19日（日）9：30－16：00

※ 時間内出入り自由

場所：ワークショップB

講師：美術館スタッフ

対象：どなたでも

料金：無料

参加者数：400名

3 その他

(1) [アピオあおもり「ごじゃらっと広場」関連]

「かんたん！石膏像づくり」

県美がアピオにやってくる！寒天で自分の指をかたどって、石工像を作りましょう！

日時：5月16日（日）

場所：アピオあおもり

講師：美術館スタッフ

対象：小学生以上

定員：20名

参加料：無料

(2) [青い森に連れてって関連]

「伊藤ゴロー 音楽ワークショップ」

「青森」をテーマにした音楽をつくるワークショップ。その場にいらっしやっただみなさんの話しことば（方言）を採集し、メロディーをつくります。さらに、インスタレーションされているサウンドスケープと合体させてみます。伊藤ゴロー氏の音楽づくりを体験できるワークショップです。

日時：1月16日（金）14：00－15：00

場所：コミュニティギャラリーB

講師：伊藤ゴロー（ミュージシャン）

対象：どなたでも

参加料：無料

参加者数：38名

スクールプログラム

概要

未来の青森県を担う感性豊かな人材を育成するためには、多くの子どもたちに対して、優れた美術作品に出会い本物が持つ素晴らしさを体験し、ふるさと青森の芸術文化や先人を学ぶ機会を提供することで、郷土に対する誇りが持てる鑑賞指導を行うことが極めて重要である。

このため、子どもたちが居住地や家庭環境の違いの影響を受けずに、級友と語り合いながら発達段階に応じた深さで等しく学ぶ機会を提供する学校教育の場を活用して、児童・生徒、教育関係者を対象に、鑑賞指導、研修会、鑑賞教材開発等の多様な事業を行うスクールプログラムを実施した。

学校団体の来館受入れ

多くの子どもたちが優れた美術作品に接し、豊かな感性や能力を伸ばす機会として、学校団体の来館を積極的に受け入れている。特に、作品を見て子どもたちが感じたことや考えたことを大切に、言葉で伝え合うことを通して、主体的に鑑賞する能力を育むことを重視したギャラリートークに力を入れている。

メニュー：

鑑賞プログラム（ギャラリートークコース、自由鑑賞コース）、鑑賞＋遺跡見学プログラム、鑑賞＋創作プログラム、オリジナルプログラム（学校の自主企画）

月	常設展 (人数)	企画展 (人数)	団体数				
			合計	小	中	高	特
4月	291	244	7	6	0	1	0
5月	956	770	19	9	7	3	0
6月	1,201	580	26	17	7	1	1
7月	295	136	8	5	1	2	0
8月	191	132	5	0	2	2	1
9月	947	0	15	7	6	2	0
10月	1,430	815	28	11	10	5	2
11月	1,073	1,246	26	19	7	0	0
12月	438	440	8	5	2	1	0
1月	0	0	0	0	0	0	0
2月	0	0	0	0	0	0	0
3月	0	0	0				
合計	6,822	4,363	142	79	42	17	4

合計 142 団体 11,185 人

お出かけ講座

県内各地の学校に出向き、当館の特徴やコレクション作品にまつわるエピソードの紹介、鑑賞教材「アートカード」を使ったゲームによる鑑賞体験や、鑑賞文を書くといった活動を通じ、来館の難しい学校の児童生徒等に対して美術に親しむ機会を提供した。

実施日	学校名	人数
7月13日	平内町立小湊小学校	41
11月8日	弘前市立草薙小学校	6
11月19日	弘前市立城西小学校	45
11月24日	平内町立東栄小学校	7
11月25日	鱒ヶ沢町立赤石小学校	17
11月30日	黒石市立黒石東小学校	73
12月1日	弘前市立船沢小学校	40
12月2日	階上町立道仏小学校	45
12月9日	弘前市立高杉小学校	47
12月10日	十和田市立法興小学校	42
1月17日	八戸第一養護学校	18
1月19日	青森市立浦町小学校	71
1月25日	六ヶ所村立千歳平小学校	14
2月3日	平川市立広船小学校	19
2月8日	むつ市立大平小学校	99

合計 584 人

アートカード

図工・美術の授業及びクラブ活動などの学校教育活動で気軽に使用できる鑑賞教材として、棟方志功、奈良美智、鷹山宇一、豊島弘尚等、本県ゆかりの作家の作品や三内丸山遺跡出土遺物などを50点にまとめた「アートカード」を制作し、平成19年度から県内9施設において学校への貸出しを行っている。

また、利用促進を図るため、当館主催の教職員研修会、県総合学校教育センターや市町村教育委員会主催の教員研修会において、アートカードを使ったゲームを体験する演習を行った。

貸出し実績：13校

貸出し窓口	所在地	電話番号
青森県立美術館	青森市安田字近野185	017-782-1919 fax 783-5244
青森市教育研修センター	青森市栄町1-10-10	017-743-4900 fax 743-4919
つがる市生涯学習交流センター「松の館」	つがる市木造若緑52 (つがる市教育委員会指導課)	0173-42-5532 fax 42-5542
五所川原市立図書館	五所川原市字栄町119	0173-34-4334 fax 34-3256
弘前市教育研究所	弘前市末広4-10-1	0172-26-4802 fax 26-2250
十和田市民図書館	十和田市西13番町2-8	0176-23-7808 fax 25-3838
むつ市立図書館	むつ市中央2丁目3-10	0175-28-3500 fax 28-3400
北通り総合文化センター「ウイング」	大間町大字大間字内山48-164	0175-32-1111 fax 37-5110
八戸市美術館	八戸市番町10-4	0178-45-8338 fax 24-4531

教員研修

美術館と連携した鑑賞教育について教員の理解を深めるため、当館のコレクションや鑑賞指導法（アートカードの活用、ギャラリートーク演習等）などをテーマに、当館主催の研修会、県総合学校教育センター、市町村教育委員会図工及び美術等教科研究会との連携講座を実施した。

主催	月日	研修講座の名称	会場	人数
県立美術館	6月4日(金)	先生のための鑑賞講座	県立美術館	5
	8月9日(月)			6
県・市町村教育委員会と共催	5月28日(金)	弘前市教育委員会と共催 図工美術鑑賞講座	弘前市総合学習センター	4
	8月5日(木)	青森県総合学校教育センターと共催 初任者研修(小・中学校) 教職一般研修講座	県立美術館	41
	8月2日(月)	青森市教育委員会と共催 教職員初任者研修講座	〃	20
	9月30日(木) - 10月1日(金)	青森県総合学校教育センターと共催 図画工作・美術科教育講座【鑑賞】 美術館と連携した鑑賞指導の在り方	〃	19
	7月26日(月)	三戸郡小学校図工部会・ 美術部会合同研修会	南部町立名川中学校	18
教育研究団体等と共催	9月25日(水)	上北地方小学校図画工作科部会	十和田市立法奥小学校	10
	10月20日(水)	弘前地区小学校 学校図書館教育研究会	県立美術館	50
	10月26日(火)	西つがる小学校教育研究会図工部会	深浦町立深浦小学校	20
	1月6日(木)	青森市小学校図画工作科研究部会 (冬季研修会)	県立美術館	70

合計 263 人

ファシリテーターの育成

学校団体鑑賞ツアーで来館した児童・生徒の鑑賞指導に当たるファシリテーター（自らの理解を促す人）を配置・養成し、多くの学校団体の受入・指導を行った。

平成22年度3月末現在：18人

印刷物

スクールプログラムの周知及び活用促進のため、また、児童生徒配付用鑑賞補助資料として、以下のものを作成した。

- 1 スクールプログラムガイドブック（教員用）
- 2 青森県立美術館ガイドブック（小学校高学年・中学生向け）

サポートスタッフ

概要

青森県立美術館では、県民が美術館の活動に積極的に参加できるように常に工夫し、「県民とともに活動する」ことを目指している。

その取り組みの一つとして、美術館の様々な事業等の運営に参加、協力するボランティアを「サポートスタッフ」として募集し、各種イベント運営や、管理事務の補助、環境安全整備等、幅広いボランティア活動の展開を図っている。

募集・登録

募集概要

募集期間：2010年2月25日～3月24日

募集人数：50人程度

応募条件：

- ・満18歳以上（2010年4月1日現在）。未成年は保護者の承諾が必要。
- ・美術館活動に関心があり、積極的に学び、活動する意欲があること。
- ・美術館に通勤可能なこと。

登録者数：85人（年度末現在）

活動内容

1 研修

第1回研修会 4月25日（日）10：00～16：00

内容：平成22年度事業概要及び活動内容説明

「古代ローマ帝国の遺産 栄光の都ローマと悲劇の街ポンペイ」

展鑑賞

第2回研修会 10月17日（日）13：30～15：00

内容：講話「青森県立美術館の可能性」

「秋のコレクション展」鑑賞

2 サポート活動

(1) 学芸（企画展関連イベント補助）

活動日数：33日

参加人数：延べ71人

(2) 教育普及（レクチャー、ワークショップの運営補助）

活動日数：6日

参加人数：19人

(3) 舞台芸術（コンサート、ダンス上演の補助）

活動日数：9日

参加人数：73人

(4) 運営管理（資料整理等）

活動日数：22日

参加人数：65人

(5) 環境安全整備（県立美術館・三内丸山遺跡周辺の草刈等）

活動日数：43日

参加人数：621人

(6) 自主企画イベント実施（おはなし会、自主企画コンサート等）

活動日数：13日

参加人数：72人

メンバーシッププログラム

概要

当館では、芸術をより多くの人に、身近に楽しんでいただけるような環境づくりを進めるため、会員制度「青森県立美術館メンバーシッププログラム」を設けている。

入会した会員に対して、当館で開催する展覧会やパフォーミングアーツ事業への招待・優待などの特典付与、会員への情報提供などを行うものであり、本年度展開した事業内容は以下のとおりである。

会員証は奈良美智氏と、当美術館のシンボルマーク、ロゴタイプなど、ヴィジュアル・アイデンティティ（M）を考案した菊地敦己氏のコラボレーションによるもの。

会員カテゴリ

一般会員：3,000円

学生会員：2,000円（学生のためのプログラム）

こども会員：500円（小・中学生のためのプログラム）

特別会員：10,000円（一般会員をさらにすすめたプログラム）

コーポレート会員A：50,000円

コーポレート会員B：30,000円

会員数

（2011年3月31日現在）

一般会員：138人

学生会員：5人

こども会員：11名

特別会員：16人

コーポレート会員B：1人

計 171人

事業内容

（一般会員・学生会員・こども会員）

美術館事業への優待

- ・常設展観覧料 いつでも無料観覧可
- ・企画展観覧料 企画展無料招待券を2枚配付するほか、いつでも前売料金にて観覧可
- ・上記以外の館内実施プログラム 無料または割引価格で優待（特別会員）

美術館事業への優待

- ・常設展観覧料 いつでも無料観覧可
- ・企画展観覧料 企画展無料招待券を6枚配付するほか、いつでも前売料金にて観覧可
- ・企画展の内覧・開会レセプション等に招待

- ・上記以外の館内実施プログラム 無料または割引価格で優待

（コーポレート会員）

美術館事業への優待

- ・常設展観覧料 会員証の提示により5名（B会員については3名）まで無料観覧可
- ・企画展観覧料 企画展無料招待券を20枚配付
- ・館内及びホームページに法人名を掲示（A会員のみ）
- ・企画展の内覧・開会レセプション等に招待（A会員のみ）

会員への情報提供

- ・年に3-4回、美術館スケジュール等のご案内を送付

特典

- ・館内ミュージアムショップでの商品購入 5%割引（一部商品を除く）
- ・館内カフェでの飲食代 5%割引（一部商品を除く）

各種行事の企画・実施

museum lounge（ミュージアムラウンジ）

会員限定のプログラム。学芸員による鑑賞ツアーや展覧会オープニングセレモニーへの招待など、会員との交流を行うもの。

- ・「古代ローマ帝国の遺産展 オープニングセレモニー招待・内覧会」
2010年4月10日（土）
- ・「古代ローマ帝国の遺産展 ギャラリーツアー」
2010年5月1日（土）
- ・「ロボットと美術 オープニングセレモニー招待・内覧会」
2010年7月9日（金）
- ・「アレコホールコンサート・ピアノとクラリネットによる競演招待」
2010年7月27日（火）
- ・「ロボットと美術展 ギャラリーツアー」
2010年7月30日（金）
- ・「芸術の青森展 オープニングセレモニー招待・内覧会」
2011年1月21日（金）

パフォーミングアーツ

演劇

ダンス

音楽

演劇

青森県芸術・文化力首都圏発信事業

概要

1 事業概要

演劇『津軽』は平成21年度に「太宰治生誕100年記念公演」として、金木町芦野公園特設ステージにおいて、脚本・演出を長谷川孝治が担当し、絶賛された演目である。また、県民の他、首都圏等の演劇関係者から再演を望む声が多い。

この演劇「津軽」の首都公演を実施することで、青森県の人・自然・芸術文化、食文化の質の高さを強くアピールし、次年度の青森県立美術館野外公演につなげ、確実な県立美術館の集客を狙うものとする。

- ・原作：太宰治
- ・潤色・脚本・演出：
長谷川孝治（青森県立美術館舞台芸術総監督）
- ・主催：青森県・青森県立美術館・青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会

2 制作概要

県内俳優の中から指名した者の他、オーディションを実施し、合格した者を出演俳優として選考。

青森県立美術館で稽古をし、「全労災ホール/スペース・ゼロ」（東京都渋谷区）において本公演を開催する。

(1) ワークショップ・オーディション

資 格：①高校生以上、年齢・性別不問

(※18歳未満は、保護者の承諾が必要)

②平成22年度の東京公演及び平成23年度の青森県立美術館野外公演に出演可能な方。

③青森県立美術館での稽古に参加できる方。

選考方法：応募者全員に、歩行・発声など演劇の基礎を体験してもらい、その過程で10名程度を選考。

日 程：2010年6月5日（土）13：00－
6日（日）13：00－

オーディション会場：青森県立美術館シアター

選考結果：受験者：40人

合格者：11人

(2) 稽古

期間：2010年8月22日－8月29日

11月1日－11月24日

会場：青森県立美術館シアター

(3) リハーサル

期間：平成22年11月26日（金）

会場：全労災ホール/スペース・ゼロ

3 公演概要

期日：2010年11月27日（土）12：00－、18：00－

2010年11月28日（日）12：00－

（全3ステージ）

※ 演出行為として、太宰治が好んで食べた青森県の郷土料理（軽食）を配布。

出演：村田雄浩、川上麻衣子

小笠原真理子、福士賢治、長谷川等、林久志、青木峻、対馬てみ、白鳥真理子、平田成直、藤林里美、相馬有紀実、佐々木瞳、佐々木郁子、千葉敦子、藤原ヤスオ、今ゆき子、成田早菜子、相馬永奉、小野恵、豊田一輪車クラブ

会場：全労災ホール/スペース・ゼロ

観客動員数：(1ステージ客席数：400席)

3ステージ合計1200人（100%）

※3ステージとも前売りにて完売

広報宣伝、営業等概要

宣材物として、チラシ、ポスターを作成し、県内文化施設、首都圏文化施設、教育機関等を中心に配布、掲示を依頼した。また、県内及び首都圏の舞台芸術イベント等への折り込み、ダイレクトメールの配布を実施した。

宣 伝：

1) 宣材物作成枚数

オーディション募集要項（B4 2つ折り）	3,000枚
チラシ（A4版）	110,000枚
ポスター（B2版）	1,000枚
ポスター（B1版）	1,500枚

2) 宣材物配布先

県内文化施設、首都圏文化施設、県内中心市街地商店街各店舗、首都圏各店舗、県内各書店、首都圏舞台芸術イベントにて掲示・掲出を依頼。

3) 宣材物等作成スケジュール

配布開始：2010年6月25日

広 報：

- ①マスコミ公開稽古の開催。
- ②新聞各社において告知・公演開催の様態を取材依頼。
- ③テレビ・ラジオにおいて、告知依頼。
- ④県内・首都圏各広報誌・演劇情報誌において告知。

記 録：

記録写真撮影、記録映像収録、DVD 制作を実施。

営 業：

- ①ローソンチケットに販売を委託。
- ②公演会場である「全労災ホール / スペース・ゼロにてネット予約を実施。
- ③あおり北彩館東京店（東京都千代田区）、青森県観光物産館アスパム総合案内所、青森県立美術館ミュージアムショップに販売委託。
- ④青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会事務局での予約受付。

入場料：

※ 軽食付き

料 金：前売り一般 3,500 円（当日4,000 円）
前売り学生 1,500 円（当日2,000 円）



東京公演



東京公演

パフォーミングアーツ県民参加活性化事業

概要

1 事業概要

県立美術館がこれまで実施してきた県民参加型演劇・ダンス事業等を更に発展させ、パフォーミングアーツ分野に県民が参加しやすい環境づくりの一つとして平成21年度「青森県立美術館ドラマリーディングクラブ」を発足した。

県立美術館シアター・スタジオを基本とした自主公演の他、県立美術館主催の展覧会等の関連イベントに積極的に参画し、県立美術館の「全ての芸術の融合」と「県民が参加できる美術館」というミッションの独自性をゆるぎないものとする。

1 ドラマリーディングクラブ 第4回自主公演「夢十夜」(有料公演)

- ・原作：夏目漱石
- ・構成・演出：長谷川孝治（青森県立美術館舞台芸術総監督）
- ・主催：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会・青森県立美術館
- ・助成：財団法人むつ小川原産業地域・産業振興財団

2 制作概要

青森県立美術館ドラマリーディングクラブ員が美術館にて稽古をし、「青森県立美術館ドラマリーディングクラブ公演」として開催する。

3 公演概要

期日：2010年7月11日14:00 - / 19:00 -

会場：青森県立美術館シアター

出演：金恵美子、田中昌子、斎藤ミツ、鈴木希生子、山形クニ子、川嶋真美、齋藤知代子、秋田俊行、横山美樹、本間正子、會津悦子、木村朋子、小野寺圭子、大石彩也香、工藤佳子、若山郁子、中里夕希、松岡こずえ、阿部留美子、小田勝康、林久志、濱野有希、小笠原真理子

観客動員数：客席数：200 席

2公演 合計245 名

広報宣伝、営業等概要

宣材物として、チラシを作成し、県内文化施設を中心に配布、掲出を依頼した。また、県内の劇団公演への折り込み、県内新聞等へ告知・取材の依頼、県内FMラジオ局・民放ラジオ局・コミュニティーFM局・青森市内ケーブルテレビ局へ番組上での告知をお願いした。

宣 伝：

1) 宣材物作成枚数

チラシ (A4 版) 3,000 枚

(B3 版) 50 枚

2) 宣材物配布先

県内文化施設、県内中心市街地商店街各店舗、県内各書店
などにて掲示・掲出を依頼。

3) 宣材物等作成スケジュール

配布開始：2010年6月3日



「夢十夜」

広 報：

- ①県内新聞各社において参加募集及び公演の告知依頼。
- ②県内FMラジオ局・コミュニティーFMラジオ局・民放ラジオ局、青森市内ケーブルテレビ局の番組上において告知依頼。

記 録：

記録写真撮影、記録映像収録、DVD 制作を実施。

営 業：

- ①県内プレイガイド（青森市内：サンロード青森、さくら野青森店、成田本店しんまち店、青森県立美術館ミュージアムショップ、八戸市内：三春屋、弘前市内：紀伊國屋書店）に販売を委託。
- ②青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会事務局での予約受付。

入 場 料：

料金：一般 1,000 円（当日：1,500 円）

学生 500 円（当日：1,000 円）

来場者サービス

・託児サービス：

各公演の開場から終演までの間、無料で託児サービスを実施。

・シャトルバス：

19：00開演の公演時のみ、終演後に青森駅まで無料シャトルバスの運行を実施。

2 ドラマリーディングクラブ 青森県立美術館企画サポート公演（無料公演）

- ・原作：きむらゆういち
- ・絵：あべ弘士
- ・構成・演出：長谷川孝治（青森県立美術館舞台芸術総監督）
- ・主催：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会・青森県立美術館
- ・助成：財団法人むつ小川原産産地域・産業振興財団

2 制作概要

「子ども美術館デイ2010」のサポート企画として、青森県立美術館ドラマリーディングクラブ員が美術館にて子供向けのドラマリーディング公演を開催する。

3 公演概要

期日：2010年8月7日、8日、21日

いずれも 14:00 -

会場：青森県立美術館シアター

出演：越田俊子、鈴木希生、會津悦子、川嶋真美、
田中昌子、須藤哲也、田中弘美、成田明子、
逢坂久美子、田澤京子、小野寺圭子、若山郁子、
阿部留美子、相澤笑子、奥田智、金恵美子、斎藤ミツ、
福田真紀

観客動員数：客席数：200席

3公演 合計800名

広報宣伝、営業等概要

宣材物として、チラシを作成し、県内幼稚園・保育園、小・中学校を中心に配布、掲出を依頼した。また、県内新聞等へ告知・取材の依頼、県内FMラジオ局・民放ラジオ局・コミュニティFM局・青森市内ケーブルテレビ局へ番組上での告知をお願いした。

宣伝：

1) 宣材物作成枚数

チラシ（A4版） 100,000枚

（B3版） 50枚

2) 宣材物配布先

県内幼稚園・保育園、県内小・中学校、県内文化施設、県内各書店などにて掲示・掲出を依頼。

3) 宣材物等作成スケジュール

配布開始：2010年7月5日

広報：

①県内新聞各社において参加募集及び公演の告知依頼。

②県内FMラジオ局・コミュニティFMラジオ局・民放ラジオ局、青森市内ケーブルテレビ局の番組上において告知依頼。

記録：

記録写真撮影、記録映像収録、DVD制作を実施。



「あらしの夜に」

ダンス

アレコ 2010 新幹線開業特別公演事業 Aleko —ダンサー・俳優・演奏家による—

1 概要

過去2ヶ年の実験的なダンス作品創作の成果を活かし、新幹線青森駅開業元年を契機に22年度に、県内の実力ある俳優や演奏家とともに、青森県立美術館オリジナル作品『アレコ2010』を完成させ、首都圏へのPRを行うほか、県立美術館アレコホールでの公演を実施することで、青森県立美術館がバレエ背景画「アレコ」を持っている世界で唯一の美術館である存在価値を全国へ発信し、美術館への新たな観客を創出することを目指す。

- ・脚本：アレクサンドル・ブーシキン「ジブシー」訳/ 蔵原雅人
- ・構成・演出：長谷川孝治（県立美術館舞台芸術総監督）
※ ダンスアレコ青森lab #3については監修
- ・主催：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会・青森県立美術館
- ・助成：財団法人 地域創造

2 制作概要

シャガールの舞台背景画「アレコ」の原作である『ジブシー』を、青森県内のダンサー（過去2ヶ年の実験的なダンス作品創作事業により発掘した団体）、県内俳優及び第1回チャイコフスキー・ピアノトリオ・オーディション（平成21年度、青森県立美術館、青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会：主催により実施）優勝組の参加を得て、青森県立美術館の恒久的演目の一つとして制作・公演する。

3 公演概要

期日：2011年3月5日（土）19：00 —

2011年3月6日（日）17：30 —

※ 上演時間は80分程度。

会場：青森県立美術館アレコホール

振付：小野郁子（花嵐桜組）

衣裳制作：工藤典子（桃庵）

出演：

- ＜ダンス部門＞AOMOH 花嵐桜組、
豊田児童センター—輪車クラブ、中村虎治社中
- ＜演劇部門＞弘前劇場、青森県立美術館ドラマリーディングクラブ
- ＜演奏部門＞リュミエール・トリオ

観客動員数：客席数：250席
2公演 合計520名（104%）

来場者サービス

- ・託児サービス：
各公演の開場から終演までの間、無料託児サービスを実施。
- ・シャトルバス：
終演後、無料で青森県立美術館から青森駅までのシャトルバスの運行を実施。
- ・美術館鑑賞割引：
ダンスアレコのチケットをお持ちの方は、公演日に開催されている「常設展」「企画展」を団体割引で鑑賞できることとした。

広報宣伝、営業等概要

宣材物として、チラシ、ポスターを作成し、県内文化施設、教育機関等、各商店街等を中心に配布、掲示を依頼した。また、県内各地の舞台芸術イベント等への折り込み、ダイレクトメールの配布を実施した。

宣 伝：

1) 宣材物作成枚数

チラシ（A4版）	90,000枚
ポスター（B1版）	100枚
ポスター（B2版）	300枚

2) 宣材物配布先

県内文化施設、県内公立小中高等学校、県内大学・専門学校、青森市・弘前市・八戸市の中心市街地商店街各店舗、県内大手スーパー、県内各書店、各ダンス教室等へ掲示を依頼。

広 報：

- ①マスコミ公開稽古及び公開リハーサルの開催。
- ②新聞各社において告知・公演開催の模様を取材依頼。
- ③テレビ・ラジオにおいて、告知依頼。
- ④県内各広報誌において告知依頼。

記 録：

記録写真撮影、記録映像収録、DVD制作を実施。

営業：

- ①各公演とも、全国展開としてローソンチケットに販売を委託。
- ②県内は主要プレイガイド5箇所に販売を委託。
紀伊國屋書店 / サンロード青森 / 成田本店しんまち店 / 三春屋 / 青森県立美術館ミュージアムショップ
- ③各出演ダンスカンパニーにチケット販売を依頼。
- ④青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会事務局での予約受付。



Aeko



Aeko

音楽

アレコホール東アジアステイタス戦略事業

「アレコホール東アジアステイタス戦略事業」では、<「ロシアの音」公開レッスン>と<「ロシア音楽のタベ（クラシック）」><ピアノとクラリネットによる競演（クラシック）」><中国より音楽にのせて（現代音楽）」>の3演奏会を実施。

1 「ロシアの音」公開レッスン

1 概要

「ロシア音楽のタベ」のプレイベントとして、ハバロフスクの演奏家が講師となり、地域の音楽学習者との交流を深めることを目的に公開レッスンを実施した。

また、講師の推薦により、選考された音楽学習者は、「ロシア音楽のタベ」に出演し演奏を披露した。

- ・主催：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会・青森県立美術館
- ・助成：財団法人 地域創造

受講場所：青森県立美術館

受講条件：

- ①演奏作品は、ロシア人作曲家による作品でのレッスン受講者を優先とする。
- ②ピアノ独奏（4手連弾を含む）・クラリネット・サクソフォンの独奏または、総数12名を上限とした管楽器アンサンブルとする。
- ③作品の長さは3分以上とするが、作品の組み合わせも可能。
- ④中学生以上であること。
- ⑤青森県内在住者であること。
- ⑥本ワークショップ講師に推薦を受けた者は、7月26日開催のコンサート「ロシア音楽のタベ」に出演・演奏すること。

申込み方法：

申込用紙に申込者の住所・氏名・年齢・参加人数を明記し、郵送又はFAX、Eメールにて送付するか、当館（9：30ー17：00）へ直接持参する。

選考方法等：

ピアノクラス、クラリネットクラス、サクソフォンクラスについて、応募書類等により選考。

2 レッスン詳細

①ピアノクラス

日時：2010年7月26日10：00ー

会場：青森県立美術館ワークショップB

講師：オルガ・ボイチェホフスカ（ロシア国立文化学院教授）

受講者数：11組

演奏会選考者等：

演奏者 野辺地町立野辺地中学校・生徒

演奏曲 ピョートル・チャイコフスキー

「四季」よりop.37a 6月『舟歌』

②クラリネットクラス、サクソフォンクラス

日時：2010年7月26日10：00ー

会場：青森県立美術館スタジオ

講師：ゲンナジー・チャーシン

（極東フィルハーモニー 首席クラリネット奏者）

受講者数：5組

演奏会選考者等：

演奏者 青森山田学園青森山田高等学校・生徒3名

演奏曲 ジャック・ブーフィル『トリオ』

2 「ロシア音楽のタベ（クラシック）」 「ピアノとクラリネットによる競演 （クラシック）」 「中国より音楽にのせて（現代音楽）」

1 概要

ロシア、中国より、それぞれ演奏家を招き、ハバロフスク演奏家と青森の演奏会のジョイントコンサート「ロシア音楽のタベ」、ハバロフスク演奏家によるコンサート「ピアノとクラリネットによる競演」、そして香港民族楽器演奏家と青森県民によるコンサート「中国より音楽にのせて」を公演する。

- ・主催：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会・青森県立美術館
- ・助成：財団法人 地域創造

場所：青森県立美術館アレコホール

2 公演概要

① 「ロシア音楽の夕べ (クラシック)」 公演

日 時：2010 年7 月26 日 19 :00 -

演奏者：ピアノ オルガ・ボイチェホフスカ、浅野清、村田恵理、堀内亮、竹内奈緒美

クラリネット ゲンナジー・チャーシ

フルート 竹澤 聡子

ソプラノ 虎谷 亜希子

演奏楽曲：イーゴリ・ストラヴィンスキー

「ペトルーシュカ」より3つの断章

セルゲイ・タネーエフ

「カンツォーナ」

観客動員数：客席数 200 席

1 公演 229 人 (115%)

② 「ピアノとクラリネットによる競演 (クラシック)」 公演

日 時：2010 年7 月27 日 19 :00 -

演奏者：ピアノ オルガ・ボイチェホフスカ

クラリネット ゲンナジー・チャーシ

演奏楽曲：ヨハネス・ブラームス

「クラリネットソナタ 第1 番 作品120 -1
へ短調」

フリッツ・クライスラー (ラフマニノフ編曲)

「愛のよろこび」「愛の悲しみ」

観客動員数：客席数 200 席

1 公演 146 人 (75%)



ロシア音楽の夕べ

③ 「中国より音楽にのせて (現代音楽)」 公演

日 時：2010 年10 月29 日 19 :00 -

2010 年10 月30 日 19 :00 -

出演者：香港・中国民族楽器演奏家

雷葉影 (高胡)、邵琳 (二胡)、曾秋堅 (低音二胡)、

楊偉傑 (笛子)、彭康泰 (笙)、頼應斌 (揚琴)、

彭偉倫 (琵琶)、李勁持 (箏)、蕭秀慧 (中阮)

日本舞踏・中村虎治社中、パーカッショングループ・

ファルサ、弘前大学混声合唱団、一般混合パーカッ

ションチーム、竹澤聡子 (フルート)、村田恵理 (ピ

アノ)、沖澤直子 (チェロ)、青森県立美術館ドラマリー
ディングクラブ員 (朗読)

作 曲：梁 志鏘 (香港教育学院准教授)

作 詞：長谷川孝治 (青森県立美術館舞台芸術総監督)

演奏曲目：ア 厨之舞 キッチンダンス

- ・中国民族音楽を青森県民がパーカッションで表現。また、その音楽に合わせて青森県立美術館ドラマリーディングクラブ員がキッチン道具などを用いて音を出しながらダンスを実施。

出演：パーカッション

イ 舞 影

- ・香港・中国民族楽器演奏家の演奏に合わせ、中村虎治社中が日本舞踊を披露。

ウ 連 壁

- ・香港・中国民族楽器演奏家による演奏。

エ アレコ

- ・アレコの原作を長谷川孝治が構成、梁志鏘香港教育学院文化創造芸術学部准教授が作曲し、詩の朗読と民族楽器の演奏からなるコンサートを開催した。

オ 離 騒

- ・中国民族楽器である箏、現代楽器であるピアノとパーカッションほか、朗読、コーラスも取り入れて、中国古代古琴の名曲「離騒」を表現。

カ 東瀛幻想曲

- ・フルート、ピアノ、チェロによる三重奏を実施。

キ 望困破

- ・香港・中国民族楽器演奏家による演奏。

ク 超乎悲哀

- ・6名のパーカッション奏者による演奏。



中国より音楽にのせて

・入場料：

料金：一般 2,500 円 (当日：3,000 円)

高・大学生 2,000 円 (当日：2,500 円)

小・中学生 1,500 円 (当日：2,000 円)

※ただし、県内の子ども60名を無料招待

来場者サービス

- ・託児サービス：各公演の開場から終演までの間、無料託児サービスを実施。
- ・シャトルバス：演奏会終演後、無料で青森県立美術館から青森駅までのシャトルバスの運行を実施。
- ・美術館鑑賞割引：「東アジアの音」のチケットをお持ちの方は、公演日に開催されている「常設展」「企画展」を団体割引で鑑賞できることとした。

広報宣伝、営業等概要

レッスン参加募集の宣材物として、チラシを作成し、県内文化施設に配布、掲出を依頼した。また、演奏会当日パンフレットへの折り込みを行った。

宣 伝：

1) 宣材物作成枚数

小・中学生招待用チラシ (A4 版)	80,000 枚
レッスン受講者募集用チラシ (A4 版)	10,000 枚
チラシ (A4 版)	50,000 枚
ポスター (B2 版)	500 枚
〃 (B3 版)	500 枚

2) 宣材物配布先

演奏会宣材物として、チラシ、ポスターを作成し、県内文化施設、教育機関等、県内道の駅、県内音楽教室、県内音楽団体、各商店街等を中心に配布、掲出を依頼した。また、県内各地のコンサート等への折り込み、ダイレクトメールの配布を実施した。

また、小中学生無料御招待を行うため宣材物としてチラシを作成し、県内小・中学校等への配布を実施した。

3) 宣材物等作成スケジュール

配布開始

小・中学生招待用チラシ	2010 年5 月14 日
レッスン受講者募集用チラシ	2010 年5 月12 日
チラシ (A4 版)	2010 年5 月10 日

広 報：

- ①県内マスコミ向けに制作発表を行う。

期 日：2009 年5 月22 日

場 所：青森県庁内 県政記者室

出 席 者：浅野清、長谷川孝治

報道機関：河北新報社、陸奥新報社、東奥日報社、共同通信社、R A B 青森放送

- ②新聞各社において告知・公演開催の模様を取材依頼。
- ③テレビ・ラジオにおいて、告知依頼。
- ④県内各広報誌において告知依頼。

営 業：

- ①3公演とも、全国展開としてローソンチケットに販売を委託。
- ②県内は主要プレイガイド6箇所に販売を委託。弘前大学生協 / 日弘楽器 / 弘前まちなか情報センター / サンロード青森 / 成田本店しんまち店 / 青森県立美術館ミュージアムショップ
- ③青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会事務局での予約受付

記 録：

記録写真撮影、記録映像収録、DVD 制作を実施。

サービス等

貸館

図書室

キッズルーム・フリーアトリエ

博物館実習

情報システム

貸館

使用施設について

(1) 使用目的

展覧会や作品の創作活動、映像、演劇及び音楽などの芸術活動の発表、練習の場として本県の芸術振興に資する使用であること。

(2) 使用料

① 展示施設を使用する場合

■ コミュニティギャラリー

室名(面積)	使用料(入場料等を徴収しない場合)		
	9:30-12:00	13:00-17:00	左記以外の時間帯
A(148.76㎡)	2,130円	3,400円	1時間 850円
B(60.47㎡)	880円	1,400円	1時間 350円
C(131.30㎡)	1,880円	3,000円	1時間 750円

※1 入場料等を徴収する場合は、上記使用料の2倍とします。
 ※2 コミュニティギャラリーの1室が使用されている場合、他のコミュニティギャラリーで使用できない場合があります。

■ 企画展示室

室名(面積)	使用料(入場料等を徴収しない場合)		
	9:30-12:00	13:00-17:00	左記以外の時間帯
A(182.70㎡)	2,500円	4,000円	1時間 1,000円
B(140.39㎡)	2,000円	3,200円	1時間 800円
C(389.51㎡)	5,500円	8,800円	1時間 2,200円
D(228.06㎡)	3,250円	5,200円	1時間 1,300円
E(105.91㎡)	1,500円	2,400円	1時間 600円
映像室(70.38㎡)	1,000円	1,600円	1時間 400円

※1 入場料等を徴収する場合は、上記使用料の2倍とします。
 ※2 企画展示室の使用については、県立美術館との共催事業に限ります。

② シアター等を使用する場合

室名(面積)	使用料(入場料等を徴収しない場合)
シアター(220席)(348.20㎡)	1時間 2,400円
映写室(36.36㎡)	1時間 260円
アナウンズブース(6.35㎡)	1時間 50円
ワークショップA(124.38㎡)	1時間 900円
ワークショップB(185.28㎡)	1時間 1,300円
暗室(22.45㎡)	1時間 160円
スタジオ(100.98㎡)	1時間 720円
映像編集室(24.77㎡)	1時間 180円
スタジオ映写室(28.88㎡)	1時間 210円

※1 入場料等を徴収する場合は、上記使用料の2倍とします。
 ※2 暗室は、ワークショップAを利用する場合、又はワークショップAが利用されていないとき使用できます。
 ※3 映写室、アナウンズブースは、シアターを利用する場合、使用できます。
 ※4 映像編集室、スタジオ映写室は、スタジオを利用する場合、使用できます。

(3) 使用期間

① 展示施設

- ・コミュニティギャラリーは、原則として月曜日始まり、日曜日終わりの1週間単位での使用期間とし、同一の利用者について引き続き5週間を超えることはできません。
- ・企画展示室については、1週間単位での使用期間とし、同一の利用者について引き続き5週間を超えることはできません。

② シアター等

- ・1時間単位での使用期間とし、同一の利用者について引き続き10日を超えることはできません。

※ 美術館のすべての施設において

- ・美術館の休館日は、使用できません。(準備、撤去作業の場合は除く。)
- ・毎年度日数を定めて開催している展覧会や上記使用期間では開催目的が達成されない場合において必要と認められるときは、使用期間を変更できるものとします。

(4) 使用時間

- ① 美術館の施設使用時間は、美術館の開館時間(9時30分から17時まで(6月-9月は、9時から18時))とします。なお、施設使用上やむを得ない理由があると認められる場合には、閉館後、1時間単位で21時(シアター利用に限り22時)まで延長することができます。開館時間前の使用については、ご相談ください。
- ② 施設使用時間には、展覧会等の準備の時間及び撤収の時間も含まれます。(延長した場合であっても21時(シアターについては22時)には撤収が完了していなければなりません。)
- ③ 展示施設は、9時30分から12時、13時から17時の使用区分とし、それ以外は1時間単位での使用とします。
- ④ シアター等は、1時間単位での使用とします。

■企画展示室

使用	使用者	展覧会名等	使用施設	入場者数
9/1-1/13	青森放送(株)	スタジオ・ジブリレイアウト展	A B C D E 映像室 シアター 映写室 ワークショップA	132748

■コミュニティーギャラリー

使用	使用者	展覧会名等	使用施設	入場者数
4/22-4/25	村上あさ子	村上あさ子 津軽裂織it16 マリンブルーからアクアヘー	B	90
4/26-5/5	上路利春	小さい切手美術館&マッチ博物館移動展	B	170
5/14-5/16	(株)阿部重組	第10回未来をのぞく住宅展	A B C	237
5/25-6/7	長野美保	佐々木宏子(青のあいだ)展	A B C	435
7/16-7/20	日本表象美術協会青森支部	第14回 日象青森展	A B C	222
8/16-8/22	外崎 葉子	外崎葉子個展	B C	200
8/28-8/29	住友生命青森支店	第34回スミセイこども絵画コンクール	A B C	800
8/31-9/5	現代美術の展望北東北展事務局	現代美術の展望 北東北展2010	A B C	577
9/17-9/20	(株)阿部重組	第11回未来をのぞく住宅展	A B C	309
9/21-9/27	(株)青森県文化振興会議	第51回青森県美術展覧会 県展2010	A B C	1,347
10/1-10/4	すまいのエコロジー展実行委員会	すまいのエコロジー展	A B C ワークショップB	452
10/8-10/10	MOA美術館青森児童作品展実行委員会	第22回MOA美術館青森児童作品展	A B C シアター 映写室	1,700
10/16-10/17	青函交流展青森実行委員会	アオダテハコ森21010 若手作家による青函交流美術展	A B C	353
10/29-10/31	B-Rains 代表 蒔苗正樹	B-Rains 作品展「ぶるん」	A B C	150
11/1-11/3	全国共済農業協同組合連合会青森県本部	第54回JA共済青森県小・中学校書道コンクール及び第33回JA共済青森県小・中学校交通安全ポスターコンクール	A B C	114
11/5-11/8	青森県教育委員会教育長	三内丸山遺跡特別史跡指定10周年記念フォーラム	A B C シアター 映写室	480
11/19-11/23	(株)阿部重組	第12回未来をのぞく住宅展	A B C	479
11/27-11/28	社会福祉法人平館福祉会	ギャラリーかもめ2010	B	109
12/3-12/4	青森中央短期大学	青森中央短期大学幼児保育学科「40期卒業記念公演」	A B C スタジオ	140
12/17-12/26	青森県教育長	三内丸山遺跡特別史跡指定10周年記念縄文絵画コンクール作品展示	B C	350
1/7-1/10	青森県中学校教育研究会美術部会	第24回青森県中学校選抜美術展	A B C	700
2/23-3/7	企画調整課長	JOMO-T展n AOMOR 一縄文×T シャツアート展-	A B C	650
3/9	Kakuta Takuya 代表 角田 聡	Kakuta Takuya Live Set	C	10

■シアター・映写室

使用	使用者	展覧会名等	使用施設	入場者数
4/11	福田 公	映画上映「ウルトラマン銀河伝説」	シアター 映写室	150
5/14-5/16	柳谷映彦	柳谷映彦作品展「LANDS」	シアター 映写室	300
5/16	(有)弘前劇場	「お日様の匂い」ワークショップ	スタジオ	30
5/17、5/23-5/24	青森県理容生活衛生同業組合	第52回青森県理容競技大会 理容師2010メッセージ青森大会	シアター 映写室 コミュニティーギャラリーA B C スタジオ ワークショップA	330
6/15	青森映研 福田 公	映画上映「悲しみよりもっと悲しい物語」	シアター 映写室	80
12/2	(有)オフィスホールドオン	工藤雄一 Brthday Consert RNAL	シアター 映写室	200

■ワークショップ

使用	使用者	展覧会名等	使用施設	入場者数
4/10、4/24	B-Rains 代表 蒔苗正樹	B-Rains ワークショップ	A	30
5/1、5/29、6/19、7/3、7/17	B-Rains 代表 蒔苗正樹	B-Rains ワークショップ	A	75
6/6	青森公立大学国際芸術センター青森	[24 OUR TERESA ON] スタッフ募集説明会	A	25
8/7、8/16、9/4、9/18、10/9、10/16	B-Rains 代表 蒔苗正樹	B-Rains ワークショップ	A	68
8/21-8/22	ねぶた制作者北村隆後援会 北村会	「ねぶた面製作」講習会	A	160
8/21	総合販売戦略課	「買ってもらえる商品づくり支援事業」現地アドバイス会	B	10
9/30-10/1	青森県総合学校教育センター	図画工作・美術科教育講座【鑑賞】	A	49
10/12-10/18	青函交流展青森実行委員会	アオダテハコ森2010 若手作家による青函交流美術展	A	19
11/5	青森市建設技術協会	青森市・新潟市女性技師技術交流ワークショップ	A	22
11/13、12/4、12/18、1/15、1/29	B-Rains 代表 蒔苗正樹	B-Rains ワークショップ	A	50
1/6	青森市小学校教育研究会図画工作部会	図画工作科研究部会冬季研修会	B	60

合計 144,480 人

図書室

概要

図書室は、館の美術情報センターとしての機能を担い、その機能のうち美術に関する図書資料情報を収集、整理、保存、提供することで美術の普及を図ることを目的として、一般開放している。

具体的には、美術に関する専門ライブラリとして、来館者に対し、当館所蔵作品・作家に関するものをはじめ、美術に関する知識を深める図書資料情報の提供、閲覧、美術及び図書資料に関する相談受付（レファレンス）、他美術館等の展覧会情報の提供等を行っている。

また、図書室所蔵の絵本を利用し、当館キッズルームではおはなし会を開催するなど、当館の美術教育普及事業の支援機関としての機能も担っている。

設備：来館者用パソコン端末 2 台、図書閲覧席 20 席

開館日・開室時間：美術館開館日の10：00 - 16：00

図書資料の収集方針

「青森県立美術館作品収蔵基本方針」に準じ、1) 近・現代の青森県出身作家及びゆかりのある作家に関するもの、2) 青森県以外の近・現代の美術状況に対応するために必要な優れた美術作品に関するもの、3) 今に生きる県民の心の原点に関わり、未来に資するもの、4) 1-3を理解するために必要なものを、購入および寄贈により収集した。

蔵書数

(平成20 年度3 月末現在)

・美術図書	1,768 冊
・デザイン・建築関係図書	250 冊
・写真関係図書	145 冊
・絵本・イラスト関係図書	946 冊
・民族・歴史関係図書	122 冊
・音楽・映画・舞台関係図書	166 冊
・展覧会カタログ	3,381 冊
・雑誌 (52 タイトル)	1,004 冊

(平成21 年度登録分)

・美術図書	786 冊
・デザイン・建築関係図書	152 冊
・写真関係図書	61 冊
・絵本・イラスト関係図書	238 冊
・民族・歴史関係図書	87 冊
・音楽・映画・舞台関係図書	82 冊
・展覧会カタログ	3,310 冊
・雑誌 (37 タイトル)	1,783 冊

(平成21 年度3 月末現在)

・美術図書	2,555 冊
・デザイン・建築関係図書	402 冊
・写真関係図書	206 冊
・絵本・イラスト関係図書	1,183 冊
・民族・歴史関係図書	209 冊
・音楽・映画・舞台関係図書	248 冊
・展覧会カタログ	6,691 冊
・雑誌 (57 タイトル)	2,787 冊

(平成22 年度3 月末現在)

・美術図書	3,184 冊
・デザイン・建築関係図書	438 冊
・写真関係図書	232 冊
・絵本・イラスト関係図書	1,202 冊
・民族・歴史関係図書	268 冊
・音楽・映画・舞台関係図書	404 冊
・展覧会カタログ	8,024 冊
・雑誌 (57 タイトル)	6,587 冊

サービス

図書資料閲覧

所蔵美術作品、蔵書のデータベース検索

美術に関する映像ソフトの鑑賞

美術に関する図書資料に係る相談受付（レファレンス）

美術に関するポスターやチラシの設置

当館に関する情報の掲載誌の閲覧

実績

開室日数：330 日

利用者数：7,864 人

レファレンス利用件数：9 件

図書室利用統計表

	開室日数 (日)		入室者数 (人)		レファレンス	
	月計	月計	1 日平均	月計	1 日平均	
4 月	30	579	19.3	1	0.0	
5 月	31	1,132	36.5	1	0.0	
6 月	27	517	19.1	1	0.0	
7 月	31	582	18.8	0	0.0	
8 月	29	1,848	63.7	2	0.1	
9 月	28	524	18.7	2	0.1	
10 月	30	574	19.1	0	0.0	
11 月	29	600	20.7	1	0.0	
12 月	26	584	22.5	0	0.0	
1 月	30	504	16.8	0	0.0	
2 月	26	264	10.2	0	0.0	
3 月	13	156	12.0	1	0.1	
計	330	7,864	23.8	9	0.0	

事業

1 美術館事業への支援・事業との連携

当館で行う常設展示及び企画展示と連携し、開催期間中、所蔵図書資料のうち展示に関連する資料を展示用書架にて紹介した。

また、当館キッズルームで行ったおはなし会に所蔵絵本を活用した。

2 他の美術館・関係団体等との連携

「新着カタログコーナー」にて、新しく受け入れた他美術館の展覧会カタログを継続的に紹介した。

キッズルーム・フリーアトリエ

概要

絵本やお絵かき、積み木などを親子で楽しむことを通じて、子どもたちの美術への関心を高めることを目的として、地下1階「キッズルーム」及びワークショップ前廊下のスペースを利用した「フリーアトリエ」を、来館者の多い土日祝日と企画展開催時の平日に無料で開放している。

「キッズルーム」は、800冊以上の絵本をはじめとして、スイスのnaef（ネフ）社製やおもしろ木製玩具研究会「わらはんど」製作の色や形の美しい積み木などを楽しめる空間で、また、「フリーアトリエ」は、紙や粘土などを常置き、お絵かきやものづくりを自由に楽しめる空間となっている。

また、当館サポートスタッフによる「おはなし会」を定期的に行い、絵本や工作などを通じて美術や美術館への関心を高める活動を行っている。

- (4) 2010年7月25日（日）10:00 - 15:00
参加者数：101人
- (5) 2010年8月28日（土）11:00 - 12:00
参加者数：35人
- (6) 2010年9月25日（土）11:00 - 12:00
参加者数：10人
- (7) 2010年10月23日（土）11:00 - 12:00
参加者数：13人
- (8) 2010年11月27日（土）11:00 - 12:00
参加者数：25人
- (9) 2011年1月22日（土）11:00 - 12:00
参加者数：35人
- (10) 2011年2月26日（土）11:00 - 12:00
参加者数：29人

利用実績

開室時間：土日祝日及び企画展開催時の平日 10:00 - 15:00

平成22年度 キッズルーム利用実績

	開室日数（日）		入室者数（人）		月計	平均
	月計	月計	こども	おとな		
4月	23	135	138	273	273	11.9
5月	31	190	220	410	410	13.2
6月	17	108	103	211	211	12.4
7月	24	153	123	276	276	11.5
8月	29	451	398	849	849	29.3
9月	10	67	63	130	130	13.0
10月	24	135	117	252	252	10.5
11月	29	153	175	328	328	11.3
12月	26	140	148	288	288	11.1
1月	22	173	183	356	356	16.2
2月	26	62	73	135	135	5.2
3月	14	27	20	47	47	3.4
計	275	1,794	1,761	3,555	3,555	12.9

「キッズルームおはなしかい」実施状況

未就学児とその保護者を主な対象に、美術や美術館に親しみを持つきっかけ作りの場として、絵本読み聞かせ、工作、お絵かきなどを行う「おはなし会」を開催した。

企画運営は、偶数月は当館サポートスタッフ、奇数月は青森中央学院大学幼児保育学科ボランティアが担当した。

- (1) 2010年4月24日（土）11:00 - 12:00
参加者数：17人
- (2) 2010年5月22日（土）11:00 - 12:00
参加者数：34人
- (3) 2010年6月22日（土）11:00 - 12:00
参加者数：19人

博物館実習

概要

博物館法施行規則第1条に定められた学芸員資格取得に関する博物館実習を実施した。

実施内容：美術館における諸活動（展示・収蔵・教育普及等）

期間：2010年8月19日（木）～8月23日（月）

実習指導：青森県立美術館職員他

実習生：8名

弘前大学教育学部（2名）、武蔵野美術大学造形学部（1名）、弘前学院大学文学部（1名）、大東文化大学国際関係学部（1名）、日本大学理工学部（1名 ※科目等履修生）、新潟大学人文学部（1名）、多摩美術大学美術学部（1名）

プログラム

平成22年度 博物館（美術館）学芸員実習日程

第1日目 8月19日（木）

①オリエンテーション

- ・青森県立美術館の概要について
- ・学芸員の仕事について

②管理運営 教育普及

- ・美術館の施設およびサイン計画について
- ・館内見学

③来館者対応、ホスピタリティーについて

④実習日誌作成

第2日目 8月20日（金）

①作品収集

- ・コレクションの形成、作品のデータ管理について

②展示・収蔵 作品の取扱い

- ・作品の保存、管理、修復
- ・作品の取扱いおよび調書作成

（日本画、油彩画、立体、紙作品）

③展示技術

- ・展示デザイン

（展示方法、展示造作、照明、キャプション）について

④実習日誌作成

第8月21日（土）

①事業概要1

- ・美術館におけるパフォーマンスアート活動

②事業概要2

- ・展示会の普及活動
- ・美術館活動の運営支援（ファシリテーターの活動を中心に）

③事業体験

- ・体験1 「ロボットと美術」展ギャラリーツアー見学
- ・体験2 「あらしのよるに」ドラマリーディング見学

④地方における美術館の役割について

⑤実習日誌作成

第4日目 8月22日（日）

①展示

- ・展示会の企画、実施（「ロボットと美術」展を例にして）
- ・展示会の運営および広報活動
- ・演習 展示会企画（レポート作成）

②実習日誌作成

第5日目 8月23日（月）

①展示

- ・演習 展示会企画発表（意見交換）
- ・三内丸山遺跡縄文時遊館展示室見学
- ・地域の芸術文化の発信（「芸術の青森」展をめぐって）

②実習日誌作成

情報システム

青森県立美術館ユビキタスシステム

当館は、来館者が固定された順路にとらわれることなく、大小様々の展示空間を探索しながら自由に作品を鑑賞することを特徴としているため、展示室は縦横につながっており、複雑な構造となっているものであるが、効率よく観覧したい、また、作品や作家についてもっと知りたい、といったニーズがあり、これに応えるものとして、「ユビキタスコミュニケーター」と呼ばれる情報端末を使って、展示室順路情報、作家・作品等の解説、館内案内等の各種情報を、音声・画像などにより受け取ることができるサービスを2007年11月より行っている。

利用者は当該システムの使用により、端末画面に自動的に表示される順路情報にそって展示室を進むことができるほか、端末操作により、各展示室における作家・作品の情報や美術館のイベント日程、カフェやショップの情報、周辺の交通案内等各種の情報を得ることができるものである。

・アンケート用無線LAN：1ヶ所

・アンケート用RFIDタグ（13.56MHz uコード）：1ヶ所

1 システム概要

ユビキタスシステムは、場所やものを識別する「uコード」(東京大学教授坂村健氏が提唱するコード規格)を用いて、展示室や通路の場所やモノに情報をくくりつける「ユビキタス空間場所情報システム」を活用している。

場所の識別には天井に設置した赤外線/無線マーカを、モノの識別にはRFIDタグを使用してuコードを発信する。情報端末は、そのuコードを受信して現在地やモノを識別し、そのときに適切な情報が、情報端末の画面及びヘッドホンを通じて、静止画・動画・音声またはテキストにより提供される、という仕組みとなっている。

2 システムの機能概要

- ・通路や展示室の出入口エリアをカバーした赤外線を端末が受信すると、順路及び展示室名が自動的に案内される。
- ・画面メニューに触れると、展示室情報や現在地、作家・作品の解説、美術館情報などのコンテンツを選択取得することができる。
- ・RFIDタグを端末が受信すると、端末の画面がアンケート用に切り替わる。
- ・回答したアンケート内容は無線LANによってサーバに送信される。

3 システム仕様等

- ・ヘッドホン付情報端末：50台（予備含む）
- ・赤外線マーカ設置数（uコード）：70ヶ所

資料

広聴

入館者数

運営予算・決算

組織

関係規程等

施設設備概要

広聴

青森県立美術館運営諮問会議

青森県立美術館の使命に基づく運営の実現に向けて、芸術文化に造詣のある者から指導及び協力を受けるため設置。

知事の諮問に応じて美術館の運営に関する重要事項について審議し、意見を述べるほか、美術館の運営に関する助言を行う。

青森県立美術館運営諮問会議委員：青木淳氏（県立美術館設計者）、奈良美智氏（本県出身アーティスト）、熊倉純子氏（東京芸術大学音楽学部准教授）

会議開催状況：

・第10回

開催日：平成23年3月22日（火）

会場：都道府県会館（東京都千代田区）

※ 上記の日程で会議を開催する予定であったが、平成23年3月11日に発生した東日本大震災の影響により会議の開催を中止した。

県民のための美術館づくり懇話会

県民に親しまれ、愛される美術館づくりを推進するため、県民の意見・要望を美術館づくりに反映させることを目的に設置。

平成22年度

懇話会委員：

座長：一町田工（三内丸山応援隊長）

副座長：村山康子（十和田市現代美術館前館長）

委員：中村泰子（三内西小学校長）

委員：毛内秀登（立佞武多の館館長）

委員：野坂佳孝（十和田市立法奥小学校教諭）

委員：大黒亜紗子（はちえきキャンパスin 八日町スタッフ）

委員：増田由美子（フリーアナウンサー）

委員：成田英久範（青森県立美術館サポートスタッフ）

委員：鷹山ひばり（青森県立美術館館長）

開催状況

・第1回

開催日：平成22年11月22日（月）

会場：青森県立美術館

・第2回

開催日：平成22年3月13日（日）

会場：青森県立美術館

※ 第2回会議は、上記の日程で会議を開催する予定であったが、平成23年3月11日に発生した東日本大震災の影響により会議の開催を中止した。

入館者数

(単位：人)

		18年度	19年度	20年度	21年度①	22年度②	増減(②-①)
常設展	一般観覧者	193,501	89,229	109,609	190,672	233,192	42,520
	スクールプログラム	12,685	6,968	6,668	9,098	11,574	2,476
	常設展計	206,186	96,197	116,277	199,770	244,766	44,996
企画展	シャガール展	192,918					
	縄文と現代展	14,894					
	工藤甲人展	1,680	10,950				
	旅順博物館展		30,065				
	舞台芸術の世界展		6,282				
	棟方志功・崔榮林展		4,156				
	寺山修司展			9,533			
	大ナボレオン展			46,609			
	小島一郎展			8,660			
	ウィーン展				36,884		
	(特別展 太宰治と美術展)				23,191		
	馬場のぼる展				25,464		
	ラブラブショー				5,160		
	ローマ展					45,622	
	ロボット展					25,076	
芸術の青森展					3,530		
企画展計	209,492	51,453	64,802	67,508	74,228	6,720	
教育普及	スクールプログラム	18,775	9,905	9,242	7,087	7,272	185
	普及プログラム	2,300	2,148	2,873	886	718	△168
	お出かけ講座	1,196	1,587	1,122	1,119	537	△582
	展示関係プログラム			625	1,526	7,546	6,020
	その他	500		464	266	399	133
	教育普及計	22,771	13,640	14,326	10,884	16,472	5,588
パフォーマンスアート	演劇	2,170	1,821	1,516	1,333	1,085	△248
	ダンス			1,419	1,089	520	△569
	音楽	1,559	471	1,583	1,959	970	△989
	映画	975	1,954	1,584	685	0	△685
	パフォーマンスアート計	4,704	4,246	6,102	5,066	2,575	△2,491
貸館	10,568	26,481	194,807	104,625	144,520	39,895	
図書館	2,552	7,727	12,910	10,012	7,864	△2,148	
キッズルーム		2,850	3,690	3,127	3,555	428	
合 計		456,273	202,594	412,914	400,992	493,980	92,988

※ キッズルームは平成19年4月28日からオープン

※ 特別展太宰治と美術展入館者数は常設展入館者数に含む

運営予算・決算

平成22年度 一般会計予算額

(単位：千円)

事業名	収入	科目	支出	細目	説明
美術館費	42,701	使用料及び手数料	174,930	職員費	人件費
	3,295	財産収入		美術館運営管理費	管理運営費、調査研究費、美術資料収集費、美術資料保存管理費、展示費、教育普及費、情報事業費、パフォーマンスアーツ事業費 他
	71,845	繰入金	486,172		
	67,937	諸収入		公園管理費	青森県総合運動公園管理費、芸術パーク管理費
	498,462	一般財源	23,138		
合計	684,240		684,240		

平成22年度 一般会計決算額

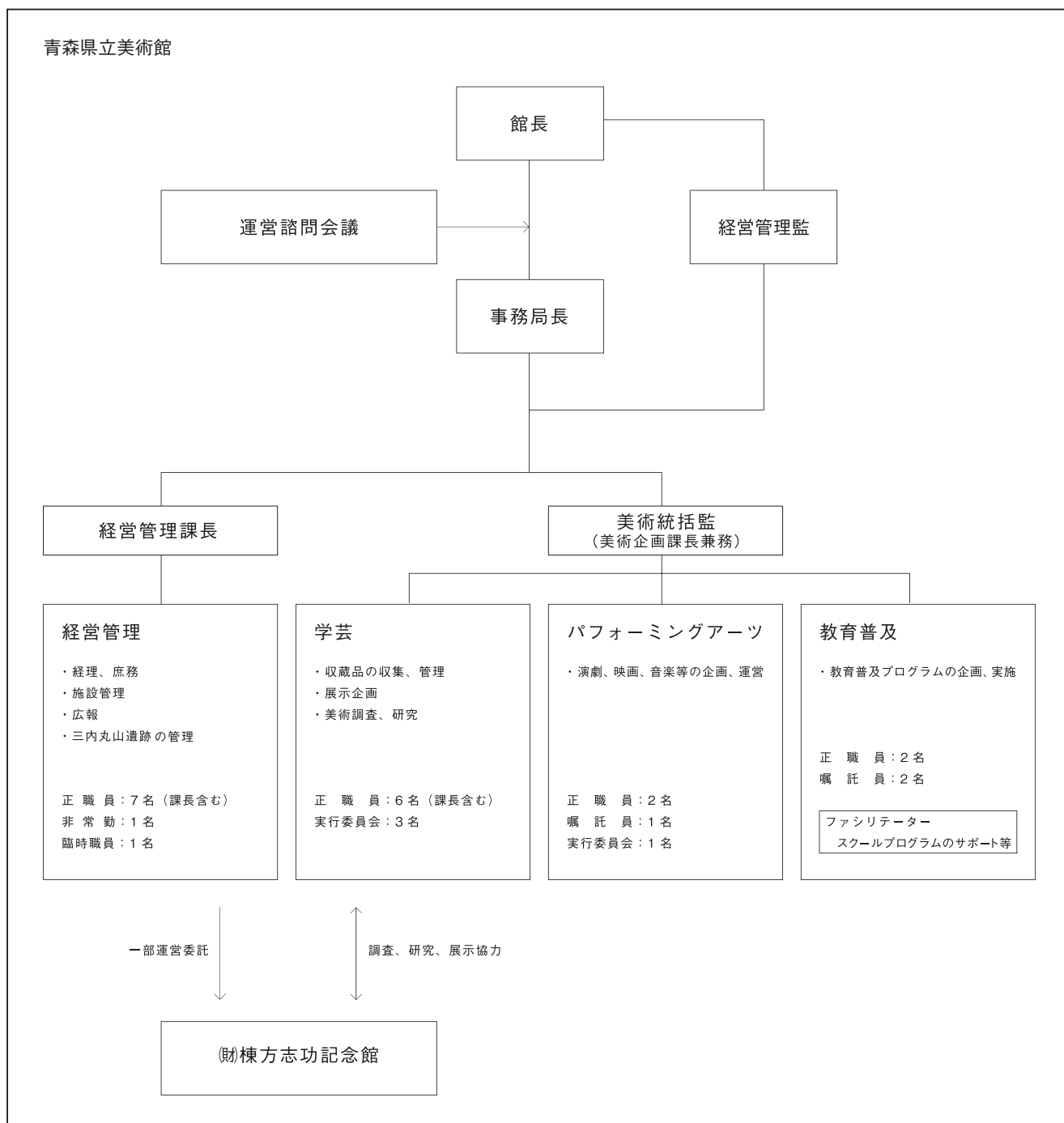
(単位：千円)

事業名	収入	科目	支出	細目	説明
美術館費	41,557	使用料及び手数料	174,541	職員費	人件費
	3,295	財産収入		美術館運営管理費	管理運営費、調査研究費、美術資料収集費、美術資料保存管理費、展示費、教育普及費、情報事業費、パフォーマンスアーツ事業費 他
	70,514	繰入金	477,006		
	68,726	諸収入		公園管理費	青森県総合運動公園管理費、芸術パーク管理費
	487,399	一般財源	19,944		
合計	671,491		671,491		

組織

- 県立美術館の運営は、運営諮問会議からの助言を得ながら行っている。
- 文化観光の拠点形成を図る観点から、三内丸山遺跡（縄文時遊館を除く）との一体運営を行っている。
- このために館長の下、特別職の経営管理監、県職員18人、嘱託員及び臨時職員5人の計25人が美術館運営にあたっている。このほか、企画展実行委員会職員3名、パフォーミングアーツ部門の実行委員会職員1名が配置されている。

(平成22年4月2日現在)



関係規程等

青森県立美術館条例

(設置)

第一条 美術その他の芸術の鑑賞及び学習の機会並びに創作活動の場の提供を行うことにより、県民の芸術に関する活動への参画を支援し、もって文化の振興を図るため、青森市に青森県立美術館（以下「美術館」という。）を設置する。

(業務)

第二条 美術館は、次に掲げる業務を行う。

- 一 美術品その他の芸術に関する資料（以下「美術品等」という。）の収集、保管及び展示に関すること。
- 二 美術品等の利用に関し必要な説明、助言及び指導に関すること。
- 三 美術品等に関する専門的、技術的な調査研究に関すること。
- 四 美術品等に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等の作成及び配布に関すること。
- 五 美術その他の芸術に関する講演会、講習会、映写会、研究会、公演会等の開催に関すること。
- 六 美術その他の芸術に関する情報の収集及び提供に関すること。
- 七 美術その他の芸術に関する創作活動の場の提供に関すること。
- 八 その他県民の芸術に関する活動への参画を支援するために必要な業務

(使用の承認)

第三条 別表第二号又は第三号に掲げる場合において、美術館の施設を使用しようとする者は、知事の承認を受けなければならない。

(使用料)

第四条 美術館の施設を使用する者（以下「使用者」という。）は、別表に定める使用料を納入しなければならない。

2 知事は、特別の理由があると認めるときは、前項の使用料の全部又は一部を免除することができる。

(使用の制限等)

第五条 知事は、使用者が次の各号のいずれかに該当する場合は、当該使用者の美術館の使用を拒み、その使用の承認を取り消し、又はその使用を制限することができる。

- 一 他の使用者に迷惑をかけ、又はそのおそれがあるとき。
- 二 美術館の施設、設備等をき損し、若しくは汚損し、又はそれらのおそれがあるとき。
- 三 この条例又はこの条例に基づく規則に違反したとき。

2 知事は、前項に規定する場合のほか、美術館の管理運営上支障があると認めるときは、美術館の使用を制限することができる。

(委任)

第六条 この条例に定めるもののほか、美術館の管理に関し必要な事項は、規則で定める。

附則

この条例は、規則で定める日から施行する。

別表（第三条、第四条関係）

一 美術品等の観覧のための使用の場合

区分	金額（一回につき）
常設展の観覧	一人につき 千円を超えない範囲内で知事が定める額
企画展の観覧	知事がその都度定める額

二 展示施設の使用の場合

イ 入場料その他これに類する料金を徴収しないで使用する場合

区分	九時三十分から 十二時まで	十三時から 十七時まで	九時三十分以前、 十二時から十三時 まで及び十七時以降 (一時間につき)
コミュニティギャラリーA	二千三百円	三千四百円	八百五十円
コミュニティギャラリーB	八百八十円	千四百円	三百五十円
コミュニティギャラリーC	千八百八十円	三千円	七百五十円
展示室A	二千五百円	四千円	千円
展示室B	二千円	三千二百円	八百円
展示室C	五千五百円	八千八百円	二千二百円
展示室D	三千二百五十円	五千二百円	千三百円
展示室E	千五百円	二千四百円	六百円
映像室	千円	千六百円	四百円

ロ 入場料その他これに類する料金を徴収して使用する場合 イの場合の使用料の額の二倍に相当する額

三 シアター等の使用の場合

イ 入場料その他これに類する料金を徴収しないで使用する場合

区分	金額（一時間につき）
シアター	二千四百円
映写室	二百六十円
アナウンスブース	五十円
ワークショップA	九百円
ワークショップB	千三百円
暗室	百六十円
スタジオ	七百二十円
映像編集室	百八十円
スタジオ映写室	二百十円

ロ 入場料その他これに類する料金を徴収して使用する場合 イの場合の使用料の額の二倍に相当する額

四 食堂施設又は売店施設の使用の場合

知事が定める額

青森県告示第 五百二十五 号

青森県立美術館条例（平成十七年十月青森県条例第六十九号）別表第四号の規定により、青森県立美術館の食堂施設及び売店施設の使用料の額を次のとおり定める。

平成十八年七月十二日

青森県知事 三村申吾

区分	金額（一年につき）
食堂施設	八十三万四千八百円
売店施設	六十六万五千六百円

備考 使用期間が一年に満たないとき、又は使用期間に一年に満たない端数があるときは、その全期間又は端数部分について日割で計算する。

青森県立美術館規則

（趣旨）

第一条 この規則は、青森県立美術館条例（平成十七年十月青森県条例第六十九号。以下「条例」という。）第六条の規定に基づき、青森県立美術館（以下「美術館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

（開館時間）

第二条 美術館の開館時間は、午前九時三十分から午後五時まで（六月一日から九月三十日までの期間にあっては、午前九時から午後六時まで）とする。

2 美術館の事務局長は（以下「事務局長」という。）は、必要があると認めるときは、前項の開館時間を変更することができる。

（休館日等）

第三条 美術館の休館日は、次のとおりとする。

一 毎月第二、第四月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和二十三年法律第七十八号）に規定する休日にあたるときは、その翌日）

二 十二月二十七日から同月三十一日までの日

2 事務局長は、必要があると認めるときは、前項の休館日に開館し、又は同項の休館日以外に休館することができる。

（使用の承認の手続）

第四条 条例第三条の規定による使用の承認（以下「使用の承認」という。）を受けようとする者は、使用申込書を知事に提出しなければならない。

2 知事は、使用の承認をしたときは、当該申込者に使用承認書を交付するものとする。

（使用料の免除の申請）

第五条 条例第四条第二項の規定による使用料の免除を受けようとする者は、免除申請書を知事に提出しなければならない。

（使用の承認の取消し等）

第六条 事務局長は、美術館を使用する者（以下「使用者」という。）が不正な手段により使用の承認を受けたと認めるときは、その使用の承認を取り消し、又はその使用を制限する

ことができる。

（原状回復等）

第七条 使用者は、故意又は重大な過失により美術館の施設、設備、美術品その他の芸術に関する資料等をき損し、又は汚損したときは、原状に復し、又は現品若しくはそれに相当する代価をもって弁償しなければならない。

附則

この規則は、平成十八年七月十三日から施行する。

青森県立美術館管理規程

（趣旨）

第1条 この規程は、青森県立美術館条例（平成17年10月青森県条例第69号。以下「条例」という。）及び青森県立美術館規則（平成18年7月青森県規則第72号。以下「規則」という。）に定めるもののほか、青森県立美術館（以下「美術館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

（観覧券の交付）

第2条 条例別表第1号に定める使用料を納入した者に対し、観覧券を交付するものとする。

（使用の承認）

第3条 規則第4条第1項に規定する使用申込書の様式は、第1号様式とする。

2 規則第4条第2項に規定する使用承認書の様式は、第2号様式とする。

3 規則第4条に規定する使用承認の手続きに関し必要な事項は、事務局長が別に定める。

（使用料の納付）

第4条 使用の許可を受けた者は、納入通知書により指定する日までに使用料を納入しなければならない。

（使用料の還付）

第5条 納付された使用料は、還付しない。ただし、天災その他利用者の責めによらない理由により美術館を使用できなくなった場合は、この限りではない。

2 前項ただし書きにより使用料の還付を受けようとする者は、使用料還付請求書（第3号様式）を事務局長に提出しなければならない。

（使用料等の免除）

第6条 事務局長は、条例別表第1号に規定する常設展の観覧が次の各号のいずれかに該当するときは、規則第5条の規定により使用料の全部又は一部を免除するものとし、その免除の額は、当該各号に定める額とする。

一 教育課程に基づく学習活動として観覧する小学校、中学校、中等教育学校前期課程及び特殊教育諸学校の児童、生徒及び引率する教職員が観覧するとき 使用料の全部の額

二 児童福祉法（昭和22年法律第164号）第7条に規定する児童福祉施設に入所している少年及び引率する当該施設の職員が観覧するとき 使用料の全部の額

三 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条

第4項の規定による身体障害者手帳の交付を受けている者及びその付添人が観覧するとき（ただし、免除する付添人は、当該障害者一人につき一人までとする。）使用料の全部の額

四 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律123号）第45条第2項の規定による精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者、療育手帳の交付を受けている知的障害者及びこれらの付添人が観覧するとき（ただし、免除する付添人は、当該障害者一人につき一人までとする。）

使用料の全部の額

五 前各号に掲げるもののほか、事務局長が特別の理由があると認めるとき 使用料の全部の額又は一部の額

2 前項第1号、第2号及び第5号に規定する常設展の使用料の免除を受けようとする者は、常設展の観覧使用料免除申請書（第4号様式）を事務局長に提出しなければならない。

3 事務局長は、条例別表第2号又は第3号に掲げる施設の使用が美術館の目的にふさわしい資料展示、講習会、研究会等のためであり、かつ、次の各号のいずれかに該当するときは使用料の全部又は一部を免除するものとし、その免除の額は、当該各号に定める額とする。

一 学校教育法（昭和22年法律26号）第1条に規定する学校が教育課程に基づく学習活動として使用するとき 使用料の全部の額

二 児童福祉法（昭和22年法律第164号）第7条に規定する児童福祉施設に入所している少年を対象とする事業に使用するとき 使用料の全部の額

三 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条第4項の規定による身体障害者手帳の交付を受けている者及びその付添人を対象とする事業に使用するとき 使用料の全部の額

四 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律123号）第45条第2項の規定による精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者及び療育手帳の交付を受けている知的障害者とこれらの付添人を対象とする事業に使用するとき 使用料の全部の額

五 美術館を構成員とする実行委員会等が主催して使用するとき 事務局長が事案に即して相当と認める額又は使用料の全額

六 芸術の振興を目的として活動している団体が主体となつて、美術館と共催し使用するとき 使用料の2分の1に相当する額を基本として事務局長が事案に即して相当と認める額

七 前各号に掲げる場合のほか、事務局長が特別の理由があると認めるとき 事務局長が定める額

4 前項に規定する施設の使用料の免除を受けようとする者は、施設使用料免除申請書（第5号様式）を事務局長に提出しなければならない。

（美術品等の貸出）

第7条 事務局長は、別に定めるところにより美術館の資料を貸し出すことができる。

（美術品等の寄託又は寄贈）

第8条 事務局長は、別に定めるところにより美術資料の寄託又は寄贈を受けることができる。

（美術資料の特別観覧）

第9条 事務局長は、美術館に収蔵されている美術資料について学術研究等のために必要があると認めるときは、当該美術資料の模写、模造、撮影等（以下「特別観覧」という。）をさせることができる。

2 前項に規定する特別観覧をしようとする者は、特別観覧承認申請書（第6号様式）を事務局長に提出しなければならない。

附則

この規程は、平成18年7月13日から施行する。

この規程は、平成19年6月25日から施行する。

青森県立美術館運営諮問会議設置要綱

（趣旨）

第1 青森県立美術館（以下「美術館」という。）の使命に基づく運営の実現に向けて、芸術文化に造詣のある者から指導及び協力を受けるため、青森県立美術館運営諮問会議（以下「諮問会議」という。）を置く。

（所掌事務）

第2 諮問会議は、次に掲げる事項を所掌する。

（1）青森県立美術館長（以下「館長」という。）の諮問に応じて、美術館の運営に関する重要事項について審議し、意見を述べること。

（2）その他美術館の運営に関して助言を行うこと。

（組織等）

第3 諮問会議は、委員をもって組織する。

2 委員は、所掌事務に関して学識経験を有する者その他適当と認められる者から知事が委嘱する。

（任期）

第4 委員の任期は、委嘱をした日から当該委嘱をした日の属する年度の翌年度の3月31日までとする。ただし、委員が欠けた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任することができる。

（会議）

第5 諮問会議は、館長が招集する。

2 館長は、諮問会議の議長となり、会議を主宰する。

3 館長は、必要に応じて委員以外の者を会議に出席させ、意見を求めることができる。

（庶務）

第6 諮問会議の庶務は、青森県立美術館経営管理課において処理する。

（その他）

第7 この要綱に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項は、議長が別に定める。

附則

1 この要綱は、平成17年12月1日から施行する。

- 2 第4 第1 項の規定にかかわらず、当初の委員の任期は、
委嘱をした日から平成19 年3 月31 日までとする。

附則

この要綱は、平成21 年10 月1 日から施行する。

この要綱は、平成23 年4 月1 日から施行する。

県民のための美術館づくり懇話会設置要綱

(趣 旨)

第1 県民に親しまれ、愛される美術館づくりを推進するため、
県民の意見・要望を美術館づくりに反映させることを目的と
し、県民のための美術館づくり懇話会（以下、「懇話会」と
いう。）を設置する。

(構 成)

第2 懇話会は、10 名以内の委員をもって構成する。

(任 期)

第3 委員の任期は、年度最初の懇話会開催から1 年とする。
ただし、再任を妨げない。

(会 議)

第4 懇話会には、座長及び副座長を置く。

2 懇話会は、座長が招集する。

3 座長は、会議の進行を行う。

4 副座長は、座長を補佐し、座長が会議に出席できないとき
は、座長の職務を代理する。

5 座長は、必要に応じ委員以外の者を出席させることができ
る。

(報酬等)

第5 委員の報酬は無償とする。

(庶 務)

第6 会議の庶務は、青森県立美術館が行う。

(補 則)

第7 この要綱に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な
事項は、座長が別に定める。

附則

この要綱は、平成19 年9 月13 日から施行する。

施設設備概要

建設概要

施設名称 青森県立美術館
所在地 青森市大字安田字近野185
主用途 美術館
事業主体 青森県
設計管理 青木淳建築計画事務所
構造 金箱構造設計事務所
設備 森村設計
音響 永田音響設計
土系素材 I N A X
施 工 竹中・西松・奥村・北斗特定建設工事共同企業体
強電 きんでん・五十嵐・野呂特定建設工事共同企業体
弱電 奈良・高田特定建設工事共同企業体
空調 高砂・青木・佐藤設備特定建設工事共同企業体
衛生 芝管・五戸特定建設工事共同企業体
昇降機 三菱電機株式会社
面 積 敷地面積：129,536.37 m²
 建築面積：7,223.07 m²
 延床面積：21,222.19 m²
 地下2階：4,736.15 m²
 地下1階：3,965.11 m²
 1階：5,339.02 m²
 2階：2,403.81 m²
 3階（機械エリア）：4,778.10 m²
 建ぺい率：5.58%
 容積率：16.38%
階 数 地下2階 地上3階
寸 法 最高高：16,160mm
 軒高：15,150mm
 階高：地下2階 2,300 - 19,000mm
 地下1階 2,500 - 7,500mm
 1階 2,700 - 11,000mm
 2階 2,500 - 4,000mm
 主なスパン：3,000mm×3,000mm
地域・地区 都市計画区域内 市街化区域
構 造 鉄骨鉄筋コンクリート造（地下1・2階）
 鉄骨造（地上1 - 3階）
 杭・基礎：杭基礎（PHC-ST 杭）600φ・700φ、
 （PHC 杭）600φ

空調設備 A H U ・定風量単一ダクト方式、一部F C U、
 空冷パッケージ方式
 熱源：冷温水発生機（320USRt、280USRt）、
 加湿用蒸気ボイラ
照明設備 スポットライト及び蛍光灯（調光設備・紫外線
 カット付）
消火設備 屋内消火栓、スプリンクラー、不活性ガス（窒
 素）消火、加圧式粉末ABC 消火器
 設備項目：自火報・防排煙設備、屋内消火栓設備、
 スプリンクラー設備（開放型、予作
 動型）、窒素ガス消火設備（一部展
 示室、収蔵庫、熱源機械室）
排煙設備 機械排煙設備（3系統）
防犯設備 開館時、常時警備員巡回。展覧会開催中は会場
 内に監視員を置く。展示室内には監視カメラを
 設置し、監視室にて監視。
衛生設備 給水：受水槽（4t）+加圧給水ポンプユニ
 ト方式
 給湯：局所式（電気温水器）、ガス湯沸器（厨房）
 排水：ポンプアップ排水
電気設備 受電方式：高圧電力3φ3W 6,600V 1回
 線受電（業務用電力+融雪電力）
 設備容量：2,650kVA
 契約電力：660kW
 予備電源：非常用発電設備500kVA、直流電
 源設備（非常照明用）
 設備項目：受変電設備、自家発電設備、幹線設
 備、動力設備、電灯設備、展示調光
 設備、避雷設備、外構設備、電話設備、
 情報設備、インターホン設備、誘導
 支援設備、テレビ共同受信設備、監
 視カメラ設備、機械警備設備、放送
 設備、中央監視設備、外構設備、演
 出照明設備（シアター、スタジオ）、
 演出音響設備、映写設備（シアター）
昇 降 機 荷物用エレベータ1台 乗用エレベータ8台
設計期間 1999年12月 - 2002年3月
施工期間 2002年12月 - 2005年9月
外部仕上げ 屋根：ウレタン塗膜防水
 外壁：煉瓦+アクリルシリコン塗装
 外構：コンクリート舗装ほうき目仕上げ

内部仕上げ

展示室（白）

床：カラーモルタル金こて押え $t=20\text{mm}$ + 防
塵防汚塗装

壁：合板 $t=15\text{mm} \times 2$ + プラスターボード
 $t=12\text{mm}$ + 全面寒冷紗パテ処理 + EP

天井：合板 $t=12\text{mm}$ + プラスターボード
 $t=9\text{mm}$ + EP

展示室（土）

床：タタキ $t=50\text{mm}$

壁：版築 $t=200\text{mm}$

天井：合板 $t=12\text{mm}$ + プラスターボード
 $t=9\text{mm}$ + EP

コミュニティホール

床：クリフローリング $t=15\text{mm}$

壁：プラスターボード $12\text{mm} \times 2$ + スタック

天井：人工木材ローズウッド練り付け
シアター

床：フェルト $t=8\text{mm}$ + カーベット $t=7\text{mm}$

壁：プラスターボード $t=15\text{mm}$ + グラスウー
ルボード + エキスパンダメタル $t=6\text{mm}$
(樹脂コーティング処理)

天井：グラスウール + プラスターボード
 $t=15\text{mm}$ + エキスパンダメタル $t=6\text{mm}$
(樹脂コーティング処理)

オフィス

床：システム根太ユニット $600\text{mm} \times 600\text{mm}$
+ コンパネ $t=12\text{mm}$ + クリフローリング
 $t=15\text{mm}$

壁：プラスターボード $t=12\text{mm} \times 2$ + EP

天井：プラスターボード $t=12\text{mm}$ + 吸音板
 $t=12\text{mm}$ + EP

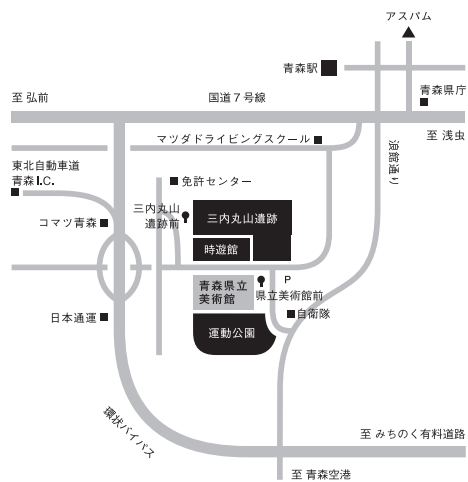
アクセス

JR 青森駅から車で約20分

青森空港から車で約20分

東北縦貫自動車道青森ICから車で約5分

市営バス青森駅前2番バス停から免許センター行き
「県立美術館前」下車（所要時間約20分）



青森県立美術館年報

平成22年度

編集・発行：青森県立美術館

青森市安田字近野185 038-0021

017-783-3000

表紙デザイン：菊地敦己

印刷：青森オフセット印刷株式会社

発行日：2011年12月